



公立大学法人

福島県立医科大学

医療人育成・支援センター

■ B i e n n i a l R e p o r t

年報 2016 ▶ 2017年度



C enter for M edical E ducation and

C areer D evelopment

目 次

| | | |
|--|-----------------------------|----------|
| 1. 挨拶 | 医療人育成・支援センター長 大谷 晃司 | 1 |
| 2. スタッフ紹介 | | 5 |
| 3. 各部門の取組 | | |
| 1) 医学教育部門 | 部門長 亀岡 (色摩) 弥生 | 11 |
| ・活動カレンダー | | |
| ・Faculty Development (FD) / 福島医大模擬患者 (SP) の会 / 出前講座 / 学校見学 / オープンキャンパス / BSLプライマリーコースの臨床実習プログラム / オーディエンス・レスポンス・システム～ターニングポイントの活用 / スキルラボ / OSCE / コミュニケーション論 / 地域実習 I / 早期ポリクリニック | | |
| 2) 臨床医学教育研修部門 | 部門長 大谷 晃司 | 43 |
| ・活動カレンダー | | |
| ・5年生との未来を語る会 / 研修医説明会 / ネットワークの活動 / 福島・良き医師を育むプロジェクト / 臨床指導医講習会 / 臨床研修医に対する支援・教育 / 福島県地域医療を考える懇談会 / 修学資金生・自治医科大学学生との合同セミナー / ステップ・アップ・セミナー | | |
| 3) 看護学教育研修部門 | 部門長 高橋 香子 | 83 |
| ・活動カレンダー | | |
| ・看護学部生を対象とした就職ガイダンス / 看護職を対象とした教育研修会 | | |
| 4) 災害医療総合学習センター | センター長 大津留 晶 副センター長 熊谷 敦史 | 93 94 |
| ・活動カレンダー | | |
| ・BSL / 学生のための福島災害医療セミナー / 海外の医科大学学生のためのセミナー / 福島災害医療体験 (鹿児島大、長崎大) / 福島災害医療セミナー / 放射線災害eラーニング / ベラルーシ共和国の医科大学との連携 | | |
| 4. 研究業績 | | 115 |

1. 挨 拶



医療人育成・支援センター長あいさつ

公立大学法人 福島県立医科大学
医療人育成・支援センター センター長
大 谷 晃 司



皆様には平素より医療人育成・支援センターへ多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。当センターは、2008年4月に設立され、早10年の月日が経ちました。このたび、最近の2年間の私どもの足取りをまとめ年報を発行することとなりました。お世話になっている皆様からの声をもとに更なる発展の糧とさせていただきたいと思っておりますので、ご覧いただき忌憚ないご意見を賜われれば幸いです。

当初、医学教育部門、臨床医学教育研修部門の2部門で設立されました本センターですが、時間の経過と共に、組織が大きくなり、現在では、先の2部門に加え、看護学教育研修部門、災害医療総合学習センターを合わせた4部門よりなっております。組織が大きくなるとともに、当センターに求められる内容もセンター設立時には全く想定されていなかった内容となってきました。ここ2年の活動内容等については、各部門の項をご覧くださいければと思います。

センターの今後の向かうところとしては、1) 医学部教育の改革の先導／推進役、2) 2021年4月の新医療系学部設立を念頭に置いた学部横断的な合同授業開催、3) 東日本大震災・原発事故問題発生10年を踏まえた今後の活動の展開、4) 福島県内の医療人定着と質の向上に資する活動の強化、等々、様々な課題に対応していかねばなりません。

当センターは、少しでも福島医大、あるいは福島県で学んだことを誇りに思い、医師や看護師として自らを律しながら生涯たゆまぬ努力を続け、勉強していく医療人を育成することができる組織であることを目指していきます。今後とも、皆様方のご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

平成31年1月15日

2. スタッフ紹介



1) スタッフ紹介

センター長

| | | |
|--------|-------|-----------------|
| (兼) 教授 | 橋本 康弘 | 2016年4月～2017年1月 |
| 教授 | 大谷 晃司 | 2017年2月～ |

○医学教育部門

| | | | |
|-----|--------|-------|-------------------|
| 部門長 | 教授 | 亀岡 弥生 | 2015年4月～ |
| 教員 | 准教授 | 石川 和信 | 2008年5月～2016年10月 |
| | (兼) 助教 | 長井 俊彦 | 2011年4月～2017年3月 |
| | 助教 | 小林 元 | 2008年10月～2016年10月 |
| | 助手 | 諸井 陽子 | 2010年4月～ |
| | 助手 | 菅原亜紀子 | 2009年4月～ |
| | 助手 | 土屋垣内晶 | 2016年4月～2018年3月 |
| | (兼) 助手 | 安井 清孝 | 2017年4月～ |
| | 助手 | 千葉 靖子 | 2017年5月～ |

○臨床医学教育研修部門

| | | | |
|------|--------|-------|-----------------|
| 部門長 | 教授 | 大谷 晃司 | 2008年5月～ |
| 副部門長 | (兼) 教授 | 濱口 杉大 | 2016年10月～ |
| 副部門長 | (兼) 教授 | 木村 隆 | 2017年1月～ |
| 教員 | 講師 | 坂本 信雄 | 2017年4月～ |
| | (兼) 助教 | 高野 真澄 | 2015年4月～ |
| | 助教 | 日高亜紀子 | 2017年11月～ |
| | 助教 | 唐 尊一 | 2018年3月～ |
| | 助手 | 安井 清孝 | 2012年4月～2017年3月 |
| | 助手 | 安田 恵 | 2016年4月～2018年3月 |
| | 助手 | 刑部 有祐 | 2016年4月～2018年3月 |
| | 助手 | 中島 大 | 2016年4月～2018年3月 |

○看護学教育研修部門

| | | | |
|-----|--------|-------|-----------------|
| 部門長 | (兼) 教授 | 坂本 祐子 | 2016年4月～2016年7月 |
| 部門長 | (兼) 教授 | 高橋 香子 | 2016年7月～2018年3月 |
| 教員 | (兼) 教授 | 坂本 祐子 | 2017年5月～2018年3月 |

○災害医療総合学習センター

| | | | |
|--------|--------|-------|-----------------|
| センター長 | (兼) 教授 | 大津留 晶 | 2014年4月～ |
| 副センター長 | 講師 | 熊谷 敦史 | 2012年4月～ |
| | 助手 | 宮谷 理恵 | 2016年4月～2017年3月 |
| | 助手 | 安井 清孝 | 2017年4月～ |
| | (兼) 助手 | 千葉 靖子 | 2017年5月～ |

○事務局

| | | | |
|---------------|--|----------|------------------|
| (兼)教育研修支援課長 | | 橋本 雅之 | 2015年4月～2018年3月 |
| (兼)主幹兼副課長(総務) | | 大橋 英樹 | 2015年4月～2018年3月 |
| (兼)副課長(業務) | | 五十嵐 睦 | 2016年4月～ |
| (兼)主任主査兼係長 | | 小林 秀樹 | 2014年4月～2017年3月 |
| (兼)係長 | | 児島 学 | 2017年4月～ |
| (兼)主任主査兼係長 | | 氏家 渉 | 2016年4月～ |
| (兼)係長 | | 箭内 桃子 | 2016年4月～ |
| (兼)主任主査兼係長 | | 吉田 克己 | 2016年4月～ |
| (兼)主事 | | 菅野 貴仁 | 2015年4月～2018年3月 |
| (兼)主事 | | 吉田 尚人 | 2017年4月～ |
| (兼)主事 | | 二階堂梨恵 | 2016年4月～ |
| (兼)主事 | | 大内 絵理 | 2014年4月～2018年3月 |
| (兼)主事 | | 石井 美紀 | 2015年4月～2018年3月 |
| (兼)主事 | | 石井 晃平 | 2017年4月～ |
| (兼)主事 | | 山川 晴美 | 2015年4月～2016年12月 |
| (兼)主事 | | 加藤 倫子 | 2016年4月～2017年3月 |
| (兼)主事(准) | | 中村 玲菜 | 2012年4月～ |
| (兼)主事(准) | | 佐藤(氏家)千裕 | 2011年7月～2016年6月 |
| (兼)主事(准) | | 佐藤 千裕 | 2017年4月～ |
| (兼)主事(准) | | 高木 和子 | 2017年4月～ |
| (兼)主事(准) | | 菅野 祐樹 | 2015年12月～ |
| (兼)主事(准) | | 紺野 明美 | 2016年9月～ |
| (兼)主事(准) | | 齋藤 洋介 | 2017年4月～ |
| (兼)主事(准) | | 高橋久美子 | 2008年4月～2017年1月 |
| (兼)主事(准) | | 山下久美子 | 2016年4月～2017年3月 |
| (兼)主事(准) | | 佐藤 晴美 | 2016年11月～ |
| (兼)主事(准) | | 鈴木佐和子 | 2017年2月～2018年3月 |
| (兼)主事(短) | | 柏倉咲七枝 | 2012年4月～ |
| (兼)主事(短) | | 宮口 和子 | 2017年4月～2018年3月 |

3. 各部門の取組



1) 医学教育部門



医学教育部門長挨拶

医学教育部門長 亀岡(色摩) 弥生

現在福島医大は、教育改革に邁進しています。分野別認証受審は本学の教育を見直す絶好の契機です。認証で求められる最大のパラダイムシフトは、教育に対する大学の責務です。従来は教えるべきことを教えてペーパーテストで学生の知識が確認できれば教育の責務を果たしたと考えられてきましたが、これから大学は卒業生が身に着けた医師としての「知識」「技能」「態度」に説明責任を負います。「アウトカム基盤型教育」の考え方です。本学は既に卒業の基準を diploma policy という形で掲げ、卒業時に身につけているべき専門家としての能力“コンピテンシー”を定めました。そしてコンピテンシーに到達するまでのカリキュラムとシラバスの見直しを、今進められています。

医学教育部門は、このパラダイムシフトをFDを通して教職員に伝え浸透させる傍ら、臨床実習後OSCEの実施、教育課題の抽出、新しいアクティブラーニング授業TBLの導入、プロフェッショナルリズム醸成のための早期ポリクリ、地域実習1（福祉体験）、コミュニケーション授業の再構築を行ってまいりました。もちろんスキルラボやSP会の運営も継続しています。平成29年4月には、旧4階西病棟に「スキルラボ・きぼう棟」が開設され、そこにスキルラボ・アドバンスの主なシミュレータが常設されるようになりました。新規SPさんの募集も行い、SPの会も少し大きくなりました。いずれも医学教育のアウトカムとしての「技能」や「態度」の重要性が高まる中、その教育環境を整えるために欠かせない職務です。

そして平成29年4月に、4号館3階の西端北側に「医学教育部門」の新しい執務室ができました。これまで学内に分散していた部門メンバーが集まりました。エレベーターホールを挟んだ同じ階には「臨床医学教育研修部門」の部屋があります。仕事の空間を共有することにより、説明せずともお互いが何に心砕いているのか日々見えるようになりました。この新しい執務環境で部門員一同、心を新たにして教育改革を進めてまいりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

2016年度

2016年

- 4月21日 学校見学 磐城高等学校
- 4月26日 第1回 SP 講習会 開講式、シナリオ練習「レントゲンは撮りたくない」
- 5月31日 第2回 SP 講習会 シナリオ練習「食べ物がつっかえる感じ」
- 6月7日 学校見学 福島成蹊中学校
- 6月14日 第3回 SP 講習会 シナリオ練習「物忘れが気になる」
- 7月2日 Advenced OSCE (医学部6年生)
- 7月6日 Advenced OSCE 反省会
- 7月11日 学校見学 福島県会津学鳳中学校
- 7月12日 第4回 SP 講習会 シナリオ練習「手のふるえが気になる」、おつかれさま会
- 7月16日 オープンキャンパス
- 9月2日 医学教育FD講習会
Team-based learning 兵庫医科大学の取組
講師：兵庫医科大学 医学教育センター 医学教育学 教授 成瀬 均 先生
- 9月10日 医学教育ワークショップ
『チーム基板型学習 (TBL) を体験しよう～TBL の手法で TBL を学ぶ～』
講師：兵庫医科大学 医学教育センター 医学教育学 教授 成瀬 均 先生
- 9月20日 第5回 SP 講習会 閉校式、シナリオ練習「だるさが取れない」
- 12月20日 共用試験 OSCE (医学部4年生)

2017年

- 2月6日 スキルラボ利用者協議会
- 2月27日 大学ブランド化FD講習会
- 3月13日 認知症VRセミナー

2017年度

2017年

- 5月9日 第1回 SP 講習会 アドバンス OSCE シナリオ練習会、講義「フィードバック」
- 5月17日 OSCE 全国説明会
- 6月6日 第2回 SP 講習会 OSCE シナリオ練習会、講義「高齢者と自動車運転」
- 6月12日 学校見学 福島成蹊中学校
- 6月20日 臨時 SP 講習会
- 6月28日 学校見学 郡山第二中学校
- 7月1日 Advenced OSCE (医学部6年生)
- 7月7日 学校見学 福島大学附属中学校

| | |
|--------|---|
| 7月15日 | オープンキャンパス |
| 7月18日 | 第3回 SP 講習会 OSCE 報告、医療面接実習、シナリオ練習会 |
| 8月7日 | 学校見学 磐城高等学校 |
| 8月29日 | 第4回 SP 講習会 医療面接実習、シナリオ練習会、おつかれさま会 |
| 9月2日 | 医学教育 FD ワークショップ 『TBL～実践に向け理解を深めよう～』 講師：兵庫医科大学 医学教育センター 医学教育学 教授 成瀬 均 先生 |
| 9月29日 | 地域実習 I 発表討論会 |
| 10月5日 | 学校見学 茨城県立日立第一高等学校 |
| 10月16日 | 第1回新規模擬患者養成講座 |
| 11月6日 | 第2回新規模擬患者養成講座 |
| 11月8日 | 医学教育ワークショップ『適切な客観問題の作成』 |
| 11月27日 | 第3回新規模擬患者養成講座 |
| 12月19日 | 共用試験 OSCE (医学部4年生) |
| 2018年 | |
| 1月16日 | 特別授業① (医学部1, 3, 4年生) 「医学生のためのプロフェッショナリズム講習会」 |
| 1月17日 | 特別授業② (医学部2年生) 「医学生のためのプロフェッショナリズム講習会」 |
| 1月31日 | 医学教育FD講習会 (ハラスメント委員会共催) 『本学の教育改革の「進捗と今後の方針」』 『医学生のアンプロフェッショナルな行動を防ぐための認識共有』 |
| 2月5日 | スキルラボ利用者協議会 |

FD (Faculty Development)

2016年度と2017年度の医学教育FDワークショップは、Team-based learning (TBL) をテーマとし、先行大学である兵庫医科大学から成瀬均教授を講師に招いて開催されました。「一歩前に行く人材を育成するための、学生・教員共に心躍らせる授業の構築」を目指し、2018年度からTBLという新しい形態のアクティブ・ラーニングを医学部4年生の「症候論」の授業に導入します。TBLは、一人の教員が大人数の学生を効果的に指導するために開発された授業形態で、予習を前提とし、授業時間はグループワークによる応用課題演習とそれに対するフィードバックから成る双方向性の授業です。知識の定着とモチベーションアップに高い効果を発揮すると言われています。

また、2016年は本学が臨床医学教育改革に乗り出した年であり、2017年は他大学の医学生や研修医のアンプロフェッショナルな行動が大きく報道された年でした。本学の臨床教育改革の進捗報告と医学生のアンプロフェッショナルな行動を防ぐための認識共有のためのFD講習会も開催しました。

2016年度

1) 医学教育FD講習会

テーマ Team-based learning 兵庫医科大学の取組

講師：兵庫医科大学 医学教育センター 教授 成瀬 均 先生

日時：2016年9月2日（金） 18：00～19：00

場所：講堂

内容：兵庫医科大学で行われているTBL（医学部授業でのTBL、兵庫医療大学の薬学・看護学・リハビリテーション学と合同で行うTBL）の紹介と、導入までの経緯とより良い運営方法

主催：医療人育成・支援センター 医学教育部門

参加人数：104名

2) 医学教育FDワークショップ

テーマ：①TBLがどんなものかまずは体験してみよう

②TBLリソースパーソン体験 TBLがどんなものかまずは体験してみよう

グループワーク：①予習資料+それに対応したRATと応用課題の作成

②他のグループが作成したRATと応用問題を解いてみる

講師：兵庫医科大学 医学教育センター教授 成瀬 均 先生

日時：2016年9月10日（土） 9：00～12：00

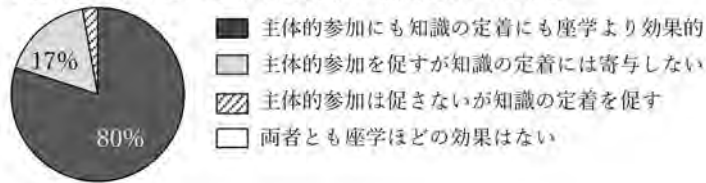
場所：8号館4階 S415

主催：医療人育成・支援センター 医学教育部門

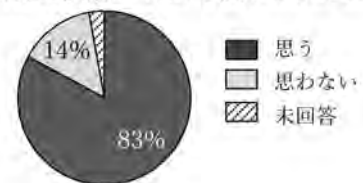
参加人数：35名

アンケート結果：

TBL は座学と比べて主体的参加と知識定着を促すか？



自身の授業に TBL を試してみたいと思うか？



2017年度

1) 医学教育 FD ワークショップ

テーマ：本学の学生に対して TBL 授業を試みる

グループワーク：TBL の特徴を踏まえて授業を企画する

講師：兵庫医科大学 医学教育センター 教授 成瀬 均 先生

模擬授業：地域・家庭医療学講座 講師 菅家 智史 先生 + 医学部 3～6 年生有志

日時：2017年 9 月 2 日（金） 9：00～16：00

場所：8 号館 4 階 S 415、8 号館 6 階 S 601

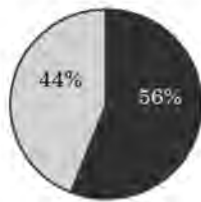
参加者数：教員 53 名、医学部 3 年生～6 年生有志 28 名

主催：医療人育成：支援センター 医学教育部門

アンケート結果：

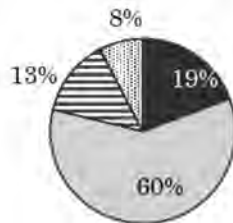
【学生アンケート】

また TBL 授業を受けてみたいですか？



【教員アンケート】

準備や運営を補助する人がいれば自分の専門領域について TBL 授業をやりたいと思いますか？



■ そう思う □ どちらかというと思う ≡ あまり思わない ▨ 思わない

【TBL 模擬授業風景】



2) 医学教育 FD 講習会

テーマ：(1)本学の教育改革の進捗と今後の方針を共有する

分野別認証受審に向けて教育改革を進め、既にBSL中の進級試験を導入した。2018年度には、BSLの72週化とその教育内容の見直しを予定している。更に、2020年度からAdvanced OSCEが全国共用試験化され、医学教育FD参加率が研究費獲得の条件となるなど、状況は変化している。

(2)医学生のアンプロフェッショナルな行動を防ぐための認識を共有する

医学生や医師による複数の不祥事報道を受けて、日本医学教育学会が「飲酒による不祥事及び性暴力をいかに防ぐか」のシンポジウムを開催した。これらの事案を対岸の火事とせず、本学でも認識を共有する。

演 題：(1)本学の教育改革の進捗と今後の方針

- | | | |
|-------------------------|---------------|-------|
| ①BSL の72週化について： | 医療人育成・支援センター長 | 大谷 晃司 |
| ②進級試験について：卒業試験・進級試験・CBT | 検討部会長 | 木村 隆 |
| ③BSL教育のモデル・コア・カリとの整合性： | 医療人育成・支援センター | 坂本 信雄 |
| ④BSL 今後の課題： | 医療人育成・支援センター長 | 大谷 晃司 |
| ⑤医学教育 FD-WS 年間計画： | 国際化担当副理事 | 和栗 聡 |
| | 医療人育成・支援センター | 亀岡 弥生 |
| ⑥共用試験化後の Advanced OSCE： | 医療人育成・支援センター | 亀岡 弥生 |

(2)医学生のアンプロフェッショナルな行動を防ぐための認識共有

- | | | |
|-----------------|--------------|-------|
| ①飲酒時の不祥事を防ぐために： | 医療人育成・支援センター | 刑部 有祐 |
| ②性暴力に関する認識共有： | 医療人育成・支援センター | 亀岡 弥生 |

日 時：2018年1月31日（水） 18：00～19：30

場 所：講堂

主 催：医療人育成・支援センターおよびハラスメント対策委員会

参加人数：95名

福島医大模擬患者の会

福島県立医科大学模擬患者会は2011年に発足し、医療面接実習や5年生のBSL等で活躍してきました。模擬患者会では様々なシナリオの練習やミニレクチャーを行い、多くの模擬患者さんが学生の授業や試験で活躍して頂いています。

2016年度模擬患者会

1. 模擬患者会

| | 月日 | 時間 | 集合場所 | 内容 |
|-----|----------|-------------|-------------|------------------------------|
| 第1回 | 4月26日(火) | 13:00~15:00 | スキルラボ・アドバンス | 開校式、シナリオ練習 「レントゲンは撮りたくない」 |
| 第2回 | 5月31日(火) | 13:00~15:00 | スキルラボ・アドバンス | シナリオ練習 「食べ物がつっかえる感じ」 |
| 第3回 | 6月14日(火) | 13:00~15:00 | スキルラボ・アドバンス | シナリオ練習 「物忘れが気になる」 |
| 第4回 | 7月12日(火) | 13:00~15:00 | スキルラボ・アドバンス | シナリオ練習 「手のふるえが気になる」 |
| | | 15:00~16:00 | 光が丘会館大会議室 | おつかれさま会 |
| 第5回 | 9月20日(火) | 13:00~15:00 | スキルラボ・アドバンス | 閉講式、シナリオ練習 「だるさが取れない」 |



模擬患者会



シナリオ練習

2. 医療面接実習と学生自己学習（医学部4年生）

- 10月~11月 医療面接実習シナリオ練習（3回）
- 11月下旬 医療面接実習
- 11月~12月 学生自己学習（学生半数×2日）

3. 共用試験 OSCE（医学部4年生）

- 11月~12月 共用試験 OSCE シナリオ練習（3回）
- 12月20日 共用試験 OSCE

2017年度模擬患者会

1. 講習会

| | 月日 | 時間 | 集合場所 | 内容 |
|-----|----------|-------------|-------------|--------------------------------|
| 第1回 | 5月9日(火) | 13:00~15:00 | スキルラボ・アドバンス | アドバンス OSCE シナリオ練習会、講義「フィードバック」 |
| 第2回 | 6月6日(火) | 13:00~15:00 | スキルラボ・アドバンス | OSCE シナリオ練習会、講義「高齢者と自動車運転」 |
| 第3回 | 7月18日(火) | 13:00~15:00 | 光が丘会館大会議室 | OSCE 報告、医療面接実習シナリオ練習会 |
| 第4回 | 8月29日(火) | 13:00~15:00 | スキルラボ・アドバンス | 医療面接実習シナリオ練習会 |
| | | 15:00~16:00 | 光が丘会館大会議室 | おつかれさま会 |

2. 医療面接実習と学生自己学習 (医学部4年生)

10月~11月 医療面接実習シナリオ練習 (2回程度)

11月下旬 医療面接実習

11月~12月 学生自己学習 (学生1 / 3 × 3日)



医療面接実習



学生自己学習

3. 共用試験 OSCE

11月~12月 共用試験 OSCE シナリオ練習 (2回程度)

12月19日 共用試験 OSCE

4. 新規模擬患者募集

福島県立医科大学では、学生数の増加と模擬患者に関わる授業科目の増加から、2017年10月より新規(第6期)模擬患者の募集および養成を開始しました。LIVING 福島および郡山に広告を出し、約20名の模擬患者さんが集まって下さいました。

5. 模擬患者会瓦版の発行

模擬患者に関わる科目が多くなり養成会の回数が減っているため、その代わりとして年3回程度、瓦版を発行することになりました。



福島県立医科大学 **福島大模倣患者の会** FAMCOM Fukushima Association of Medical Communication

模倣患者さん募集のお知らせ

近年の医学教育では、医療現場で患者さんのお話をよく聞いてしっかり向き合える医師の養成が求められています。「模倣患者」とは、患者役として医療面接の実習や実技試験に協力して下さる市民の方々のことです。

福島医大では、平成21年に「模倣患者の会」が発足し、現在約40名の方が活動されています。明日の医療を担う学生の教育にご協力いただける方が参加を、心よりお待ちしております。

◆新規模倣患者養成講座

- 開講日**
第1回 2017年10月16日(月) 14:00-16:00
第2回 2017年11月 6日(月) 14:00-16:00
第3回 2017年11月27日(月) 14:00-16:00

※3回参加して認定となります。どこかの日程に参加できない場合、予備日を設けますので、お気軽にご参加ください。
※参加に伴う交通費を支給させていただきます。

場 所

**福島県立医科大学 4号館5階
スキルラボ・アドバンス**



患者役としての演技の指導は、医大の教員や先輩の模倣患者さんが、ひとりひとりのレベルに感じてもらっていただきます。

問い合わせ、申し込み先は裏面で確認ください
公立大学法人福島県立医科大学 医療人育成・支援センター (CMECD)
Center for Medical Education and Career Development
HP: <http://www.fmu.ac.jp/home/cmeed/mogikan.html>

福島県立医大模倣患者会 かわら版

明けましておめでとうございます
本年もどうぞよろしくお願いいたします

皆様、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。1月19日(金曜日) 新年号

福島の医療現場で患者さんのお話をよく聞いてしっかり向き合える医師の養成が求められています。「模倣患者」とは、患者役として医療面接の実習や実技試験に協力して下さる市民の方々のことです。

福島医大では、平成21年に「模倣患者の会」が発足し、現在約40名の方が活動されています。明日の医療を担う学生の教育にご協力いただける方が参加を、心よりお待ちしております。

◆新規模倣患者養成講座

開講日
第1回 2017年10月16日(月) 14:00-16:00
第2回 2017年11月 6日(月) 14:00-16:00
第3回 2017年11月27日(月) 14:00-16:00

※3回参加して認定となります。どこかの日程に参加できない場合、予備日を設けますので、お気軽にご参加ください。
※参加に伴う交通費を支給させていただきます。

場 所
福島県立医科大学 4号館5階
スキルラボ・アドバンス



今年度のFAMCOMは、11月19日(金曜日)に開催いたします。

おまなごめが、所り余り、今年もどうぞよろしくお願いいたします。安田 忠

あ見づも多様をま、りさちのろんを動かして、今年もどうぞよろしくお願いいたします。安田 忠

今年、おまなごめが、所り余り、今年もどうぞよろしくお願いいたします。安田 忠



今年度のFAMCOMは、11月19日(金曜日)に開催いたします。

おまなごめが、所り余り、今年もどうぞよろしくお願いいたします。安田 忠

あ見づも多様をま、りさちのろんを動かして、今年もどうぞよろしくお願いいたします。安田 忠

今年、おまなごめが、所り余り、今年もどうぞよろしくお願いいたします。安田 忠



出前講座

高等学校からの要望に応じて、大学教員が高等学校に出向き、将来、医療に従事することに関心を持っている高校生を対象に、医学や医療に関する講義を行っている。医学や医療に関する多彩な話題を提供する出前講座は、医療人を志す高校生の医学や医療への興味関心を更に高め、本学医学部への進学意識や学習意欲を向上させる良い契機となっている。

「出前講座」は高等学校からの申し込みを開催日の2ヶ月前までに受け付け、医療人育成・支援センター医学教育部門と教育研修支援課入試係が調整して開講している。

2016年度は7校、2017年度は延べ6校に教員を派遣した。

【実施状況】

2016年度

| | 派遣先 | タイトル／講師名 |
|---|--------------|---|
| 1 | 福島成蹊高等学校 | 「細胞からの生理学－細胞膜が物質を運ぶ仕組み－」 【講師 挾間章博】 |
| 2 | 桜の聖母学院高等学校 | 「血液型について」 【講師 亀岡弥生】 |
| 3 | 福島県立会津学鳳高等学校 | 「外科と栄養」 【講師 齋藤拓朗】 |
| 4 | 福島県立会津高等学校 | 「細菌ってどんな生き物？～医学で注目される悪玉菌と善玉菌～」 【講師 錫谷達夫】 |
| 5 | 福島県立橘高等学校 | 「放射線による最新のがん治療」 【講師 鈴木義行】 |
| 6 | 福島県立会津高等学校 | 「外科医というお仕事～呼吸器外科医を例にして」 【講師 鈴木弘行】 |
| 7 | 福島県立安積高等学校 | 「ロボットが手術する時代－福島医大“チーム daVinci”－」 【講師 小島祥敬】 |

2017年度

| | 派遣先 | タイトル／講師名 |
|---|--------------|--|
| 1 | 福島県立磐城高等学校 | 「福島県における最新医療－ロボット支援手術－」 【講師 小島祥敬】 |
| 2 | 福島県立安積高等学校 | 「医学を志すということ」 【講師 風間順一郎】 |
| 3 | 福島県立会津学鳳高等学校 | 「医学部での系統講義の実際、医学部では何を学んでいるのか」 【講師 小川 洋】 |
| 4 | 福島県立会津高等学校 | 「細菌ってどんな生き物」 【講師 錫谷達夫】 |
| 5 | 福島県立橘高等学校 | 「医師の現在・過去・みらい～循環器内科医の視点から～」 【講師 坂本信雄】 |
| 6 | 福島県立会津学鳳高等学校 | 「地域医療について」 【講師 鈴木啓二】 |
| | | 「内視鏡医療について」 【講師 入澤篤志】 |

学校見学

福島県立医科大学への理解を深め、医療系大学への進学意欲につなげるため、中学校や高等学校等の要望により大学見学を受け入れている。スキルラボ、ドクターヘリ等の施設見学に加え、体験実習や模擬講義も学内教員の協力を得て実施している。

2016年度は5校、2017年度は6校の大学見学を受け入れた。

【実施状況】

2016年度

| | 学校名 | 見学者 |
|---|-------------------------------|-----|
| 1 | 福島県立磐城等学校 【模擬講義講師 大平哲也】 | 3年生 |
| 2 | 福島成蹊中学校 【模擬講義講師 小林大輔】 | 3年生 |
| 3 | 福島県立原町高等学校 | 2年生 |
| 4 | 福島県立会津学鳳中学校 【模擬講義講師 渡辺浩志】 | 3年生 |
| 5 | 茨城県立日立第一高等学校 【模擬講義講師 引地拓人】 | 1年生 |

学校見学の様子



2017年度

| | 学校名 | 見学者 |
|---|-------------------------------|-------|
| 1 | 福島成蹊中学校 【模擬講義講師 坂本信雄】 | 3年生 |
| 2 | 福島県立原町高等学校 | 2年生 |
| 3 | 郡山市立郡山第二中学校 | 3年生 |
| 4 | 福島大学附属中学校 【模擬講義講師 亀岡弥生】 | 2年生 |
| 5 | 福島県立磐城高等学校 【模擬講義講師 岡田 良】 | 1～3年生 |
| 6 | 茨城県立日立第一高等学校 【模擬講義講師 木村 隆】 | 1年生 |

オープンキャンパス 「医師の仕事を経験してみよう～シミュレータを利用して～」

本学への入学志望の高校生等を対象に年1回、夏に実施されるオープンキャンパスにおいて、スキルラボを活用した「医師の仕事を経験してみよう～シミュレータを利用して～」を実施し、医学教育用シミュレータに触れる場を提供しています。

2017年7月15日（土）に行われたオープンキャンパスでは、高校生46名と中学生、浪人生各1名の合計48名が参加し、3つのシミュレーション学習（①心臓の音を聞いてみよう、②腹腔鏡下手術を経験してみよう、③心臓やお腹の中の臓器を超音波で観察してみよう）を経験しました。

この企画は参加者に大変好評で、医療系大学進学へのモチベーション向上に大きく貢献できました。

①心臓の音を聞いてみよう



白衣に着替えて、シミュレータの心臓聴診をしたり、友人の血圧測定をしました

②腹腔鏡下手術を経験してみよう



ゲームで操作方法を学んだから、手術シミュレーションを経験しました



③心臓やお腹の中の臓器を超音波で観察してみよう



心臓やお腹のモデルだけでなく、自分の血管が動いている様子も超音波で観察しました

BSL プライマリーコースの臨床実習プログラム

～スキルラボにおけるシミュレーション学習～

2011年度より医学部5年生の臨床実習（BSLプライマリーコース）において、スキルラボでシミュレータを用いた採血手技と模擬患者（SP）との医療面接を学習する「One-day臨床実習プログラム」が開始され、2017年度で7年目を迎えている。

「侵襲性を伴う技能や患者さんの羞恥心、精神的負担に配慮する必要のある診療技能の習得には、失敗が許されるシミュレーション（模擬患者、モデル、シミュレータ）での繰り返し学習や能動的なセルフトレーニングが必要であることを理解する。」を学習目標にあげ、午前中の採血演習では成人の静脈採血・動脈採血・筋肉注射、午後は実践的な医療面接のシミュレーションを学習している。

1. シミュレーション採血演習

BSL シミュレーション採血演習 スケジュール

| | | |
|-------------|--------|--|
| 9:00～9:10 | 10分 | アイスブレイク |
| 9:10～9:30 | 20分 | ミニレクチャー・ビデオ学習 |
| 9:30～10:15 | 45分 | ブース①→静脈採血（成人肘窩静脈）ブース ②→動脈採血（橈骨動脈）・筋肉注射（上腕） |
| 10:15～11:00 | 45分 | ※2ブースに分かれ各45分、（ ）内部位のシミュレータでの演習後、ブースの入れ替えを行っている。 |
| 11:00～ | 30～45分 | 学生同士で静脈採血（希望者のみ）+振り返り |
| 11:45～12:00 | 15分 | 午後からの医療面接実習の為のオリエンテーション |

＜指導内容＞

《静脈採血》→採血・静注シミュレータシンジョウ（肘正中皮、橈側皮静脈、尺側皮静脈）

①真空管採血×翼状針／②真空管採血×直針／③シリンジ採血×翼状針／④シリンジ採血×直針

上記4通りの採血方法と駆血帯の巻き方／皮膚の伸展／採血部位・針挿入角度・深さ／針挿入時の固定の重要性／患者への声掛け、確認事項／清潔操作等を指導。



《動脈採血》→動脈採血シミュレータ（橈骨動脈）

橈骨動脈シミュレータを使用。他の穿刺部位の利点や欠点の説明後、動脈採血の特徴（脈の確認／シリンジの持ち方・部位・角度・深さ／止血法／針の処理（リキャップの方法）／シリンジの処理（血液ガス分析））等を指導。

《筋肉注射》→装着式上腕筋肉注射シミュレータ（上腕）

筋肉注射では、目的や適切な部位、薬液の吸収速度を説明した後、学生同士でシミュレータを装着し、互いに穿刺体験を行っている。

採血手技以外でも、清潔動作や、声掛けの練習、採血による合併症（採血に伴う随伴症状や注意すべき事項）についても積極的に指導し、採血実施に必要な一連の流れが学べるように指導を行っている。また、針刺し事故防止の為の指導、対策のために、慌てず、一つ一つの手技を行えるように留意している。



《学生同士の静脈採血》

シミュレータでの練習後は、教員指導の元希望者による学生同士の静脈採血を実践している。毎回9割以上の学生が実践しており、練習の成果が発揮されている。シミュレータでの練習直後の実践により、穿刺の感覚がつかみやすく、記憶も新しいため、学習成果を生かすことができているが、緊張から穿刺に集中し、声掛け忘れや準備の不備等が見られる。

2. 医療面接

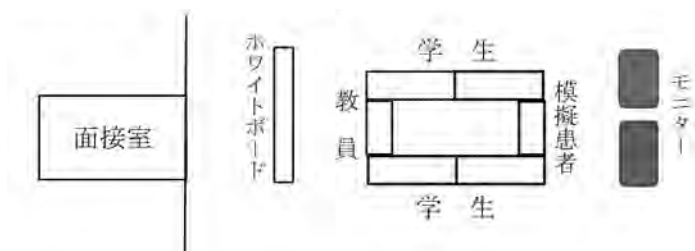
医療面接実習は2011年度から開始された。市民の皆さんに模擬患者になってもらい、学生と医療面接を行っている。2017年度からは、臨床推論を取り入れた医療面接を実施している。

1. 2016年までの模擬患者演習

学生5～6名に対して、生活指導および告知のシナリオを交互に行っている。面接はスキルラボ・アドバンス内の個室で行い、その様子の中継して他の学生及び教員が観察している。生活指導と告知のシナリオはそれぞれ2種類あり、学生6名の場合、生活指導2名、告知2名が終了した時点で、模擬患者を含めた全員で振り返りを行う。その後、生活指導1名、告知1名が面接を行い、最後に全員で振り返りを行っている。

| 14：00-14：10 | 14：10-15：10 | 15：20-16：00 | 16：05-16：30 | 16：30-17：00 |
|-------------|-------------------|-------------|----------------|-------------|
| 実習内容説明 | 生活指導2名、告知2名を交互に実施 | 全員で振り返り | 生活指導1名、告知1名で実施 | 全員でまとめの振り返り |

スキルラボ・アドバンス内配置



2. 2017年度からの変更点

学生数がこれまでの1班6名から最大8名に増加したため、これまでの方法から、最初の2名に対して臨床推論のプログラムを実施し、後の5～6名を従来の医療面接シナリオで行うように変更しました。臨床推論シナリオは頭痛、胸痛、腹痛、全身倦怠感、腰痛・下肢通で行いました。2017年度の医療面接実習プログラムは以下です。

| シナリオ | 学生 | 時間 | 概要 |
|-------------|------|-------------|---|
| 臨床推論シナリオ | 2名 | 13:00-14:15 | 頭痛や胸痛のシナリオを用いて8分で初診患者の問診を行う。患者役は教員が行う。問診終了後に、教員主導で学生全員で鑑別診断から確定診断への流れについて考える。 |
| 生活指導・告知シナリオ | 5～6名 | 14:20-17:00 | 生活指導および告知のシナリオを用いて10分で面接を行う。患者役は模擬患者が行う。医療面接終了後に模擬患者を含めて振り返りを行う。 |



臨床推論シナリオ



SPさんとの振り返り

オーディエンス・レスポンス・システム

～TurningPointRの活用～

講義型の授業は同時に多人数に対して知識を供与できるが、学生がどの程度、授業内容を理解しているかを教員は把握しがたい。また、教員は学生のニーズや興味を捉えているかどうかはわからず、教員から学生への一方的な知識の押し付けになってしまう可能性もある。

医療人育成・支援センターでは、2010年より学生一人一人の意見を回収できるオーディエンス・レスポンス・システム（ARS）を導入し、医学部および看護学部の授業、臨床研修医向けのセミナー、附属病院内の講演会等での活用をサポートしている。

1. システムの概要

本学ではARSとしてTurningPoint®（KEEPAD JAPAN株式会社製。<http://www.keepad.com/jp/index.php>）を利用している。専用ソフトで作成した質問のスライドに、名刺サイズのクリッカー（レスポンスカード）で回答すると、結果が瞬時に集計されグラフに表示される。授業に参加している教員と学生がその場で結果を共有することができ、全体の意見を踏まえた討論を実施し、学生の理解度に合わせた授業を展開することが可能になっている。



貸出用ARS一式
レスポンスカード 120枚
USBレシーバー 1台



レスポンスカード
（回答送信器）



USBレシーバー
（回答受信器）

※レスポンスカードは最大360枚まで対応可能です

2. 利用実績

| 利用年度 | 利用内訳（件数） | | | | 利用件数 |
|---------|----------|--------|----------|-----|------|
| | 医学部授業 | 看護学部授業 | 講習会・セミナー | その他 | |
| ～2015年度 | 24 | 5 | 54 | 20 | 103 |
| 2016年度 | 7 | 1 | 3 | 1 | 12 |
| 2017年度 | 9 | 1 | 4 | 1 | 15 |
| 合計 | 40 | 7 | 61 | 22 | 130 |

3. 利用方法・貸出・予約について

機器の予約、利用方法は医療人育成・支援センタースキルラボ管理室（内線3387）までお問合せください。スライドの作成等、ご不明な点は個別に対応しています。詳細は医療人育成・支援センターのホームページ（http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/turning_point.html）に掲載しておりますのでご参照ください。

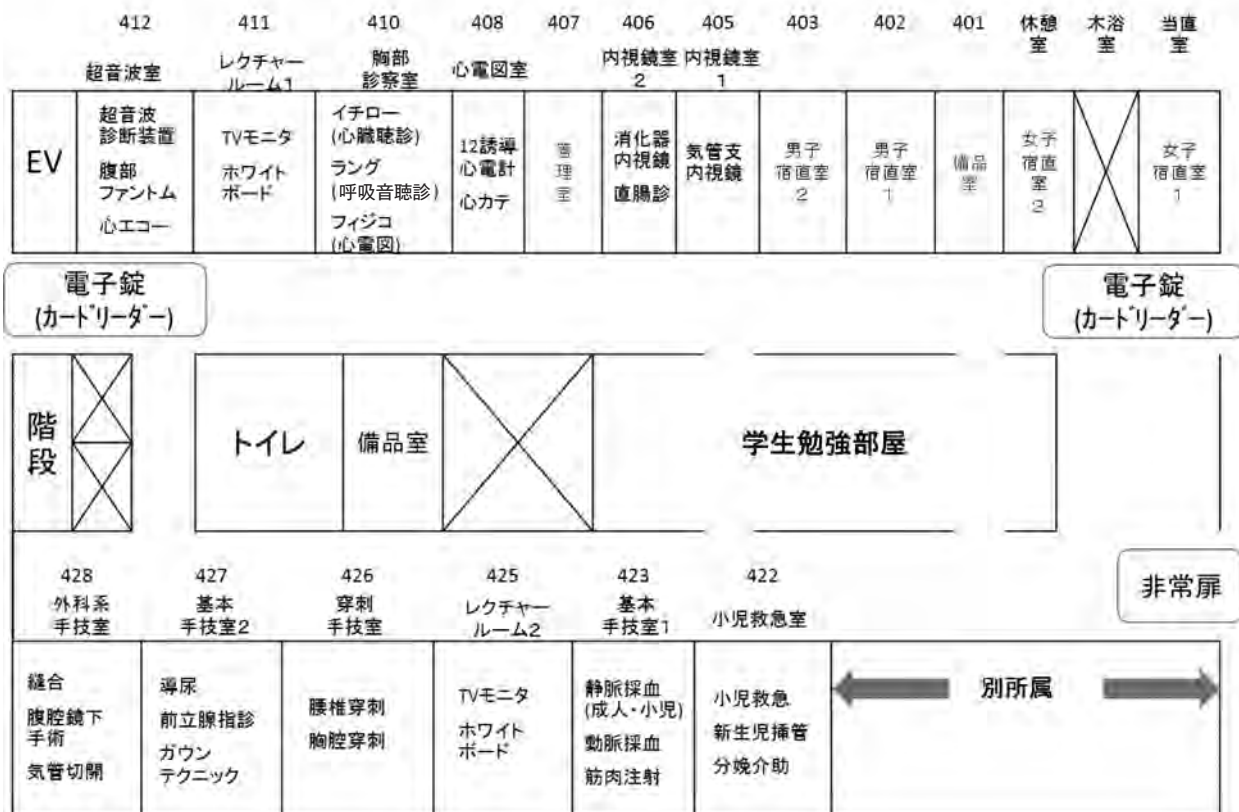
クリニカル・スキルス・ラボラトリー（スキルラボ）

本学のスキルラボはシミュレーション学習施設として2009（平成21）年4月にオープンし、2017年度で9年目を迎えた。2017年度には利用者のアクセスと学習内容を考慮して、スキルラボ・きぼう棟を開所した。従来からのアドバンス、ベーシック、手術室を含めた4部構成として運用しており、医学生をはじめ、看護学生、教員、臨床研修医、附属病院スタッフなどが幅広い目的で利用している。シミュレータや設備の充実を図りながら、多様なニーズに合わせたトレーニングができるよう利用者の視点で工夫を重ねている。

【1. 施設概要】

スキルラボ・きぼう棟（きぼう棟4階西）245m²

2017年4月にオープンした。病棟をそのまま利用し、手技毎に部屋を設定し、シミュレータ・機器を常時設置している。採血や導尿などの基本手技から腹腔鏡下手術などの高度な診療技能をトレーニングするシミュレータを整備し、医学生や臨床研修医を中心に利用されている。



スキルラボ・アドバンス（4号館5階）310m²

広いオープンスペースを保有しており救急蘇生トレーニングや模擬患者養成講座に活用されているほか、医療面接・診察録画フィードバックシステムを活用して医療コミュニケーション学習に活用されている。

スキルラボ・ベーシック（8号館2階）481m²

基本的な診察手技やベッドサイドでの患者の診察・処置・ケアが大人数で学習できるようにレイアウトされた学習スペース。看護学生や看護師がフィジカルアセスメントや採血手技などを学習できるようにシミュレータを配置している。

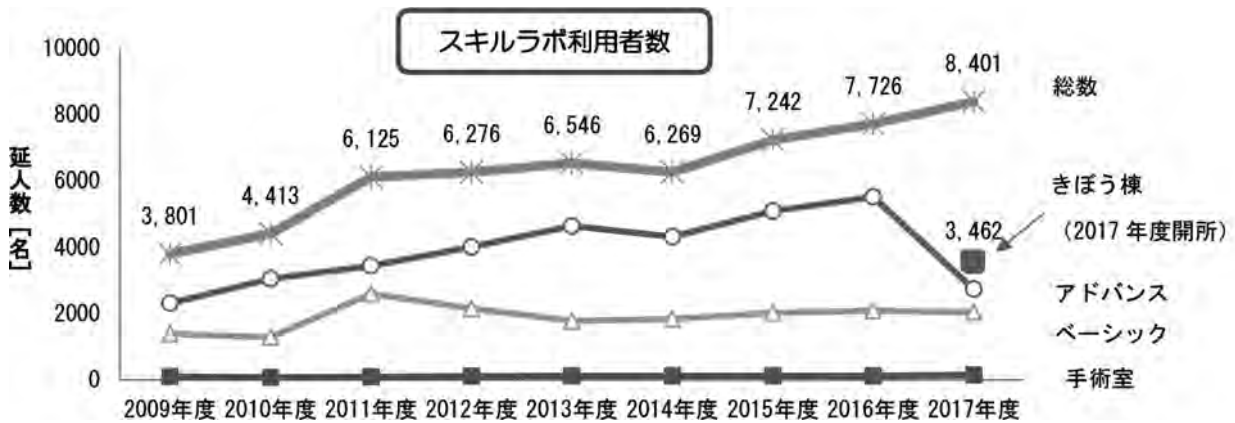
スキルラボ・手術室（附属病院3階）56m²

全身麻酔に伴う呼吸・循環の変化、急変対応が高性能シミュレータで学習できる。

【2. 利用実績】

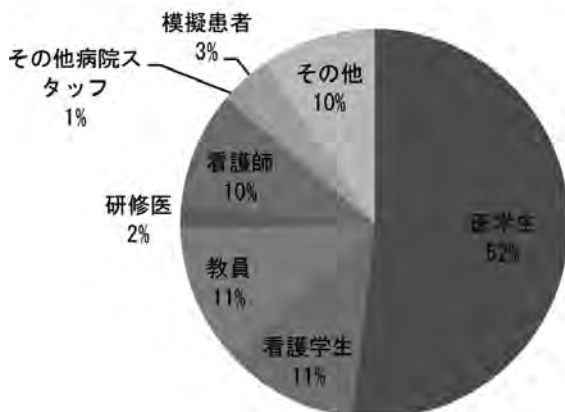
オープン後3年目（2011年度）以降は、年間6,000余名の利用が続いており、きぼう棟を開所した2017年度の年間延べ利用者数は8,000名を超えた。

2017年に開所した「スキルラボ・きぼう棟」は、前年度までスキルラボ・アドバンスに活用されていた多くのシミュレータを移動して各室に設置し、医学部5年生・6年生への各診療科BSLで多く活用されている。



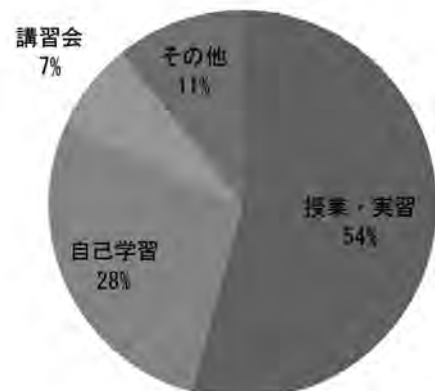
利用者内訳

9 か年 (2009～2017 年度)
延 56,799 名の内訳



利用目的内訳

9 か年 (2009～2017 年度)
5,280 件の内訳



<利用例> 下線は平成29 (2017) 年度より新規利用

医学部

1) 臨床実習 BSL (5、6年生)

- | | |
|---------------|---|
| 循環器・血液内科 | …心音・心雑音聴診、心エコー、心臓カテーテル手技、12誘導心電図、 <u>心疾患レクチャー</u> |
| 消化器・リウマチ膠原病内科 | …腹部エコー、消化管内視鏡、直腸診 |
| 呼吸器内科 | …呼吸音聴診、気管支鏡検査 |
| 小児科 | …小児静脈ライン確保、乳児救急蘇生、新生児気管挿管 |
| 肝胆膵・移植外科 | …腹腔鏡下手術、 <u>ガウンテクニック</u> |
| 呼吸器外科 | …胸腔穿刺 |
| <u>乳腺外科</u> | … <u>乳がん診察</u> |
| 整形外科 | …縫合、ガウンテクニック、 <u>外科手術実習</u> |
| 泌尿器科 | …導尿、前立腺指診、腹腔鏡下手術 |
| 麻酔科 | …麻酔・呼吸管理 |
| 神経内科 | …腰椎穿刺、 <u>神経診察</u> 、頸部血管エコー |
| 心身医療科 | …腰椎穿刺 |
| 産科婦人科 | …腹腔鏡下手術、縫合 |
| 耳鼻咽喉科 | …気管切開 |
| 救急科 | …心エコー、FAST |
| 医療人育成・支援センター | …静脈・動脈採血、筋肉注射、模擬患者医療面接 |
| 放射線災害医療センター | …被ばく医療、甲状腺エコー検査 |
- 2) 臨床実習入門 (4年生) …身体診察 (眼底、耳診察、直腸診、心電図など)
- 3) 共用試験 OSCE (4年生)
- 4) AdvancedOSCE (6年生)
- 5) 人体機能学概論 (1年生) …心電図、心エコー
- 6) 医学部オープンキャンパス

看護学部

- 1) 看護実践を支える看護技術とアセスメント (2年生)
- 2) 急性期にある人の看護 (3年生)
- 3) 健康障害を持つ子どもの看護 (3年生)
- 4) 在宅療養を支える看護 (3年生)
- 5) 看護学部オープンキャンパス

附属病院

- 1) 看護部 …各種技術研修

2) 初期研修医オリエンテーション、ステップアップセミナー

3) 看護師特定行為研修センター …各種技術研修、OSCE

その他

1) 中高生の大学見学

2) 福島医大模擬患者の会

3) 各種トレーニングコース …小児の二次救命処置講習会、ISLS、甲状腺エコー検査など

医学生の心電図実習



高校生の大学見学（スキルラボ体験）



中学生の大学見学（職業体験）



看護部の新人研修



【3. 利用できるシミュレータ】

(1) 基本診察・検査

| 品名 | メーカー |
|------------------------------------|----------------------|
| フィジカルアセスメントモデル 'Physiko' | 京都科学 |
| 胸部診察シミュレータ 'イチロー PLUS' | 京都科学 |
| 心臓病診察シミュレータ 'イチロー' | 京都科学 |
| 心臓病診察シミュレータ 'イチロー II' | 京都科学 |
| 呼吸音聴診シミュレータ 'ラング' | 京都科学 |
| 直腸診シミュレータ | 京都科学 |
| 前立腺触診シミュレータ | 京都科学 |
| 乳癌触診モデル 装着式 | 京都科学 |
| 乳癌触診モデル | 京都科学 |
| 婦人科内診シミュレータ | 京都科学 |
| 携帯用耳鏡・検眼鏡 | |
| 眼底診察シミュレータ 'EYE' | 京都科学 |
| 耳の診察シミュレータ 'EAR' | 京都科学 |
| 気管支シミュレータ | 京都科学 |
| コードレス聴診教育システム 'HI-STETHO' | 泰斗工研 |
| 水銀血圧計 | ケンツメディコ |
| 自動血圧計 | オムロン |
| 血圧測定シミュレータ 'あつ姫' | 京都科学 |
| 超音波診断装置 (胸部・腹部・表在) | フクダ電子、 PHILIPS、GE |
| 超音波画像診断装置 'iLOOK25' (モバイルスタンドタイプ) | ソノサイト |
| 超音波診断ファントム腹部モデル 'ECHOZY' | 京都科学 |
| 超音波診断ファントム 上腹部病変付モデル 'ABDFAN' | 京都科学 |
| 外傷・救急用超音波トレーニングファントム 'FAST/ER FAN' | 京都科学 |
| 心エコーバーチャルシミュレータ 'VIMEDIX' | ガデリウス |
| 心電計 | 日本光電社 フクダ電子 |
| 握力計 | 松宮医科精器製作所 |

(2) 注射・採血

| 品名 | メーカー |
|------------------|-----------|
| 装着式 上腕筋肉注射シミュレータ | 京都科学 |
| 皮内注射シミュレータ | 京都科学 |
| 手・手首関節注射モデル | 日本ライトサービス |
| 膝関節注射モデル | 日本ライトサービス |
| 肩関節注射モデル | 日本ライトサービス |

| | |
|-----------------------|-----------|
| 肘関節注射モデル | 日本ライトサービス |
| 採血・静注シミュレータ ‘シンジョー’ | 京都科学 |
| 装着式採血静注練習キット ‘かんたんくん’ | 京都科学 |
| 動脈採血シミュレータ | 京都科学 |
| 手背の静脈注射シミュレータ | 京都科学 |
| 小児の手背静脈注射シミュレータ | 京都科学 |
| 点滴静注シミュレータ ‘Vライン’ | 京都科学 |

(3) 処置・治療

| 品 名 | メ ー カ ー |
|-------------------------------------|------------|
| 女性導尿・浣腸トレーニングモデル | 京都科学 |
| 男性導尿・清拭モデル | 京都科学 |
| 腹腔鏡下手術トレーニング用シミュレータ ‘LAP Mentor II’ | シンビオニクス |
| 消化管内視鏡手技トレーニングシミュレータ ‘GI Mentor’ | シンビオニクス |
| 消化器内視鏡トレーニングシミュレータ ‘EndoVR’ | ガデリウス |
| 気管支内視鏡シミュレータ ‘アキュタッチ’ | ガデリウス |
| CVC 穿刺挿入シミュレータ | 京都科学 |
| 中心静脈栄養チューブ管理トレーナー | 京都科学 |
| 経管栄養シミュレータ | 京都科学 |
| 末梢挿入中心静脈カテーテル ‘PICC シミュレータ’ | 京都科学 |
| サカモト気管切開トレーナー | 坂本モデル |
| 腰椎・硬膜外穿刺シミュレータ ‘ルンバールくんII’ | 京都科学 |
| 胸腔穿刺・ドレナージシミュレータ | 日本ライトサービス |
| 皮膚小外科キット | 日本ライトサービス |
| 皮膚小外科キット 指導者版 | 日本ライトサービス |
| 陥入爪実習キット | 日本ライトサービス |
| 陥入爪キット 指導者版 | 日本ライトサービス |
| スーチャーチューター | 日本ライトサービス |
| スーチャーチューター 指導者版 | 日本ライトサービス |
| 縫合手技トレーニング フルセット | 京都科学 |
| 縫合手技トレーニング 腕部セット | 京都科学 |
| 腕型縫合シミュレータ | 京都科学 |
| 局所麻酔実習キット | 日本ライトサービス |
| 局所麻酔実習キット 指導者版 | 日本ライトサービス |
| 分娩シミュレータ ‘ノエル’ | アクティブメディカル |

(4) 救命救急

| 品名 | メーカー |
|---|-----------|
| 気道管理、外傷処理 ALS トレーニングシミュレータ ‘シムマン’ | レールダル |
| ワイヤレス ALS トレーニングシミュレータ ‘シムマンエッセンシャル’ | レールダル |
| 高機能患者シミュレータ ‘ECS’ | アイ・エム・アイ |
| 小児救命処置シミュレータ ‘メガコードキッド&バイタルシム’ | レールダル |
| 乳児医療トレーニングシミュレータ ‘シムベビー’ | レールダル |
| レサシアン半身スキルガイドモデル付 | レールダル |
| エアウェイトレーナー ‘AIRSIM アドバンス’ | 日本ライトサービス |
| 新生児蘇生マネキン ‘Neonatal Resuscitation Baby’ | レールダル |
| 新生児気道管理トレーナー | レールダル |
| トレーニング除細動器 | PHILIPS |
| AED トレーナー | PHILIPS |
| 救急カート | |
| シリコンレサシテータ | レールダル |

(5) その他

| 品名 | メーカー |
|------------------------|------|
| 医療面接・診察撮影録画フィードバックシステム | コセキ |
| 妊婦体験スペシャルスーツセット 胎児9ヵ月付 | 京都科学 |
| 高齢者体験装具 ‘おいたろう’ | 京都科学 |
| 輸液ポンプ | テルモ |
| シリンジポンプ | テルモ |
| 点滴スタンド | |
| 軽量ストレッチャー | |
| スタンドライト | |
| コピーボード | |
| 液晶プロジェクター | |
| マイクアンプセット | |

福島県立医科大学クリニカル・スキルス・ラボラトリー（スキルラボ）ホームページ

<http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/lab.html>

OSCE

I. Advanced OSCE

臨床実習後OSCE“Advanced OSCE”を、平成28年7月2日（土）に本学で初めて卒業要件として実施しました。平成32年（2020年）には臨床実習後OSCEが全国共用試験となり、平成31年にはその全国一斉トライアルが行われます。しかし、たとえ数年でも共用試験化を待たずに本学独自のOSCEを行いたいという大学の強い意思によって実施されました。OSCE実施は教育の弱点を明らかにし、臨床教育改革に方向性を与えました。

本学のAdvanced OSCEの特徴は、(1)学生一人一人に対するその場でのフィードバック、(2)鑑別診断の思考プロセスの重視で、形成的評価を受ける機会として研修にも活かしてもらいたいという考えに基づいています。平成28年2月10日に、東北大学の加賀谷教授に、本学の模擬OSCEを見て助言を頂き、初回OSCEに備えました。運営面での改善を加えて平成29年7月1日（土）に2回目のAdvanced OSCEを実施し、本学独自のOSCEスタイルが確立しました。Advanced OSCEに評価者として参加した教員アンケートで、今後教育を強化するべき点として最も多くあげられたのは、①臨床推論、②臨床検査手技、③検査データの読み方でした。

【本学のAdvanced OSCE】

目的：BSLの成果と課題を把握し、今後の教育・学習につなげる

対象：医学部6年生全員（平成28年度 110名、平成29年度 99名）

受験課題：症例指向性臨床技能試験（4分）4題のうち2題＋臨床技能試験（4分）2題

| | 学生の半数 | 学生の半数 |
|------------------|-------|-------|
| 症例指向性臨床技能試験（14分） | A・C | B・D |
| 臨床技能試験（5分） | e, f | |

課題構成：症例指向性臨床技能試験

課題1 医療面接

課題2 鑑別診断（疾患想起、身体所見、検査など）

課題3 総合問題（評価者へ報告、患者への説明など）

評価者からのフィードバック 2分

臨床実技試験

実技試験（BSLで修得した検査手技、検査所見の報告など） 5分

評価者からのフィードバック 2分

評 価：2名の評価者による項目評価と6段階の概略評価
「2名の評価者による概略評価の平均 ≤ 2点」を不合格
Advanced OSCE の成績は Advanced BSL の成績の一部に組み込む

評 価 者：臨床系・基礎系講座* 及び 医療人育成・支援センター教員
(平成28年 63名、平成29年 64名)
*運営補助として 基礎系教職員 2名にもお手伝い頂いた

患 者 役：平成28年 臨床系及び基礎医学講座教員 18名
平成29年 SP 会 SP 15名、臨床系教員 10名

場 所：平成28年度 スキルラボ・アドバンス+ 8号館4階
平成29年度 スキルラボ・きぼう棟**+ 8号館4階
**平成29年4月に旧4階西病棟にスキルラボ・きぼう棟が開設

II. 共用試験 OSCE (臨床実習前 OSCE)

平成18年度から4年生対象に実施している臨床実習前 OSCE “共用試験 OSCE” の運営にも、平成28年からの2年間に、二つの変更を加えました。

(1) 学生全体へのフィードバックと不合格者への対応：

平成27年度までは、不合格課題のある学生に対して、各課題の評価責任者が水準に到達したと判断できるまで再教育を行っていました。平成28年度からは、再教育担当教員の要望に応え、「①合否判定前の受験生全員へのフィードバック→②再教育→③一度限りの再試験」という対応をしています。

(2) 試験会場の増設と時間短縮：

平成28年度まで、スキルラボ・アドバンスと8号館4階の2会場で実施していましたが、学生数増加(平成28年度の4年生：147名)に伴い、試験時間が10時間を超えてしまいました。平成29年度には、4月に開設したスキルラボ・きぼう棟と8号館4階を使うことにより、3列で試験を実施できるようになりました。その結果、平成29年度の4年生125名の試験は朝9時から16時で終了しました。

コミュニケーション論

1年生は10～12月にコミュニケーション論の授業があります。内容は、心理学的コミュニケーション論と、医療コミュニケーション論の二つの観点からコミュニケーションについて学びます。医療人育成・支援センターでは医療コミュニケーション論を担当し、頭痛と胸痛を題材にして問診の演習を行っています。

1. 授業の流れ

① 授業準備

- ・各疾患についての資料の準備
- ・事前学習確認テスト（IRAT）およびグループ確認テスト（GRAT）の作成
- ・答合わせ用ターニングポイント資料作成
- ・問診演習用の患者シナリオ3題作成
- ・ピア評価用シート作成

② 1学年を24班（1班6名）に分けて問診についてのTBL方式でグループワーク

- ・頭痛・胸痛の基礎知識
- ・症状から病気を類推するための情報収集

③ 問診の練習

- ・問診のための情報収集についてのグループワーク
- ・グループ内で医師役と患者役に分かれて医療面接の練習

④ 授業に対する貢献度の評価としてピア評価を実施



TBL方式のグループワーク



医療面接の練習

2. 医療コミュニケーション OSCE

2017年には医療コミュニケーション演習の総決算として、模擬患者さんに協力してもらい、共用OSCEを模した試験を実施しました。学生は白衣を着た正装で、制限時間5分間で医療情報を聴取する試験に臨みます。学生は頭痛と胸痛の課題のうち、どちらか一つの試験を受けました。

地域実習 1

「地域実習 1」では、医学部 1 年生一人一人が、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、重度心身障害者施設の 3 種類の施設で福祉体験を行います。この実習の目的は、早い時期に様々な福祉施設の活動と役割を理解し、医療人として相応しい心構えと態度を身に着けることと、「老いを支える」「障害と共に生きる」ということを理解し、健康であるとはどういうことなのか、考えを深めることにあります。

1. ガイダンス

2017年は、下記の項目についてガイダンスを行いました。このうち③は2017年度から追加された項目です。

- ① 「高齢者福祉について」看護学部 療養支援看護学部門 教授 坂本祐子先生
- ② 「重症心身障がい者施設の役割」国立病院機構福島病院 院長 氏家二郎先生
- ③ 認知症を持つ高齢者についての視聴覚教材（DVDまたはVR）視聴

DVD 視聴



VR 視聴



2. 地域実習をより充実したものにする「素朴な疑問探索のためのデモンストレーション」

地域実習をより充実したものにするために、予め学生に、各施設で感じた素朴な疑問を持ちかえるように指示し、実習終了後に持ち帰った疑問についてディスカッションを行います。素朴な疑問とは、福祉的問題、社会的問題、家族の問題、ケアシステムの問題その他、どんな領域でも構いませんが、良し悪しや善悪が簡単には結論づけられず、様々な人に問うてみたいことです。

「どうして〇〇してるのか」「〇〇をすることはよいことなのか」

「〇〇は社会的にどんな意味があるのか」「〇〇の場合に××すべきか」等

3. 実習終了後の発表会

130人の学生が24班に分かれて発表準備をし、24班を更に4つに分け、6班ごとに以下のように発表会を行いました。

- ① 班メンバーそれぞれの素朴な疑問を出し合う
- ② 発表テーマとして一つを選択する
選んだ疑問について、いくつかの異なる考え方を示し、聴衆に疑問を投げかける形で、発表スライドを作成する
- ③ 必ず次の二点を含めて発表する
 - ・どのような体験から疑問を感じたのか
 - ・その疑問について社会的背景や制度等自分達で調べたこと
- ⑤ 聴衆班は、投げかけられた疑問について議論する。この時、発表班の班員は一人ずつ聴衆班に混ざり、議論を聞く
- ⑥ 全ての聴衆班が、自分達の議論内容を発表する
- ⑦ 聴衆班の発表を聞いた発表班の全員が、最後に感想を述べる

4. 実習先であがった各班の疑問（抜粋）

| 介護老人保健施設 | 特別養護老人ホーム | 重度心身障がい者施設 |
|-------------------------|-----------------|------------|
| 意思の疎通について | 経管栄養 | 障がい者の内的世界 |
| 在宅復帰を目指したりハビリ | 死の捉え方 | 自立について |
| 医療と介護の中間的立場 | 胃瘻 | お小遣いについて |
| 要介護者の配偶者がサービスを受け入れないケース | 認知症の方との意思疎通について | 障がいの基準について |
| 介護に関わるお金について | 個室と共同どちらがいい | 意思表示 |

5. 感想（抜粋）

- ディスカッションをすることで班内の色々な意見を聞くこともできるし、それに加えて班ごとの発表もあるから多くの意見、考え方を知れて良かった。何十人もの前で発表するよりも少人数の方が発表、質問のしやすさがあった。
- 自分の意見を考えながら話を聞くので、より注意力が持てると思いました。
- 一つの問題でも、人によって本当に考えは様々で、新しい視点からの意見がいくつも出て、とても貴重な発表会が出来たと思います。どの班の疑問も正解がない問だと思うので、今後いろいろな経験を経て、自分の意見も変わっていくのかなとも思った。
- 班の発表で結論を出すのではなく、疑問を提示して周りの人に考えてもらうという形式は、各自の理解を深めると思う。
- ディスカッション・ベースの発表会は、全てのテーマについて全員が考えるのでとても役に立った。
- 他のグループの人たちの多様な意見を聞く機会として良い発表会だったと思います。
- 介護問題は答えのない問題だと思った。
- 実習体験をスライドにして発表と言われた時は、とても大変そうな印象を受けましたが、実際に感じた素朴な疑問を挙げ、各班でディスカッションするというのは手間がかからない割にメンバーで話し合い、様々な意見を聞くことができ、意欲的に参加することが出来ました。

早期ポリクリニック

早期ポリクリニック（早期ポリクリ）は、1年生の1学期に病院の様々な部署を見学する二日間の実習で、医療人になるという自覚の形成、基本的マナーの習得に加えて、医療が様々な職種の人たちによって支えられていることを知ることを目的としています。テレビドラマの舞台となる外来、病棟、手術室、救急センター以外にも医師が担う仕事があります。そして全ての医療業務は医療専門職以外の人達が休みなく稼働させるシステム無しには成り立ちません。早期ポリクリでは、患者として病院を訪れる際には目にしない中央診療施設や物品供給センターやボイラー室などのバックヤードを班ごとに1日かけて回り、もう1日は病棟で看護業務と医師の業務を見学します。尚、バックヤード見学が早期ポリクリに組み込まれたのは2015年です。中央部門+見学後と病棟見学後に、プロフェッショナルとはどういうことかと思うか、実習で見たり体験したりしたことから各自考察し、レポートを提出します。

1. 中央診療施設及びバックヤード見学

各施設の見学時間：25分 学生：10人～11人／班×12班

| | | |
|------------|-------------|-----------|
| 救急救命センター | 放射線災害医療センター | 物品供給センター |
| 中央監視室・ボイラー | 地域連携部 | リハビリテーション |
| 検査部 | 手術部/材料部 | 輸血・移植免疫部 |
| 放射線部Ⅰ | 放射線部Ⅱ | 病理部 |

2. 病棟体験スケジュール例

| | | |
|-------------|-----------|---------------------|
| 9：00～10：00 | オリエンテーション | 病棟でのマナー、守秘義務等について |
| 10：00～12：00 | 看護業務見学・体験 | バイタルサイン、清拭、昼食の介助等 |
| 13：00～15：00 | 医師業務見学 | 病棟回診、処置、カルテ記入、検査見学等 |
| 15：00～16：00 | 振り返り | 医師とのフリーディスカッション |

3. 学生の声「プロフェッショナルとはどういうことか」（抜粋）

1) 中央診療施設見学で感じたこと

- 単に自分の専門領域をよく知っている、また技術があるということではなく、自分の知識や技術を誰かのために還元していけること。自分の持つものを行動に移し、形にしていけること。
- 自分の仕事に対して自信を持っていること。自分たちがこの病院を支えているという責任感。
- 直接的には病気や患者に向き合わない仕事でも患者やそれを使う医師の利益になるように、自分の仕事に誇りを持って行動できること。
- 自分の限界を知り、自分の手に負えない所を他の人や機関と協力して補える素直な面と、自分の技術を次の世代にしっかり伝える力を持つ面を持つこと。
- 例え直接的に患者と関わらずとも、自分たちの仕事が患者の人生に影響するのだという自覚を

強く持ち、自分ができる仕事に誠心誠意取り組み続けることができるということ。

- 自分の役割を理解し、周りの仕事がよりよくなるように考え、行動できる人。また、相手のことを最後まで考え、本当に必要としていることを相手の必要な時に与えることができる人。
- 人が見ていないところでも全力で仕事を全うできる人。
- 医師としての仕事をするためにはその裏で働いている人々がいなければならない、人を助ける仕事をするのは医師だけでなく病院全体で患者に医療を提供している、ということ意識すべき。

2) 病棟体験で感じたこと

- 自らの仕事を理解し、完璧にこなすだけでなく、その仕事についてわからない人に対しても分かりやすく説明できること。医師としては更に、患者さんに対し安心感を与えられる存在。
- 「その道をよく知っていて技が熟練していること」という技術面に加え、真心がこもっていたり、自らの仕事をこなしつつも周囲への配慮も忘れないという精神的な側面も含まれる。
- 自分のやるべき仕事を当たり前のこととして丁寧になし、その上で患者さんの心を察したり、後輩への指導を行ったりするなど、プラスアルファの行動を積極的に行えること。
- 看護師で言えば、朝のミーティングや患者さんの状態確認のような短い間に、積極的に行動し、自分の仕事に誇りを持って業務にあたっているような姿。
- 処置など、難しいものでもすぐ諦めず、臨機応変に対処し、そのときでのよりベターな結果が得られるように行うこと。自分の知識をベースとし、それを応用し、難しいことでもその限られた条件下で成功するために努力し続けること。ベターな選択を行うためには多くの知識も必要。
- 医師が仕事をできるのは、陰で多くのスタッフたちが助けてくれているからであるということ。を常に考えている医師のこと。
- 自分の仕事に関する確かな知識と技術を持つだけでなく、多職種の人々としっかり連携できること、あるいはその方々に感謝の心を持ちながら、その努力に見合う仕事を確実にこなせること。

2) 臨床醫學教育研修部門



臨床医学教育研修部門の取組

大谷 晃司

平成28, 29年度の臨床医学教育研修部門の活動報告の詳細は、別項の通りです。前回の年報執筆時点では、「地域医療再生基金」の後継の財源が確定しておらず、臨床医学教育研修部門の活動の柱の一つである福島・良き医師をはぐくむプロジェクトと福島県臨床研修病院ネットワーク事業の継続が定かではないと記しました。結果的には、平成28年度以降は「福島県地域医療介護総合確保基金事業補助金」を原資として、活動をさせていただいています。本事業は、福島県内への医師招聘活動の中で確固たる地位を築いており、県でも事業継続にご理解、ご支援いただいています。

また、前回の年報では、3年生の地域実習（4日連続通いによる協力病院における実習）における県やいわき市の地域医療体験研修（2泊3日）との単位互換の橋渡し役となったことを報告しています。この地域実習は、平成28年度は2泊3日の地域医療体験研修のコースの増加を経て、平成29年からは4日連続通いによる協力病院における実習を中止し、夏休みまたは9月の第4週に3年生全員が、最低一つの2泊3日の地域医療体験研修を選択しなければならないという必修の授業となりました。“福島を好きになってもらうには、まずは福島を知ってもらわなければならない”という貴重な実践の場として、今後も発展させていきたいと考えております。

平成29年度からは、平成30年10月からの4年生のBSL (bed side learning) 開始（いわゆる72週問題、あるいは新BSL）を年頭に、BSL連絡会議を毎月開催し、BSL72週時代の地ならしを開始いたしました。次の年報では、新BSLの導入とその実際について、ご報告できるはずです。

以上のように、臨床医学教育研修部門の活動は、卒後臨床研修教育の立場から、年々学部教育へと活動の範囲を拡げています。

2016年度

2016年

- 4月1日 研修医オリエンテーション（～8日）
- 4月4日 地域医療医師確保修学資金説明会（帝京大学）
- 4月7日 緊急医師確保修学資金説明会（医大）
- 4月9日 新臨床研修医合同オリエンテーション開催（～10日）
（ホテルリステル猪苗代）
- 4月22日 外傷初期診療セミナー（年10回開催）
- 4月22日 福島県立医科大学医学部5年生との未来を語る会開催
- 4月25日 卒後臨床研修管理委員会
- 5月8日 グローバル医師育成海外研修（～15日）
- 5月10日 へき地医療等医師確保修学資金説明会（東北医科薬科大学）
- 5月23日 卒後臨床研修管理委員会
- 5月25日 福島県臨床研修病院合同ガイダンス in 福島へ出展
- 5月25日 平成28年度第1回福島県臨床研修病院ネットワーク連絡会議
- 5月29日 eレジフェア（東京）へ出展
- 6月3日 平成28年度一般社団法人福島県立医科大学光が丘協議会定時評議員会
（ザ・セレクトン福島）
- 6月4日 第27回福島アドバンスド・コース
（FACE：Fukushima Advanced Course by Experts）開催（～5日）
メイン講師：竹田綜合病院小児科 長澤 克俊先生
- 6月15日 地域実習2 オリエンテーション1回目
- 6月22日 マッチング説明会（福島医大）：教育研修支援課との共催
- 6月25日 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 東京2016開催
- 6月25日 へき地・地域医療修学資金個別面談（都市センターホテル）
- 6月27日 卒後臨床研修管理委員会
- 7月8日 医学部後援会講演：後援会、教育研修支援課との共催
- 7月8日 地域実習2 オリエンテーション2回目
- 7月16日 新専門医制度説明会（郡山 ビッグアイ）
- 7月17日 レジナビフェア（東京）へ出展
- 7月23日 新専門医制度説明会（福島医大）
- 7月25日 卒後臨床研修管理委員会
- 8月6日 第28回福島アドバンスド・コース（FACE）開催（～7日）
メイン講師：西伊豆健育病院 仲田 和正先生
- 8月18日 平成28年度第2回福島県臨床研修病院ネットワーク連絡会議、
臨床研修病院ネットワーク事務担当者セミナーの開催
- 8月23日 緊急医師確保修学資金個別面談（医大）

| | |
|--------|--|
| 8月24日 | 地域交流事業地域医療研修会への支援 ・地域医療体験研修 会津／南会津コース（～26日） |
| 8月29日 | 地域交流事業地域医療研修会への支援 ・地域医療体験研修 県南コース（～31日） |
| 8月31日 | 地域交流事業地域医療研修会への支援 ・地域医療体験研修 相双コース（～9月2日） |
| 9月2日 | グローバル医師育成海外研修選考委員会（福島医大） |
| 9月17日 | 第8回診断推論セミナー開催（～18日） |
| 9月26日 | 卒後臨床研修管理委員会（拡大） 講師：名古屋第二赤十字病院 副院長 野口 善令先生 |
| 9月30日 | 地域実習2 発表会準備 |
| 10月6日 | 指導医セミナー開催 講師：東北大学 加賀谷 豊教授、福島赤十字病院 鈴木 恭一先生 （総合磐城共立病院） |
| 10月8日 | 福島県主催指導医養成講習会（～9日） （福島県立医科大学） |
| 10月11日 | 地域実習2 発表会 |
| 10月22日 | レジデントスキルアップセミナー「地域医療症例検討会」開催 （竹田総合病院） |
| 10月24日 | 卒後臨床研修管理委員会 |
| 10月29日 | レジデントスキルアップセミナー「心エコーセミナー」開催 （とうほう・みんなの文化センター） |
| 11月1日 | グローバル医師育成海外研修事前説明会（東北大学病院） |
| 11月12日 | 第29回福島アドバンスド・コース（FACE）開催（～13日） メイン講師：東京高輪病院 岡 秀昭先生 |
| 11月15日 | 福島県臨床研修病院ネットワーク広報セミナー開催 （ポラリス保健看護学院） |
| 11月25日 | 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 福島2016開催 （ウエディングエルティ） |
| 11月28日 | 卒後臨床研修管理委員会 |
| 12月2日 | 次年度採用研修医年次計画作成説明会（福島医大） |
| 12月11日 | グローバル医師育成海外研修（～18日） |
| 2017年 | |
| 1月7日 | 福島県立医科大学主催臨床研修指導医講習会（～8日） |
| 1月23日 | 卒後臨床研修管理委員会 |
| 1月25日 | 指導医セミナー開催 講師：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター |

大谷 晃司センター長

(総合南東北病院)

- 2月3日 福島県臨床研修病院合同ガイダンス in 福島へ出展
- 2月4日 第30回福島アドバンスド・コース (FACE) 開催 (～5日)
メイン講師：埼玉医科大学総合医療センター救急科 久村 正樹先生
- 2月9日 グローバル医師育成海外研修選考委員会 (福島医大)
- 2月14日 平成28年度第3回福島県臨床研修病院ネットワーク連絡会議 (杉妻会館)
臨床研修病院ネットワークセミナーの開催 (杉妻会館)
- 2月20日 平成28年度卒後臨床研修プログラム検討会議
- 2月25日 レジデントスキルアップセミナー「腹部エコーセミナー」開催
(コラッセふくしま)
- 2月25日 診断推論セミナーアドバンス編 (白河 FACE) 開催
- 2月27日 卒後臨床研修管理委員会
- 3月5日 レジナビフェア (福岡) へ出展
- 3月13日 卒後臨床研修管理委員会 (拡大)
- 3月19日 レジナビフェア (東京) へ出展
- 3月28日 グローバル医師育成海外研修事前説明会 (東北大学病院)

2017年度

2017年

- 4月3日 研修医オリエンテーション (～10日)
- 4月7日 福島県立医科大学医学部5年生との未来を語る会開催
- 4月7日 緊急医師確保修学資金説明会 (医大)
- 4月8日 新臨床研修医合同オリエンテーション開催 (～9日)
(ホテルリステル猪苗代)
- 4月23日 グローバル医師育成海外研修 (～30日)
- 4月24日 卒後臨床研修管理委員会
- 4月28日 外傷初期診療セミナー (年11回開催)
- 5月2日 へき地医療等医師確保修学資金説明会 (東北医科薬科大学)
- 5月16日 平成29年度第1回福島県臨床研修病院ネットワーク連絡会議 (福島医大)
- 5月17日 指導医セミナー開催
講師：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター
大谷 晃司センター長、濱口 杉大教授、木村 隆教授
(会津医療センター)
- 5月22日 卒後臨床研修管理委員会
- 5月24日 地域実習2 オリエンテーション1回目
- 5月27日 第31回福島アドバンスド・コース (FACE) 開催 (～28日)
メイン講師：白河厚生総合病院 東 光久先生

| | |
|--------|--|
| 5月28日 | e レジフェア（東京）へ出展 |
| 6月8日 | 地域実習2 オリエンテーション2回目 |
| 6月9日 | 平成29年度一般社団法人福島県立医科大学光が丘協議会定時評議員会 （ザ・セレクトン福島） |
| 6月9日 | 医学部後援会講演：後援会、教育研修支援課との共催 |
| 6月16日 | マッチング説明会（福島医大）：教育研修支援課との共催 |
| 6月23日 | 指導医セミナー開催 講師：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター 大谷 晃司センター長、亀岡 弥生教授、木村 隆教授、坂本 信雄講師 （会津医療センター） |
| 6月24日 | 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 東京2017開催 |
| 6月24日 | へき地・地域医療修学資金個別面談（ステーションコンファレンス万世橋） |
| 6月26日 | 卒後臨床研修管理委員会 |
| 6月30日 | 緊急医師確保修学資金説明会（医大） |
| 7月2日 | レジナビフェア（大阪）へ出展 |
| 7月16日 | レジナビフェア（東京）へ出展 |
| 7月20日 | 緊急医師確保修学資金個別面談（医大） |
| 7月21日 | 緊急医師確保修学資金個別面談（医大） |
| 7月23日 | 内科系新専門医説明会（コラッセふくしま） |
| 7月24日 | 卒後臨床研修管理委員会 |
| 8月7日 | 平成29年度第2回福島県臨床研修病院ネットワーク連絡会議（福島医大） |
| 8月22日 | 地域交流事業地域医療研修会への支援 ・地域医療体験研修 相双コース（～24日） |
| 8月23日 | 地域交流事業地域医療研修会への支援 ・地域医療体験研修 会津／南会津コース（～25日） |
| 8月26日 | 第32回福島アドバンスド・コース（FACE）開催（～27日） メイン講師：亀田総合病院 中島 啓先生 |
| 8月28日 | 地域交流事業地域医療研修会への支援 ・地域医療体験研修 県南コース（～30日） |
| 9月1日 | グローバル医師育成海外研修選考委員会（福島医大） |
| 9月1日 | 緊急医師確保修学資金個別面談（医大） |
| 9月16日 | 第9回診断推論セミナー開催（～17日） 講師：名古屋第二赤十字病院 副院長 野口 善令先生 |
| 9月25日 | 卒後臨床研修管理委員会（拡大） |
| 9月29日 | 地域実習2 発表会準備 |
| 10月7日 | レジデントスキルアップセミナー「地域医療症例検討会」開催 （ゲストハウスヒルトップエヌリゾート福島 相馬市） |
| 10月10日 | 地域実習2 発表会 |

- 10月14日 レジデントスキルアップセミナー「心エコーセミナー」開催
(コラッセふくしま)
- 10月21日 自治医大福島県支部会議(郡山)
- 10月23日 卒後臨床研修管理委員会
- 10月28日 レジデントスキルアップセミナー「腹部エコーセミナー」開催
(福島県立医科大学)
- 11月11日 第33回福島アドバンスド・コース(FACE)開催(～12日)
講師：群星臨床研修センター 徳田 安春先生
- 11月13日 グローバル医師育成海外研修事前説明会(東北大学病院)
- 11月18日 福島県主催指導医養成講習会(～19日)
(福島県立医科大学)
- 11月24日 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 福島2017開催
(ウエディングエルティ)
- 11月27日 卒後臨床研修管理委員会
- 12月1日 次年度採用研修医年次計画説明会(福島 SPAL NEXT ホール)
- 12月10日 グローバル医師育成海外研修(～17日)
- 12月27日 グローバル医師育成海外研修選考委員会(福島医大)
- 2018年
- 1月6日 福島県立医科大学主催臨床研修指導医講習会(～7日)
- 1月11日 指導医セミナー開催
講師：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター
大谷 晃司センター長、亀岡 弥生教授
(会津中央病院)
- 1月17日 指導医セミナー開催
講師：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター
大谷 晃司センター長、亀岡 弥生教授
(白河厚生総合病院)
- 1月22日 卒後臨床研修管理委員会
- 1月23日 指導医セミナー開催
講師：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター
大谷 晃司センター長
(公立藤田総合病院)
- 1月25日 指導医セミナー開催
講師：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター
大谷 晃司センター長
(公立岩瀬病院)
- 1月27日 第34回福島アドバンスド・コース(FACE)開催(～28日)

- メイン講師：福島県立医科大学神経内科学講座 松田 希先生
- 2月1日 指導医セミナー開催
講師：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター
大谷 晃司センター長、亀岡 弥生教授
(太田西ノ内病院)
- 2月2日 福島県臨床研修病院合同ガイダンス in 福島
- 2月13日 平成29年度第3回福島県臨床研修病院ネットワーク連絡会議 (福島医大)
- 2月14日 指導医セミナー開催
講師：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター
大谷 晃司センター長、亀岡 弥生教授
(星総合病院)
- 2月15日 指導医セミナー開催
講師：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター
大谷 晃司センター長
(大原総合病院)
- 2月17日 レジデントスキルアップセミナー「腹部エコーセミナー」開催
(福島県立医科大学)
- 2月19日 指導医セミナー開催
講師：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター
大谷 晃司センター長、亀岡 弥生教授
(公立相馬総合病院)
- 2月19日 平成29年度卒後臨床研修プログラム検討会議
- 2月22日 指導医セミナー開催
講師：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター
大谷 晃司センター長、亀岡 弥生教授
(南相馬市立総合病院)
- 2月24日 診断推論セミナーアドバンス編 (白河 FACE) 開催
- 2月25日 レジナビフェア (金沢) へ出展
- 2月26日 卒後臨床研修管理委員会
- 2月27日 地域実習2打合せ (福島医大)
- 3月4日 レジナビフェア (福岡) へ出展
- 3月7日 グローバル医師育成海外研修事前説明会 (東北大学病院)
- 3月12日 卒後臨床研修管理委員会 (拡大)
- 3月18日 レジナビフェア (東京) へ出展
- 3月20日 指導医セミナー開催
講師：福島県立医科大学 医療人育成・支援センター
大谷 晃司センター長、亀岡 弥生教授
(寿泉堂総合病院)

5年生との未来を語る会

事業内容と目的：臨床実習が始まる5年生に対して、スムーズに実習に入ることが出来るように、臨床系教員との交流をはかる。

| 開催年月日 | 場所 | 参加者 | |
|------------|------------|-----------|----|
| | | 5年生（学年人数） | 教員 |
| H28. 4. 22 | ウエディングエルティ | 87（101） | 71 |
| H29. 4. 7 | ウエディングエルティ | 125（146） | 65 |

第1部と第2部に分かれて構成されている。第1部のプログラムは、以下のとおり。

H28/H29：「BSLとはなんだろう」

- ・研修医と指導医によるパネルディスカッション

開催にあたっての資金は、医学部後援会から一部ご支援を頂いている。

学生に対するアンケート結果は概して良好。

参加者の声（H29アンケートより抜粋）

- ・充実した時間を過ごすことができた。
- ・気が引き締まりました。医療人として恥のないように頑張ります。
- ・多くの先生方とお話しできてとても良かった。

| | 5年生との未来を語る会を来年も開催すべきかどうか？ | | |
|-----|---------------------------|---------|-----------|
| | 開催した方がよい | どちらでもよい | 開催しなくてもよい |
| H28 | 54 | 8 | 0 |
| H29 | 105 | 7 | 1 |



研修医説明会

1. 臨床研修医募集に関する説明会

業者が主催する説明会（レジナビ）への参加と、福島県が主催する説明会への参加に大きく区別される。特に平成23年度からは、東日本大震災を受けて、単に臨床研修医募集を目的とするだけでなく、福島の実状を理解してもらおうという意味も含め、大阪や福岡で開催されるレジナビにも参加している。平成29年度の採用研修医には大阪レジナビで、平成30年度採用の研修医には東京レジナビ等に参加した学生を採用することが出来た。

| 開催年月日 | 説明会名称 | 事業主体 | 開催場所 | 参加病院 | 参加者数 | うち医大 |
|--------------|------------------------------|---------------|---------------------------|------|------|------|
| 2016. 5. 29 | e レジフェア2016 in 東京 | ネットワーク | 東京ドームシティ (東京都) | 5 | 64 | 19 |
| 2016. 6. 25 | 福島県臨床研修病院 ネットワークガイダンスin東京 | 福島県 ネットワーク | 都市センターホテル (東京都) | 13 | 8 | 3 |
| 2016. 7. 17 | レジナビフェア2016 in 東京 | 福島県 ネットワーク | 東京ビッグサイト (東京都) | 11 | 137 | 25 |
| 2016. 11. 25 | 福島県臨床研修病院 ネットワークガイダンス | 福島県 ネットワーク | ウエディングエルティ (福島市) | 18 | 88 | |
| 2017. 3. 5 | レジナビフェア2017 in 福岡 | ネットワーク | 福岡マリンメッセ (福岡市) | 1 | 10 | 10 |
| 2017. 3. 19 | レジナビフェア スプリング2017in 東京 | ネットワーク | 東京ビッグサイト (東京都) | 11 | 60 | 11 |
| 2017. 5. 28 | e レジフェア2017 in 東京 | ネットワーク | 東京ドームプリズムホール (東京都) | 5 | 83 | 38 |
| 2017. 6. 24 | 福島県臨床研修病院 ネットワークガイダンスin東京 | 福島県 ネットワーク | ステーションコンファレンス万世橋 (東京都) | 15 | 9 | 4 |
| 2017. 7. 2 | レジナビフェア2017 in 大阪 | ネットワーク | インテックス大阪 (大阪市) | 2 | 15 | 15 |
| 2017. 7. 16 | レジナビフェア2016 in 東京 | 福島県 ネットワーク | 東京ビッグサイト (東京都) | 12 | 156 | 35 |
| 2017. 11. 24 | 福島県臨床研修病院 ネットワークガイダンス | 福島県 ネットワーク | ウエディングエルティ (福島市) | 18 | 99 | |
| 2018. 2. 25 | レジナビフェア2018 in 金沢 | ネットワーク | 石川県産業展示館 (金沢市) | 2 | 15 | 11 |
| 2018. 3. 4 | レジナビフェア2018 in 福岡 | ネットワーク | 福岡マリンメッセ (福岡市) | 2 | 19 | 18 |
| 2018. 3. 18 | レジナビフェア スプリング2018in 東京 | ネットワーク | 東京ビッグサイト (東京都) | 12 | 98 | 22 |

ネットワーク：福島県臨床研修病院ネットワーク

2. 専攻医（いわゆる後期研修医）募集に関する説明会

専攻医については、各診療科（各基本領域プログラム）が主体となり、医局説明会等を開催し、募集活動をおこなっている。

平成30年度の採用者は新たな専門医制度が始まることや、県内臨床研修医の増加を背景に、81名（うち新制度77名、途中編入4名）と過去最高の実績となった。

医療人育成・支援センターでは、各基本領域プログラムにおける採用活動と連携し、学内外での説明会や民間主催説明会（レジナビ）へ参加するなど、広く応募を呼びかけている。

| 開催年月日 | 説明会名称 | 事業主体 | 開催場所 | 参加者数 |
|-------------|------------------------------|-----------------------------------|---------------------------|------|
| 2016. 6. 26 | レジナビフェア2016東京 ～専門研修プログラム～ | 福島県立医科大学 光が丘協議会 | 東京ビッグサイト (東京都) | 4 |
| 2016. 7. 16 | 新専門医制度 専門研修プログラム説明会 | 福島県立医科大学附属 病院、医療人育成・支 援センター | ビッグアイ（郡山市） | 11 |
| 2016. 7. 23 | | | 福島県立医科大学 8号館S301 | 19 |
| 2017. 6. 18 | レジナビフェア2017東京 ～専門研修プログラム～ | 福島県立医科大学附属 病院 | 東京ビッグサイト (東京都) | 4 |
| 2017. 6. 24 | 専門研修プログラム説明会 in 東京 | 福島県立医科大学附属 病院 | ステーションコンファレンス万世橋 (東京都) | 7 |

福島県臨床研修病院ネットワークの活動

福島県は医師不足が深刻な状況を踏まえ、平成22年11月に「地域医療再生計画」を策定し、各種施策を展開している。その一環として、県は本学に対する補助事業として「福島県臨床研修病院ネットワーク」を平成23年度から立ち上げ、当医療人育成・支援センターが事務局として運営している。活動は多岐にわたっている。

1. 臨床研修医招聘事業

1) 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 東京

首都圏の医学生に対する臨床研修病院の説明会として、毎年6月に都内で開催している。2012年からは、福島県とタイアップして、県の修学資金生に対する面談も合わせて行っている。参加学生数等は、以下の通り。

| 年度 | 参加医学生 | 県内臨床研修病院参加数 |
|------|-------|-------------|
| 2016 | 8名 | 13病院 |
| 2017 | 11名 | 15病院 |

2) レジナビフェア等への参加

各地で開催される医学生対象の臨床研修病院合同説明会に積極的に参加している。詳細は、別項の研修医説明会参照。

3) 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 福島で開催

県内研修病院の周知を目的として、福島医大5年生に対して、11月に開催している。県内全ての研修病院によるプレゼンテーションをはじめ、ネットワークの活動等の紹介も行う第1部と、立食パーティー形式の第2部からの構成を基本としている。

| 年度 | 開催月日 | 場所 | 参加学生数 | 5年生在籍数 | 参加率(%) |
|------|-------|------|-------|--------|--------|
| 2016 | 11.25 | エルティ | 88名 | 101名 | 87 |
| 2017 | 11.24 | エルティ | 99名 | 146名 | 68 |



4) 福島県臨床研修病院合同ガイダンス

平成21年度まで春期休業中に福島県主催で行われていた福島県内の臨床研修病院合同ガイダンスを平成22年度から、ネットワーク共催という形で開催している。

5) 福島県立医科大学内個別説明会等の開催

県内各臨床研修病院の福島医大学生への認知度を上げるために、各病院による昼休みや放課後での説明会や講義を積極的に奨めている。

| 年度 | 実施回数 | 参加病院数 | 合計参加学生数 |
|------|------|-------|---------|
| 2016 | 4回 | 3病院 | 183名 |
| 2017 | 3回 | 3病院 | 94名 |

6) ふくしま“絆”医学生臨床実習支援事業

平成24年度より、福島医大以外の医学生が県内臨床研修病院で学外臨床実習を行う場合、一人あたり5万円の助成を行っている。

| 年度 | 支援者数 | 大学数 | 病院数 |
|------|------|-----|-----|
| 2016 | 2名 | 2大学 | 1病院 |
| 2017 | 13名 | 6大学 | 4病院 |

2. 臨床研修医育成事業

1) 臨床研修医合同オリエンテーション

平成24年度より、4月の第1週の土日に、県内で臨床研修を開始する全ての研修医を集めた合同オリエンテーションを開始した。初日には、福島県臨床研修病院ネットワークや県内で開催しているFACEといった勉強会の紹介、ネットワークが県内の臨床研修医全てに提供しているEBM情報ツールであるDynaMedの使い方の紹介等のほか、知事をお招きした懇親会も行っている。翌日は、福島県ACLS協会の全面支援のもと、BSLを開催している。

2) 福島アドバンスド・コース（Fukushima Advanced Course by Experts：FACE）、診断推論セミナーの開催

温泉付きの1泊2日の勉強会として、全国的に有名となったFACEと診断推論セミナーを開催している。

3) セルフ鍛錬研修の提供

県内の臨床研修の質の向上と均てん化をはかるため、インターネットを活用した自主研修教材の提供を行っている。

4) ACLS

県内の臨床研修の質の向上と均一化をはかる一貫として、NPO法人福島県ACLS協会の全面的な支援のもと、平成24年度からは、BLSは合同オリエンテーションで受講させることで受講の機会を提供している。県内臨床研修医のACLS受講実績は、以下の通りである。

ACLS 取得状況

| No. | | 在籍者数 | | 受講者数 | | 受講率 | |
|-----|-----------|------|-----|------|-----|--------|--------|
| | | 1年次 | 2年次 | 1年次 | 2年次 | 1年次 | 2年次 |
| 1 | 医科大学附属病院 | 12 | 17 | 12 | 15 | 100.0% | 88.2% |
| 2 | 大原総合病院 | 8 | 8 | 8 | 8 | 100.0% | 100.0% |
| 3 | わたり病院 | － | 1 | － | 1 | － | 100.0% |
| 4 | 福島赤十字病院 | 5 | 6 | 5 | 4 | 100.0% | 66.7% |
| 5 | 公立藤田総合病院 | 3 | 3 | 3 | 3 | 100.0% | 100.0% |
| 6 | 太田西ノ内病院 | 12 | 14 | 11 | 12 | 91.7% | 85.7% |
| 7 | 星総合病院 | 6 | 6 | 6 | 6 | 100.0% | 100.0% |
| 8 | 総合南東北病院 | 7 | 10 | 7 | 10 | 100.0% | 100.0% |
| 9 | 寿泉堂総合病院 | 6 | 6 | 6 | 6 | 100.0% | 100.0% |
| 10 | 公立岩瀬病院 | 3 | 1 | 2 | 1 | 66.7% | 100.0% |
| 11 | 白河厚生総合病院 | 6 | 6 | 4 | 6 | 66.7% | 100.0% |
| 12 | 竹田総合病院 | 10 | 10 | 10 | 10 | 100.0% | 100.0% |
| 13 | 会津医療センター | 5 | 3 | 5 | 3 | 100.0% | 100.0% |
| 14 | 会津中央病院 | 4 | 4 | 4 | 4 | 100.0% | 100.0% |
| 15 | 総合磐城共立病院 | 7 | 3 | 7 | 3 | 100.0% | 100.0% |
| 16 | 福島労災病院 | － | － | － | － | － | － |
| 17 | 公立相馬総合病院 | 2 | 2 | 2 | 2 | 100.0% | 100.0% |
| 18 | 南相馬市立総合病院 | 1 | 3 | 1 | 3 | 100.0% | 100.0% |
| 合 計 | | 97 | 103 | 93 | 97 | 95.9% | 94.2% |

*平成30年3月時点

5) レジデントスキルアップセミナー

平成24年度から、臨床研修開始時に合同オリエンテーションを行い、臨床研修医の交流の場を設けた。FACEや診断推論セミナーは、研修医の交流の場、すなわち、他者と比較することで、自分の研修のすすみ具合を確認して、研修のモチベーションを高めてもらうという意味も持たせているのであるが、必ずしも県内臨床研修医が多く集まるわけではない。また、臨床研修医からは、合同オリエンテーションだけでなく、研修医が集まる場を提供して欲しいという要望もあり、本事業を平成24年度から立ち上げ、年1回の開催から始まったが、平成28年度は3回開催、平成29年度は4回開催した。開催実績は以下の通り。

平成28年10月22日 福島県地域医療症例検討会

発表者：12名（9臨床研修病院）

（竹田総合病院にて開催）

平成28年10月29日 心エコーセミナー

参加臨床研修医 36名

（とうほう・みんなの文化センターにて開催）

平成29年2月25日 腹部エコーセミナー

参加臨床研修医 34名

（コラッセふくしまにて開催）

平成29年10月7日 福島県地域医療症例検討会

発表者：12名（8臨床研修病院）

（ゲストハウスヒルトップエヌリゾート福島にて開催）

平成29年10月14日 心エコーセミナー

参加臨床研修医 27名

（コラッセふくしまにて開催）

平成29年10月28日 腹部エコーセミナー

参加臨床研修医 26名

（福島医大にて開催）

平成30年 2月17日 腹部エコーセミナー
参加臨床研修医 23名
(福島医大にて開催)

6) 短期海外研修

米国日本人医師会による協力のもと、平成26年度から派遣費用の予算を確保していただき、年2回希望者を派遣している。

平成28年 5月 8日～16日 県内研修医 1名

・福島県立医科大学 郷野 開史先生

平成28年12月10日～18日 県内研修医 4名

・福島県立医科大学 武田 由紀子先生

・福島県立医科大学 三澤 友誉先生

・福島県立医科大学 佐久間 洋太先生

・福島県立医科大学 斎藤 友紀子先生

平成29年 4月24日～28日 県内研修医 3名

・太田西ノ内病院 竹石 遼平先生

・総合南東北病院 関 晴永先生

・南相馬市立総合病院 福岡 裕晃先生

平成29年12月11日～15日 県内研修医 3名

・会津中央病院 大塚 礼央先生

・太田西ノ内病院 布施田 泰之先生

・総合南東北病院 有野 敦司先生



3. 研修指導強化事業

1) 指導医講習会

ネットワークは、県主催の福島県医師臨床研修指導医養成講習会と、福島県立医科大学主催の臨床研修指導医講習会を共催・支援している。

詳細は、別項参照。

2) 指導医セミナー

平成16年度から実施されている医師臨床研修制度では、研修医を指導する“臨床研修指導医（いわゆる指導医）”は、厚生労働省が定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った指導医講習会の受講が義務とされている。この受講は、1度受ければ更新の必要はない。さらなる臨床研修の改善のために、いわば“アフター指導医講習会”としての各臨床研修病院のプログラム責任者を含む指導医や研修事務担当者を対象としたセミナーを平成22年度から開催している。

4. 広報事業

以下のような事業を行っている。

1) ホームページの開設、臨床研修医メーリングリストの作成

2) 福島県臨床研修病院ガイドブックの作成

3) ネットワーク通信の発行

月に1回、ネットワーク通信として県外医学生等に対し郵送し、ネットワークの各種事業や県内臨床研修病院の病院見学や各種イベントの広報や紹介を行っている。

4) 臨床研修病院のPRコーナーの設置など

福島医大内に県内臨床研修病院のPRコーナーを設け、パンフレットを置いている。また、各病院のイベント等の紹介を学内の医療人育成・支援センター掲示板を使い、適時掲示している。

5. 成果－臨床研修医採用状況

臨床研修制度開始以来の県内・医大の臨床研修医マッチングと採用実績は、以下の通りである。
平成29年度のマッチング数では、史上最高の110名が県内臨床研修病院にマッチしている。

福島県臨床研修病院ネットワークの活動が、各病院の努力と相まって、本県の医療状況の改善に役立つことが期待されている。

| 年度（和暦） | | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
|-------------|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 福島県臨床研修医採用数 | | 85 | 76 | 72 | 72 | 69 | 56 | 77 | 91 | 83 | 98 | 94 |
| 最終採用者数 | 福島医大卒 | 44 | 37 | 41 | 42 | 44 | 26 | 48 | 53 | 48 | 53 | 57 |
| | 福島医大以外卒 | 41 | 39 | 31 | 30 | 25 | 30 | 29 | 38 | 35 | 45 | 37 |
| | 県内出身 | 37 | 38 | 34 | 39 | 30 | 27 | 49 | 52 | 41 | 48 | 55 |
| | 県外出身 | 48 | 38 | 38 | 33 | 39 | 29 | 28 | 40 | 42 | 51 | 39 |
| 福島県マッチング総数 | | 82 | 77 | 72 | 72 | 79 | 60 | 76 | 92 | 88 | 96 | 97 |
| （うち県内出身） | | | 31 | 33 | 30 | 23 | 28 | 45 | 39 | 44 | 46 | 55 |
| 福島医大 | 6年生数 | 82 | 79 | 79 | 79 | 84 | 75 | 80 | 90 | 102 | 101 | 110 |
| | 県内出身 | 25 | 31 | 33 | 30 | 23 | 28 | 45 | 39 | 43 | 43 | 48 |

6. 参考；福島医大学生の県内研修病院認知度調査

(平成29年4月 福島医大5年生)

| 県内研修病院名 | よく知っている | 名前は聞いたことがある | 知らない |
|-----------|---------|-------------|------|
| 大原総合病院 | 41 | 92 | 0 |
| わたり病院 | 41 | 90 | 2 |
| 福島赤十字病院 | 34 | 98 | 1 |
| 公立藤田総合病院 | 11 | 108 | 14 |
| 太田西ノ内病院 | 24 | 107 | 2 |
| 星総合病院 | 28 | 103 | 2 |
| 総合南東北病院 | 27 | 105 | 1 |
| 寿泉堂総合病院 | 26 | 107 | 0 |
| 公立岩瀬病院 | 9 | 91 | 33 |
| 白河厚生総合病院 | 19 | 105 | 9 |
| 竹田総合病院 | 18 | 113 | 2 |
| 会津医療センター | 29 | 103 | 1 |
| 会津中央病院 | 12 | 93 | 28 |
| 磐城共立病院 | 22 | 106 | 5 |
| 福島労災病院 | 9 | 91 | 32 |
| 公立相馬総合病院 | 9 | 107 | 17 |
| 南相馬市立総合病院 | 7 | 107 | 19 |

福島・良き医師をはぐくむプロジェクト

福島県では個々の病院で研修している研修医同士が交流しながら勉強する機会がないという認識の元、平成21年より、福島アドバンスドコース（FACE：Fukushima Advanced Course by Experts）と診断推論セミナーを開催している。交流を通じて、研修医同士が自分の研修内容や実績を他院の研修医と比較し、今後の研修の励みとするとともに、指導医も交流することが出来れば、県内の研修の質の向上につながるのではないかという意図で開催を続けている。当初は、県内の研修医を対象に企画していたが、回を重ねるたびに県外の研修医や県内外の医学部生が集まり、切磋琢磨の場のみならず、福島県の臨床研修の魅力を伝える場にもなっている。

一般財団法人太田総合病院の全面的な支援をいただき、源泉温泉付きの磐梯熱海の緑風苑で開催しており、温泉付きの勉強会として、全国的にも有名な勉強会となっている。

1. 福島アドバンスドコース

| 回数 | 開催年月日 | メイン講師 |
|------|-----------------|-------------------------------|
| 第27回 | 平成28年6月4日～5日 | 竹田総合病院小児科 長澤 克俊先生 |
| 第28回 | 平成28年8月6日～7日 | 西伊豆健育病院 仲田 和正先生 |
| 第29回 | 平成28年11月12日～13日 | 東京高輪病院 岡 秀昭先生 |
| 第30回 | 平成29年2月4日～5日 | 埼玉医科大学総合医療センター 救急科 久村 正樹先生 |
| 第31回 | 平成29年5月27日～28日 | 白河厚生総合病院 東 光久先生 |
| 第32回 | 平成29年8月26日～27日 | 亀田総合病院 中島 啓先生 |
| 第33回 | 平成29年11月11日～12日 | 群星臨床研修センター長 徳田 安春先生 |
| 第34回 | 平成30年1月27日～28日 | 福島県立医科大学神経内科学講座 松田 希先生 |

| 回数 | 学生 | | 臨床研修医 | | 後期研修医 | 医師 | 合計 |
|------|------|-----|-------|----|-------|----|----|
| | 福島医大 | その他 | 県内 | 県外 | | | |
| 第27回 | 4 | 0 | 26 | 6 | 0 | 4 | 40 |
| 第28回 | 1 | 1 | 12 | 1 | 0 | 5 | 20 |
| 第29回 | 2 | 2 | 21 | 7 | 0 | 9 | 41 |
| 第30回 | 0 | 0 | 13 | 0 | 0 | 3 | 16 |
| 第31回 | 1 | 0 | 17 | 1 | 0 | 2 | 21 |
| 第32回 | 1 | 0 | 23 | 0 | 1 | 5 | 30 |
| 第33回 | 5 | 2 | 16 | 7 | 0 | 5 | 35 |
| 第34回 | 2 | 1 | 12 | 1 | 0 | 3 | 19 |



2. 診断推論セミナー

| | 開催年月日 | メイン講師 |
|-----|----------------|--------------------------|
| 第8回 | 平成28年9月17日～18日 | 名古屋第二赤十字病院副院長 野口 善令先生 |
| 第9回 | 平成29年9月16日～17日 | |

| 回数 | 学生 | | 臨床研修医 | | 後期 研修医 | 医師 | 合計 |
|-----|------|-----|-------|----|-----------|----|----|
| | 福島医大 | その他 | 県内 | 県外 | | | |
| 第8回 | 1 | 0 | 11 | 2 | 1 | 1 | 16 |
| 第9回 | 1 | 1 | 11 | 1 | 0 | 2 | 16 |



指導医講習会

平成16年度から実施されている医師臨床研修制度において、研修医を指導する“臨床研修指導医（いわゆる指導医）”は、厚生労働省が定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った指導医講習会の受講が義務とされています。医療人育成・支援センターは、県主催の福島県医師臨床研修指導医養成講習会と、福島県立医科大学主催の新臨床研修指導医養成研修会の実施を実質的に担っています。平成28年度、29年度の開催実績は、以下の通りです。

1. 福島県医師臨床研修指導医養成講習会

平成28年10月8・9日 会場：福島医大

受講人数25名（うち医大15名）

ディレクター：井出 孝利（福島県保健福祉部長）

バイスディレクター：福井 次矢（聖路加国際病院院長）

タスクフォース：向原 茂明（壱岐市民病院総病院長）

羽金 和彦（国立病院機構栃木医療センター統括診療部長）

渡辺 直彦（町立三春病院院長）

村川 雅洋（麻酔科学講座主任）

石川 和信（医療人育成・支援センター）

大谷 晃司（医療人育成・支援センター）

事務局：安達 豪希、湯田 保、佐藤 洋介、伊藤 悠、阿部 孝之、
石井 あかり、石井 美紀

平成29年11月18・19日 会場：福島医大

受講人数27名（うち医大14名）

ディレクター：井出 孝利（福島県保健福祉部部長）

バイスディレクター：福井 次矢（聖路加国際病院院長）

タスクフォース：向原 茂明（長崎県壱岐病院院長）

羽金 和彦（独立行政法人国立病院機構栃木医療センター統括診療部長）

渡辺 直彦（町立三春病院院長）

村川 雅洋（麻酔科学講座主任）

大谷 晃司（医療人育成・支援センター長）

濱口 杉大（総合内科）

木村 隆（外科研修支援担当）

事務局：高野 武彦、佐久間 止揚、岡部 安志、伊藤 悠、阿部 孝之、
石井 美紀、石井 晃平

2. 臨床研修指導医講習会

平成29年1月7・8日 会場：福島医大

受講者数38名（うち医大19名）

ディレクター：斎藤 清（福島医大附属病院長）

バイスディレクター：福井 次矢（聖路加国際病院院長）

タスクフォース：向原 茂明（壱岐市民病院総病院長）

羽金 和彦（国立病院機構栃木医療センター統括診療部長）

渡辺 直彦（町立三春病院院長）

村川 雅之（麻酔科学講座主任）

大谷 晃司（医療人育成・支援センター長）

濱口 杉大（総合内科）

木村 隆（外科研修支援担当）

事務局：大橋 英樹、五十嵐 睦、吉田 克己、石井 美紀、加藤 倫子、
菅野 祐樹、紺野 明美、佐藤 洋介

平成30年1月6・7日 会場：福島医大

受講者数33名（うち医大16名）

ディレクター：斎藤 清（福島医大附属病院長）

バイスディレクター：福井 次矢（聖路加国際病院院長）

タスクフォース：向原 茂明（壱岐市民病院総病院長）

羽金 和彦（国立病院機構栃木医療センター統括診療部長）

渡辺 直彦（町立三春病院院長）

村川 雅之（麻酔科学講座主任）

大谷 晃司（医療人育成・支援センター長）

濱口 杉大（総合内科）

木村 隆（外科研修支援担当）

事務局：五十嵐 睦、吉田 克己、石井 美紀、石井 晃平、十文字 高志、
岡部 安志、伊藤 悠、阿部 孝之



3. 県内研修病院での指導医の割合の現状

| | 臨床経験7年目以上の 指導する立場の医師数 | 指導医講習会 受講者数 | 受講率 (%) | 臨床研修病院数 |
|------------|--------------------------|----------------|-------------|-----------|
| 青森県 | 756 | 591 | 78.2 | 13 |
| 岩手県 | 758 | 600 | 79.2 | 12 |
| 宮城県 | 1,445 | 934 | 64.6 | 19 |
| 秋田県 | 783 | 577 | 73.7 | 14 |
| 山形県 | 656 | 403 | 61.4 | 9 |
| 福島県 | 1,044 | 812 | 77.8 | 18 |
| 東北6県 | 5,442 | 3,917 | 72.0 | 85 |

(平成29年4月1日現在 東北厚生局調べ)

| | 指導医講習会受講率 (%) | | | |
|------------|---------------|-------------|-------------|-------------|
| | H26年 | H27年 | H28年 | H29年 |
| 青森県 | 71.7 | 71.6 | 73.3 | 78.2 |
| 岩手県 | 71.2 | 72.0 | 76.6 | 79.2 |
| 宮城県 | 52.8 | 54.9 | 58.7 | 64.6 |
| 秋田県 | 73.4 | 69.0 | 72.0 | 73.7 |
| 山形県 | 54.5 | 52.5 | 57.0 | 61.4 |
| 福島県 | 72.3 | 74.0 | 75.3 | 77.8 |
| 東北6県 | 65.0 | 65.1 | 68.4 | 72.0 |

(東北厚生局調べ)

| 大学病院 | 臨床経験7年目以上の 指導する立場の医師数 | 指導医講習会 受講者数 | 受講率 (%) |
|-------------|--------------------------|----------------|-------------|
| 弘前大 | 223 | 170 | 76.2 |
| 岩手医大 | 315 | 226 | 71.7 |
| 東北大 | 401 | 245 | 61.1 |
| 秋田大 | 237 | 149 | 62.9 |
| 山形大 | 170 | 76 | 44.7 |
| 福島医大 | 321 | 293 | 91.3 |
| 東北6大学 | 1,667 | 1,159 | 69.5 |

(平成29年4月1日現在 東北厚生局調べ)

| | 指導医講習会受講率 (%) | |
|---------------|---------------|------|
| | H22年 | H29年 |
| 福島県立医科大学附属病院 | 71.5 | 91.3 |
| 大原総合病院 | 42.1 | 84.1 |
| 太田西ノ内病院 | 57.0 | 74.0 |
| 星総合病院 | 53.1 | 75.0 |
| 竹田総合病院 | 47.3 | 56.7 |
| いわき市立総合磐城共立病院 | 16.2 | 60.5 |
| 総合南東北病院 | 34.2 | 62.9 |
| 公立岩瀬病院 | 57.1 | 73.9 |
| 福島労災病院 | 13.0 | 72.4 |
| 医療生協わたり病院 | 68.4 | 73.7 |
| 寿泉堂総合病院 | 89.3 | 78.8 |
| 白河厚生総合病院 | 69.2 | 77.6 |
| 公立藤田総合病院 | 87.5 | 88.5 |
| 会津中央病院 | 30.0 | 70.0 |
| 会津医療センター附属病院 | 77.8 | 83.7 |
| 福島赤十字病院 | 45.7 | 81.1 |
| 公立相馬総合病院 | — | 82.4 |
| 南相馬市立総合病院 | — | 70.6 |
| 福島県平均 | 53.7 | 75.4 |

(東北厚生局調べ)

県別に見れば、福島県の指導医講習会の受講率は年々増加している。特に、平成29年4月1日における受講率は、大学附属病院として東北でトップであり、また、福島県内でもトップである。これには、年2回の指導医講習会を開催していることが大きく影響を与えていると考えられる。県内の研修病院の質の向上のためには、多施設の指導医と交流しながら研修医教育の在り方を考えることができる本講習会はきわめて有意義であり、受講率の低い病院の受講率を上げることが、喫緊の課題である。

臨床研修医に対する支援・教育（メンター制度を除く）

臨床医学教育研修部門の主たる業務の一つが、福島医大附属病院臨床研修医に対する支援や教育である。本項では、メンター制度を除いた本学研修医に対する様々な支援や教育活動について述べる。

1. ステップ・アップ・セミナー

毎週火曜日18：00から1時間程度、主としてOJTでできない知識や技能の総まとめを目的として行っている。主に臨床研修医に内容の選定を委ねることとし、ステップ・アップ・セミナー受講率70%を臨床研修プログラム修了の必須条件としている。

2. ACLS

福島医大附属病院では、平成23年度より、福島県 ACLS 協会の全面的な支援の元、福島県臨床研修病院ネットワークの事業として、福島県内の臨床研修医は、臨床研修終了までにACLSを取得することを目標として、県内各地で開催される ACLS 講習会の研修医優先枠を設定して頂いている。平成24年度からは、臨床研修開始時の合同オリエンテーションでBSLを終了し、向こう1年以内でのACLS受講を積極的に薦めている。平成29年度の福島医大附属病院臨床研修医のACLS受講者率は、以下の通り。

| | 在籍者数 (A) | 受講修了者数 (B) | 受講率 (%) |
|-----|-------------|---------------|------------|
| 1年次 | 12 | 12 | 100.0% |
| 2年次 | 17 | 15 | 88.2% |

※1年次は、プログラムA（ベーシックコース）のみ的人数で、プログラムB（ハイブリッドコース、いわゆるたすきがけ）を除いた数である。

3. 研修資金補助

研修資金補助を目的として、平成23年度より助成制度を開始した。学会や研修会参加費及び交通費等を年間20万円まで助成し、臨床研修に関する費用であれば比較的自由に使うことができるようにしている。

| | 利用額（円） | | | 利用者率（%） | 総予算の利用額率（%） |
|--------|--------|---------|---------|-------------|-------------------|
| | 最低 | 最高 | 平均 | | |
| 2016年度 | 0 | 200,000 | 163,454 | 23/24=95.8% | 392.2/480万=81.7%※ |
| 2017年度 | 0 | 200,000 | 107,062 | 22/26=84.6% | 278.3/520万=53.5%※ |

※対象者は、プログラムBによる市中病院所属者を除く。

臨床研修医に対する支援：メンター制度

【メンター制度とは】

初期臨床研修医（以下、研修医）は、特定の診療科に属することなく、ローテーションで研修を行っているため、研修中に問題や悩みが生じた場合に、研修期間を通し一貫して相談できるシステムがない。メンター制度は、この欠点を補うためのものであり、研修の進め方、研修後の進路、あるいは健康面（身体的・精神的）を含むさまざまな問題に対して、研修医が相談できる環境を整え、研修医が安心して、充実した研修を行えることを目的としたシステムである。

研修医に対する充実したサポートは、研修医の脱落防止や満足度向上につながり、結果として、研修医の確保が期待される。

【福島医大附属病院のメンター制度の特徴】

研修医1名に対して、シニアメンターとメンターがそれぞれ1名ずつ担当する。シニアメンターは、臨床や研究経験が豊富であり、教育実績のある教員が担当し、主に研修医のキャリアサポートを行う。一方のメンターは、医療人育成・支援センターの教員（臨床医学教育研修部門の教員）が担当し、研修後のキャリアサポートに加えて、研修中に生じる疑問や不安、EPOC実施入力を含む研修到達度の確認など研修に関する幅広いサポートを行うほか、研修医の日常生活や健康状態といった研修生活全般に対するサポートも担う。シニアメンターは研修開始前に、研修医の希望によって自由に選択することができる。また、シニアメンターもメンターも、研修途中での変更が可能である。

メンター制度の一環として、研修環境に対する希望や疑問、および研修医の健康状態の把握を目的として、年に1回、アンケートを実施している。アンケート結果は、各シニアメンターやメンターへ報告され、メンタリングへ活用されるほか、研修環境を向上させるための参考資料としても活かされる。

【メンタリングについて】

研修医は、シニアメンターとメンターに対して、希望する際にはいつでも相談を受けられることになっている。また、特に研修医からの相談希望がない場合でも、シニアメンターとは年に1回、メンターとは年に2回、定期的にメンタリングを実施しており、研修医の研修状況や健康状態などについて確認し、2年間の研修が滞りなく進められるようにサポートしている。

【今後の課題と展望】

メンターは、研修医と年齢が近く、何でも気軽に相談できる存在として、研修医をサポートすることが期待されている。しかしながら、メンターが常駐する部屋は整備されておらず、物理的にメンターと研修医が接点をもつ機会は限られている。そのため、通常のメンタリング以外においても、研修医と連絡を取ることが必要である。また、通常、メンターと比較して、研修医と接点が多く、研修医の研修状況や生活状況等を把握しているのは、事務職員であることが多いため、事務職員とメンターとの情報交換を定期的に行うことも研修医のサポートには不可欠であり、そのためのシステム作りも今後の課題である。

メンター制度の年間スケジュール

| 時 期 | 内 容 |
|--------|--------------------------|
| 4月上旬 | 研修医オリエンテーション（メンター制度について） |
| 6月中旬～ | メンターとのメンタリング（第1回） |
| 10月中旬～ | シニアメンターとのメンタリング |
| 2月上旬～ | メンターとのメンタリング（第2回） |
| 2月中旬～ | アンケート実施 |

福島県地域医療を考える懇談会

福島医大の定員増に合わせて、福島県の修学資金受給者が大幅に増加している。学年が上がるにつれ、修学資金受給者は、修学資金受給の義務を実際にはどのように果たしていくのか、自分の将来の専門性やキャリアアップと義務を果たすことの整合性はどうか等、様々な疑問を持つようになる。福島県の地域医療支援センターは、適宜、奨学金受給者との面談を行い、修学資金制度の説明を個別に行いながら、上記の疑問に答えるべく努力をしている。福島県は、将来の修学資金受給の義務を果たす対象となる県内の公的病院を修学資金受給者に周知し、また、実際の修学資金受給者がどのように義務を果たしているかの実情を知ってもらうために、平成24年度（平成25年2月開催）より、福島県地域医療を考える懇談会を開催している。医療人育成・支援センターの臨床医学教育研修部門は、この懇談会の開始当初から、協力している。具体的には、福島県の医療の状況と修学資金受給の義務と自分の将来の専門性やキャリアアップについての講演を行っている。

参加対象 福島医大4年生、5年生の修学資金受給者等

参加病院 福島医大、大原総合、わたり、福島赤十字、公立藤田、太田西ノ内、星総合、総合南東北、寿泉堂、公立岩瀬、白河厚生、竹田総合、会津医療センター、会津中央、総合磐城共立、福島労災、公立相馬、南相馬市立

内容 福島県の医療の現状について講演（福島医大 大谷晃司）

地域医療の現場を経験して講演（修学資金受給者 H29 山内健士朗、H30 小林一貴医師）



平成29年 2月3日 参加 4年生：42名 5年生：44名

平成30年 2月2日 参加 4年生：22名 5年生：44名

★参加病院

- 大原総合病院
- 医学生協わたり病院
- 福島赤十字病院
- 公立藤田総合病院
- 水田西ノ内病院
- 星総合病院
- 総合東北病院
- 寿泉堂総合病院
- 公立岩瀬病院
- 白河厚生総合病院
- 竹田総合病院
- 会津医療センター
- 会津中央病院
- いわき市立総合医療センター
- 福島労災病院
- 公立相馬総合病院
- 南相馬市立総合病院（予定）

★臨床研修病院との相談会

★講演

『福島県の医療の現状について（仮題）』
福島県立医科大学 医療人育成・支援センター 教授 大谷雅司先生（予定）

『地域医療の現場を越えて（仮題）』
福島県の進学認定病院年次報告（予定）

★参加費無料【申込締切】12/28（水）

申込は
件名：懇談会参加希望
本文：学年・氏名
〒981-8505
福島県福島市
〒981-8505
までメールでお送りください！

★申し込み・問い合わせ先

地域医療支援センター
【福島県福島市6号館2階】
電話：024-547-1716 F.A.Q：024-547-1901
E-MAIL：rmisc@fmu.ac.jp

平成29年度
福島県地域医療を考える懇談会
合同ガイダンス

平成30年 2月2日（金）17：40～20：00
会場 福島県立医科大学 6号館2階 第3講義室他

臨床研修病院との相談会

各研修病院の指導医の先生や研修医の先生と直接お話をできます。気になることを自由に質問できるチャンスです。

対象
医学生

★講演

『福島県の医療の現状について（仮題）』
福島県立医科大学 医療人育成・支援センター 員 大谷雅司教授

『地域医療の現場を越えて（仮題）』
福島県立総合病院 小村一貴部長

★参加病院

- 福島県立医科大学附属病院
- 大原総合病院
- 医学生協わたり病院
- 福島赤十字病院
- 公立藤田総合病院
- 水田西ノ内病院
- 星総合病院
- 総合東北病院
- 寿泉堂総合病院
- 公立岩瀬病院
- 白河厚生総合病院
- 竹田総合病院
- 会津医療センター
- 会津中央病院
- いわき市立総合医療センター
- 福島労災病院
- 公立相馬総合病院
- 南相馬市立総合病院

★参加費無料【申込締切】12/28（水）

申込方法
件名：懇談会参加希望
本文：所属会・学年・氏名
を記入し rmisc@fmu.ac.jp
までメール送信

【問い合わせ先】
福島県立医科大学 地域医療支援センター
電話：024-547-1716 E-MAIL：rmisc@fmu.ac.jp

主催：福島県・公立大学法人福島県立医科大学（地域医療支援センター）
共催：福島県立医科大学附属病院 大原総合病院 医学生協わたり病院 福島赤十字病院
公立藤田総合病院 水田西ノ内病院 星総合病院 総合東北病院 寿泉堂総合病院
公立岩瀬病院 白河厚生総合病院 竹田総合病院 福島県立医科大学会津医療センター
会津中央病院 いわき市立総合医療センター 福島労災病院
公立相馬総合病院 南相馬市立総合病院

修学資金生・自治医科大学学生との合同セミナー

将来勤務先を同じくする可能性のある本県出身の自治医科大学学生と福島医大の修学資金被貸与者や地域医療に関心のある学生を対象とした合同セミナーを開催している。交流を通じて学生一人ひとりの福島県の地域医療に対する関心を持ってもらうことを目的としている。以前は、医療人育成・支援センターの独自の取り組みであったが、平成24年度からは、県の委託事業として、年に2回、開催している。なかなか学生のスケジュールがあわず、参加者数からみれば十分とはいえないが、自治医科大学や福島医大生だけでなく、他大学の学生も参加しており、学生と福島県内の指導医や大学教員とのお互いの顔が見える良い交流の機会となっている。

平成28年8月27日 ふくしまの地域医療を学ぶサマーセミナー2016

参加者：福島県立医科大学4名、自治医科大学2名、指導医等9名

内 容：

- ・公立岩瀬病院視察
- ・地域医療について学ぶ（公立岩瀬病院 三浦純一 講演）
- ・BLSの講義と実技指導、学生によるBLS実技指導について学ぶ
（会津中央病院 佐竹秀一 講演と実習）



平成29年3月25、26日 ふくしまの地域医療を学ぶスプリングセミナー2017

参加者：福島県立医科大学5名、自治医科大学4名、東北医科薬科大学2名、島根大学1名、指導医等7名、初期臨床研修医3名

内容：

- ・公立相馬総合病院視察、相馬市内の視察
- ・地域医療で初期臨床研修（公立相馬総合 鳥羽直弥 講演）
- ・東日本大震災直後の相双地域の状況と現在の地域医療の問題点について
（相双保健福祉事務所 尾形真一 講演）
- ・南相馬市の現況と医療の課題（南相馬市立総合病院 安部宏 講演）
- ・元気になって退院するまで（会津中央病院 佐竹秀一 講演）

- ・ どうしたら相馬地域の医師不足が解消するか？(福島医大 大谷晃司 講演とグループワーク)



平成29年9月30日 ふくしまの地域医療を学ぶオータムセミナー2017

参加者：福島県立医科大学2名、自治医科大学4名、東北医科薬科大学2名、島根大学1名、
福島医大指導医1名、県内指導医等5名、初期臨床研修医1名

内容：

- ・ 竹田総合病院視察
- ・ 研修医奮闘記（竹田総合病院 野口祐紀 講演）
- ・ 昭和村の地域医療について（昭和村国民健康保険診療所 今井一男 講演）
- ・ 医療の絆 緩和ケア（竹田総合病院 渡邊陸弥 講演）
- ・ 地域医療連携とクリティカルパス（竹田総合病院 丑木真紀 高橋雄哉 講演）
- ・ 終末期患者と治療・ケアについて（会津中央病院 佐竹秀一 講演）
- ・ 在宅医療について（会津中央病院 佐竹秀一 講演）
- ・ 会津地域に必要なとされる医師とは？技能とは？どうしたら賛成できる？（グループワークと発表）



(文責 大谷晃司)

平成28年度 ステップ・アップ・セミナー

| | 月日 | 曜日 | 内容等 | 所属 | 講師（敬称略） | 開催場所 |
|------|--------|-----|----------------------------|--------------------|-----------------|-----------------------|
| 第1回 | 4月5日 | (火) | インシデント事例のRCA分析法 | 医療安全管理部 | 沼崎先生 | 北外来棟2階 カンファランス2 |
| 第2回 | 4月12日 | (火) | シーネ巻 | センター | 大谷先生 | スキルラボ アドバンス |
| 第3回 | 4月19日 | (火) | 献血検診医師研修プログラム | 赤十字血液センター | 所長 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第4回 | 4月26日 | (火) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生、矢野先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第5回 | 5月10日 | (火) | 処方オーダー・注射オーダーの注意点 | 薬剤部 | 山崎先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第6回 | 5月17日 | (火) | ふくしま子ども・女性医療支援センター開設記念セミナー | 子ども・女性医療 支援センター | センター長他 | コラッセふくしま5階 研修室AB |
| 第7回 | 5月24日 | (火) | 漢方 | ツムラ | | 4号館4階第2ゼミ |
| 第8回 | 5月31日 | (火) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生、矢野先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第9回 | 6月7日 | (火) | (研修医ミーティング) | | | 4号館4階第2ゼミ |
| 第10回 | 6月14日 | (火) | 救急ステップアップラリー（蘇生） | 救急科 | 塚田先生他 | スキルラボ アドバンス |
| 第11回 | 6月21日 | (火) | 真菌感染症勉強会 | 感染制御 | 山本先生、金光先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第12回 | 6月28日 | (火) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生、矢野先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第13回 | 7月5日 | (火) | 処方オーダー・注射オーダーの注意点 | 薬剤部 | 山崎先生 | 北外来棟2階 オーダーリング研修室 |
| 第14回 | 7月12日 | (火) | 救急ステップアップラリー（院内急変） | 救急科・麻酔科・脳外 | 矢野先生他 | スキルラボ アドバンス |
| 第15回 | 7月19日 | (火) | Up To Date 講習会 | 学術情報センター | Up To Date日本事務所 | 8号館3階 情報処理演習室 |
| 第16回 | 7月26日 | (火) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生、矢野先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第17回 | 8月2日 | (火) | (研修医ミーティング) | | | 4号館4階第2ゼミ |
| 第18回 | 8月23日 | (火) | 救急ステップアップラリー（外傷） | 救急科・放射線科 | 塚田先生他 | スキルラボ アドバンス |
| 第19回 | 8月30日 | (火) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生、矢野先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第20回 | 9月6日 | (火) | (研修医ミーティング) | | | 4号館4階第2ゼミ |
| 第21回 | 9月13日 | (火) | 救急ステップアップラリー（気道管理） | 救急科・麻酔科 | 島田先生他 | スキルラボ アドバンス |
| 第22回 | 9月16日 | (金) | 救急ステップアップラリー（チーム対抗競技） | 救急科 | 塚田先生他 | スキルラボ アドバンス |
| 第23回 | 9月27日 | (火) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生、矢野先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第24回 | 10月4日 | (火) | 医療安全概論 | 医療安全管理部 | 沼崎先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第25回 | 10月11日 | (火) | 臨床診断／診断推論のお作法 | 医療人育成支援センター | 大谷先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第26回 | 10月18日 | (火) | 運動器慢性疼痛の治療の考え方 | 医療人育成支援センター | 大谷先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第27回 | 10月25日 | (火) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生、矢野先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第28回 | 11月1日 | (火) | (研修医ミーティング) | | | 4号館4階第2ゼミ |
| 第29回 | 11月8日 | (火) | 漢方「頻用処方と安全性について」 | ツムラ | 外部講師 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第30回 | 11月15日 | (火) | 総合内科レクチャー part 1 | 総合内科 | 濱口先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第31回 | 11月22日 | (火) | 神経内科的救急 | 神経内科 | | 4号館4階第2ゼミ |
| 第32回 | 11月29日 | (火) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生、矢野先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第33回 | 12月6日 | (火) | (研修医ミーティング) | | | 4号館4階第2ゼミ |
| 第34回 | 12月13日 | (火) | (研修状況調査会) | | | 4号館4階第2ゼミ |
| 第35回 | 12月20日 | (火) | 総合内科レクチャー part 2 | 総合内科 | 濱口先生 | 1号館1階カンファ1 |
| 第36回 | 1月10日 | (火) | (研修医ミーティング) | | | 4号館4階第2ゼミ |
| 第37回 | 1月17日 | (火) | 医療安全概論 | 医療安全管理部 | 沼崎先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第38回 | 1月24日 | (火) | 総合内科レクチャー part 3 | 総合内科 | 濱口先生 | 4号館4階第2ゼミ |
| 第39回 | 1月31日 | (火) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生、矢野先生 | みらい棟1階 救急科カンファランス室 |
| 第40回 | 2月7日 | (火) | (研修医ミーティング) | | | きぼう棟10階西 カンファランス室 |
| 第41回 | 2月14日 | (火) | 小児救急について | 小児科 | | きぼう棟10階西 カンファランス室 |
| 第42回 | 2月21日 | (火) | 総合内科レクチャー part 4 | 総合内科 | 濱口先生 | きぼう棟10階西 カンファランス室 |
| 第43回 | 2月28日 | (火) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生、矢野先生 | みらい棟1階 救急科カンファランス室 |
| 第44回 | 3月7日 | (火) | 院内発症脳梗塞治療 | 脳神経外科 | 織田先生 | きぼう棟10階西 カンファランス室 |
| 第45回 | 3月14日 | (火) | 研修状況調査会 | | | きぼう棟10階西 カンファランス室 |

平成29年度 ステップ・アップ・セミナー

| | 月日 | 曜日 | 内容等 | 所属 | 講師 | 開催場所 |
|------|--------|-----|---|----------|------------|-----------------------|
| 第1回 | 4月4日 | (火) | 入院中のカルテ・サマリの書き方 入院時に必要なオーダー・指示・処方・点滴 | センター | 2年次研修医 | オーダリング研修室 |
| 第2回 | 4月11日 | (火) | 総合内科レクチャー | 総合内科 | 中山洋平先生 | きぼう棟10階西 |
| 第3回 | 4月19日 | (水) | ACLS | 救急科 | 塚田先生ほか | 1号館1階カンファランス室 |
| 第4回 | 5月2日 | (火) | 献血検診医師派遣研修プログラム | 血液センター | 外部講師 | 4号館5階第3ゼミナール室 |
| 第5回 | 5月10日 | (水) | ACLS | 救急科 | 塚田先生ほか | きぼう棟4階西 スキルラボ |
| 第6回 | 5月18日 | (木) | CV ポート挿入研修 | 看護部 | ※いずれかに参加 | 9号館1階看護部 研修室 |
| | 5月19日 | (金) | | | | |
| 第7回 | 5月23日 | (火) | 研修医ミーティング | センター | | きぼう棟10階西 |
| 第8回 | 5月31日 | (水) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生ほか | みらい棟1階救急科 カンファランス室 |
| 第9回 | 6月6日 | (火) | 小児科レクチャー | 小児科 | 浅野先生 | きぼう棟10階西 |
| 第10回 | 6月14日 | (水) | ACLS | 救急科 | 塚田先生ほか | 4号館5階 スキルラボ・アドバンス |
| 第11回 | 6月20日 | (火) | 研修医ミーティング | センター | | きぼう棟10階西 |
| 第12回 | 6月28日 | (水) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生ほか | みらい棟1階救急科 カンファランス室 |
| 第13回 | 7月4日 | (火) | 真菌感染症セミナー | 感染制御部 | 仲村究先生ほか | 1号館1階 第1カンファランス室 |
| 第14回 | 7月12日 | (水) | 急性冠症候群 (ACS) | 医療人 | 坂本信雄先生 | 4号館5階 スキルラボ・アドバンス |
| 第15回 | 7月18日 | (火) | 研修医ミーティング | センター | | きぼう棟10階西 |
| 第16回 | 7月26日 | (水) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生ほか | みらい棟1階救急科 カンファランス室 |
| 第17回 | 8月1日 | (火) | 処方オーダー・注射オーダーの注意点 | 薬剤部 | 山崎先生 | 北外来棟2階 オーダリング室 |
| 第20回 | 8月22日 | (火) | 研修医ミーティング | センター | | きぼう棟10階西 |
| 第21回 | 8月30日 | (水) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生ほか | みらい棟1階救急科 カンファランス室 |
| 第22回 | 9月5日 | (火) | 脳外科レクチャー | 脳神経外科学講座 | 山田昌幸先生 | きぼう棟10階西 |
| 第23回 | 9月13日 | (水) | 救急部門勉強会 (外傷) | 救急科 | 塚田先生ほか | 4号館5階 スキルラボ・アドバンス |
| 第24回 | 9月19日 | (火) | 研修医ミーティング | センター | | きぼう棟10階西 |
| 第25回 | 9月27日 | (水) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生ほか | みらい棟1階救急科 カンファランス室 |
| 第26回 | 10月3日 | (火) | 研修医ミーティング | センター | センター教員、事務局 | きぼう棟10階西 |
| 第27回 | 10月11日 | (水) | 救急部門勉強会 (外傷) | 救急科 | 塚田先生ほか | 4号館5階 スキルラボ・アドバンス |
| 第28回 | 10月17日 | (火) | 医療安全概論 | 医療安全管理部 | 大内一夫先生 | きぼう棟10階西 |
| 第29回 | 10月18日 | (水) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生ほか | みらい棟1階救急科 カンファランス室 |
| 第30回 | 10月31日 | (火) | 漢方について | 性差医療センター | 小宮ひろみ先生 | きぼう棟10階西 |
| 第31回 | 11月8日 | (水) | 救急部門勉強会 (内科緊急) | 救急科 | 塚田先生ほか | きぼう棟4階西 スキルラボ |
| 第32回 | 11月14日 | (火) | 縫合研修 | 肝胆腔・移植外科 | 木村隆先生 | 4号館5階 スキルラボ・アドバンス |
| 第33回 | 11月21日 | (火) | 研修医ミーティング | センター | センター教員、事務局 | きぼう棟10階西 |
| 第34回 | 11月29日 | (水) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生ほか | みらい棟1階救急科 カンファランス室 |
| 第35回 | 12月5日 | (火) | 肘内障等の処置のしかた | 整形外科 | 大谷先生 | きぼう棟10階西 |
| 第36回 | 12月13日 | (水) | 救急部門勉強会 (内科緊急) | 救急科 | 塚田先生ほか | きぼう棟4階西 スキルラボ |
| 第37回 | 12月19日 | (火) | 研修医ミーティング | センター | センター教員、事務局 | きぼう棟10階西 |
| 第38回 | 12月26日 | (火) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生ほか | みらい棟1階救急科 カンファランス室 |
| 第39回 | 1月10日 | (水) | 救急部門勉強会 (内科緊急) | 救急科 | 塚田先生ほか | 4号館5階 スキルラボ・アドバンス |
| 第40回 | 1月16日 | (火) | 総合内科レクチャー | 総合内科 | 中本先生 | きぼう棟10階西 |
| 第41回 | 1月31日 | (水) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生ほか | みらい棟1階救急科 カンファランス室 |
| 第42回 | 2月14日 | (水) | 救急 Medical Rally | 救急科 | 塚田先生ほか | 4号館5階 スキルラボ・アドバンス |
| 第43回 | 2月13日 | (火) | 神経内科レクチャー | 神経内科 | 松田希先生 | きぼう棟10階西 |
| 第44回 | 2月20日 | (火) | 研修医ミーティング | センター | センター教員、事務局 | きぼう棟10階西 |
| 第45回 | 2月21日 | (水) | 救急症例検討会 | 救急科 | 伊関先生ほか | みらい棟1階救急科 カンファランス室 |
| 第46回 | 3月6日 | (火) | 感染症セミナー | 感染制御部 | 仲村先生 | きぼう棟10階西 |
| 第47回 | 3月13日 | (火) | 研修医ミーティング | センター | センター教員、事務局 | きぼう棟10階西 |

3) 看護学教育研修部門



ご挨拶

看護学教育研修部門長

高橋 香子



急速な少子高齢化の進行、経済状況の低迷や非正規雇用の比率の増加等による貧困層の拡大、単身世帯の増加等による家族機能の低下、無縁社会の広がり等、社会経済状況は大きく変化し、これを背景に、地域の人々の生活や健康問題は、ますます多様化・複雑化しています。このような状況の中、社会における看護の役割がますます重要となっています。人々の生命と健康、生活を守り、豊かな人生を送れるように、看護職がその専門性を十分に発揮することは、東日本大震災後の復興途上であり、複数の複合的問題を抱える地域においては喫緊の課題といえます。

これまで看護学教育研修部門では、本学附属病院、会津医療センター、県内医療機関、被災市町村、福島県等にご協力をいただき、就職ガイダンスとして地域医療を担う看護師等の確保支援を実施してまいりました。学生自身が卒業後の進路を真摯に考え、選択するという学生の主体性を尊重しつつ、看護職を求める地域の保健医療ニーズにどう応えていくかは大きな課題です。平成13年度の卒業時の県内定着率は37.5%、ここ数年は60~70%前後で推移しております。今後も質の高い看護職者を地域に送り出していけるよう努めていきたいと思っております。

また、本学附属病院看護部との共催で専門看護師・認定看護師セミナーを実施しております。平成29年度のセミナーでは、地域包括ケアシステムの推進が求められる中、病院と在宅における看護の連携について考える機会を持ちました。地域包括ケアシステムは、住まい、医療、介護、予防、生活支援を一体的に提供できる仕組みです。システムを機能させるのは人であり、システムにかかわる看護職者の目標の共有とそれぞれの役割の相互理解が不可欠となります。セミナーを通して、看護の対象となる人々のあらゆる生活の場に関与する看護職者のつながりを意識した仕組みづくりの重要性を再認識しました。

今後も、福島県の看護の質の向上をめざし、少子化が進む中での看護の志向性の高い学生の確保、地域の看護職者、関係機関の皆様との連携・協働を推進しながら、人々が抱える多様なニーズに対応できる看護職者の育成を支援していきたいと考えます。どうぞよろしくお願いいたします。

2016年度

2016年

- 4月27日 看護学部4年生を対象とした就職ガイダンスの開催
参加機関：県内医療機関 民間病院等16機関、ほか3県立病院
- 9月3日 東日本大震災から5年 福島の未来へつなぐ保健師活動
被災保健師から災害地域看護のフロントランナーへ
(地域・在宅看護学部門主催 (当センター共催))

2017年

- 1月30日 看護学部3年生を対象とした就職ガイダンス及び保健師講話の開催
・本学附属病院、会津医療センター附属病院
- 2月25日 専門看護師・認定看護師との交流会
～あなたのお悩みここで相談～
本学附属病院看護部主催 (当センター共催))

2017年度

2017年

- 4月19日 看護学部4年生を対象とした就職ガイダンスの開催
参加機関：県内医療機関 民間病院等17機関、ほか3県立病院、2町村
- 11月11日 専門看護師・認定看護師セミナー
つなげよう 病院と在宅の輪！
(本学附属病院看護部主催 (当センター共催))

2018年

- 1月29日 看護学部3年生を対象とした就職ガイダンス及び保健師講話の開催
参加機関：県内医療機関 民間病院等17機関、ほか3県立病院、5町村、
福島県 (保健師)、本学附属病院、会津医療センター附属病院

看護学部生を対象とした就職ガイダンス

看護学教育研修部門では、看護学部生を対象に、県内の医療機関等を対象とした就職ガイダンスを実施しています。

平成28年度は、県内の主要な医療機関16機関等が参加した就職ガイダンスをはじめ、本学附属病院・会津医療センター附属病院の就職ガイダンスを開催するなど、学生が今後の自分の将来像について考える契機となる事業を実施しました。

各種就職ガイダンスは、単に就職を目的とするだけでなく、県内医療機関の現状を知るための機会と位置付けており、医療機関の職員から直接話を伺う良い機会となっています。

2016（平成28年度）

| 月 日 | 内 容 | 出席者等 |
|-------|--|----------------|
| 4月27日 | 就職ガイダンス ・県内の主要な医療機関16機関、ほか3県立病院 | 本学看護学部 4年次生 |
| 1月30日 | 就職ガイダンス ・本学附属病院及び会津医療センター附属病院 ・保健師講話 | 本学看護学部 3年次生 |



2017（平成29年度）

| 月 日 | 内 容 | 出席者等 |
|-------|--|----------------|
| 4月19日 | 就職ガイダンス ・県内の主要な医療機関等 民間病院等17機関、ほか3県立病院、 相双地区2町村 | 本学看護学部 4年次生 |
| 1月29日 | 就職ガイダンス ・県内の主要な医療機関等 民間病院等17機関、ほか3県立病院、 相双地区5町村 ・本学附属病院、会津医療センター附属病院 ・保健師講話 | 本学看護学部 3年次生 |



看護職を対象とした教育研修会

2016（平成28年度）

東日本大震災から5年 福島未来へつなぐ保健師活動 被災保健師から災害地域看護のフロントランナーへ

平成23年3月11日の発災から本年で5年目が経過し、県内では全域が避難指示解除になった市町村、一部が避難指示解除になった市町村、そして全域の避難指示が継続されている市町村があり、その状況の変化に応じた保健師活動が行われています。この災害保健師活動は、これまでに私達が経験したことの無い前衛的な実践です。そこで、その貴重な保健師活動の実践からの学びと交流会の意見交換をとおして、福島未来へつなぐ保健師活動について一緒に考えました。

パネルディスカッションテーマ：未来へつなぐ浜通りの保健師活動

～健康・つながり・暮らし～

- | | |
|----------------------------|---------|
| パネリスト1：震災から5年、母子保健担当の立場から | 南相馬市保健師 |
| パネリスト2：地域の変化と連携でつなぐ災害時保健活動 | いわき市保健師 |
| パネリスト3：遠隔地分散している被災住民支援 | 大熊町保健師 |
| パネリスト4：復興と保健師活動 | 楢葉町保健師 |



2017（平成29年度）

つなげよう 病院と在宅の輪！

平成29年11月11日（土）【つなげよう、病院と在宅の輪！】のテーマのもと、病院看護師と訪問看護師の連携について考えるセミナーを開催しました。院内外から計33名の医療従事者が参加しました。

第1部では、それぞれの視点からパネルディスカッションを行った後、第2部では参加者との交流会をもち、活発な意見交換が行われました。

病院看護師と訪問看護師、立場は違えども“より良い看護を提供したい！”という気持ちはみな同じです。超高齢社会「2025年問題」を控える今、病院と在宅をつなぐ大切さをより一層認識したセミナーでした。



4) 災害医療総合学習センター



ご挨拶

福島県立医科大学
災害医療総合学習センター長
大津留 晶



福島県立医科大学・医療人育成・支援センター内に災害医療総合学習センターが設置されて早7年がたちました。2016年度2017年度の当センターの歩みを振り返り、今後の災害に対応する総合学習の在り方はどうあるべきかを考える、良いきっかけになることを期待しています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所事故を受けて、福島県内の医療体制も危機的な状況となりました。そこからの地域医療再生に取り組むとともに、今後も発生が懸念される大災害を想定した災害医療・放射線被ばく医療に従事できる医療者の養成が急務となりました。そこで福島県立医科大学では、災害医療総合学習センターを設立し、2012年1月に文部科学省3次補正の国庫補助事業に採択され、同年から活動を開始いたしました。本センターは、災害の最前線で、災害医療・放射線被ばく医療の実践に対応できるエキスパートの教育・研修体制を確立することを主な任務としてスタートいたしました。当初より本学の学生や県内の医師・看護師はもちろん、全国から災害医療・放射線被ばく医療を学びたいと希望する医療関係者を、数多く受け入れておりました。

その後、原子力規制庁の中核人材育成研修などの全国的な研修標準化に対応して、2017年度からは長崎大学・広島大学とともに新たに取り組んでいる放射線健康リスク科学人材育成プログラムの一環として、放射線災害医療に関連する医学教育により特化し、放射線健康管理学講座と連携して福島ならではの教育の確立と普及をめざしています。また本学が取り組んでいる国際交流事業の一つである、米国のコロンビア大学やマウント・サイナイ医科大学の医学生や研修医もこの教育プログラムに参加しています。さらにチェルノブイリ原子力発電所事故の被災者の支援を続けているベラルーシ医科大学、ゴメリ医科大学と本学が交流協定を締結したことを受け、本センターが両大学の医療関係者・大学関係者の受け入れや本学でのセミナー、福島県立医科大学医学部4学生の基礎上級におけるベラルーシ派遣を担当しております。

この年報で紹介しているセンターの取組が震災復興の一助となり、このプログラムで育った人達が、災害医療の急性期と復興期いずれもの優れた担い手となることを願い、センタースタッフ一同、その職責を果して行きたいと考えております。これからも御指導、ご鞭撻とともに、忌憚のないご意見を賜りますようお願いする次第です。

最後になりますが、これまでの災害医療総合学習センターへのご支援に心より感謝申し上げ、今後ともご協力を賜りますようどうかよろしくお願い申し上げます。

災害医療総合学習センター活動総括

熊谷 敦史

災害医療総合学習センターは、震災及び原子力災害により被害を受けた福島県内医療体制の再生や放射線の影響等に係る教育、研修体制の充実、人材確保を目的に、文部科学省の2011年度「復興教育支援事業」大学等における地域復興のためのセンター的機能の整備（2011年度第3次補正予算）の採択を受け、福島県立医科大学医療人育成・支援センター内に設置され、2012年4月1日付で医師1名、看護師1名、事務職員3名の職員を配置し、2012年5月17日より本格的に活動開始して以降、学生教育、医療者教育、地域支援（2016年度まで）の分野を軸として展開してきた。この活動は、今後の福島の復興に資するのみならず、日本で唯一原発事故を受けた経験に基づく実践的な放射線医学教育を医学生および医療人に展開したものであり、今後の日本そして世界における放射線健康リスクに対する新たな教育体制づくりを牽引してきたと言える。

【学生教育】

- (1) 医学科学生教育（5年生対象、臨床実習4日間プログラム）
- (2) 医学科学生教育（3年生対象、講義協力）
- (3) 他大学（国内外）からの学生を対象とする教育セミナー
- (4) eラーニング開発と供用（医学生、看護学生、附属病院看護師、各種セミナー参加者）
- (5) ベラルーシ共和国内の医科大学との協定に基づく教育（講師招聘、学生派遣の窓口）

まず福島県立医科大学の医学生（5年次）対象の教育プログラムを、臨床実習の時間枠を用いて2012年度より行っている。「基礎編」：放射線に関する基礎的知識・議論・技能体験・リスクコミュニケーション学の2日間（2017年度から3日間）と、「応用編」：汚染傷病者救急対応の各1日で計3日の日程である。「応用編」は救急医学講座のご協力により救急医学の臨床実習の枠の中に入れていただき実施している。加えて、教育機会を他大学の熱意ある学生にも開放し、「学生のための福島災害医療セミナー」を開講し、国内外からの学生を受け入れている。また、より幅広い学習者層への展開を期して、放射線災害eラーニングのコンテンツを作成し活用した（医学生、看護学生、新規採用看護師対象の学習教材、各種セミナー・講習の事前研修教材）。さらに医学生の海外短期留学を含めた協力関係構築のため、チェルノブイリ原発事故後の医療を継続しているベラルーシ共和国の二大学（ベラルーシ医科大学、ゴメリ医科大学）と、長崎大学との連携協定による協力のもとに2013年9月に教育に関する協力協定を締結した。このほか、2013年以降毎年の当センターでのマウント・サイナイ医科大学（米国）医学部学生研修受け入れを契機として、同大学との大学間連携協定締結に至っている。これらの協定に基づき、ベラルーシ共和国の2大学に2016年度と2017年度には2～3月に当学医学部4年次学生を基礎上級のカリキュラムの一環として派遣した（2016年度は1名、2017年度は2名）。派遣学生の事前学習・現地研修プログラムに関して学生指導と並行して現地大学との調整を行

いつつ、帰国後の研究発表指導も行った。また、マウント・サイナイ医科大学から毎年2名の学生を本学に受け入れる時期に合わせてRadiation and Disaster Medical Science Seminar, Medical Training Course in Fukushimaを開催した。このセミナーはアメリカ側（コロンビア大学、マウント・サイナイ医科大学）からの強い要望により2012年から継続しているものである。2017年度からは本学と長崎大学との共同大学院の留学生も参加し、より幅広い対象に対する講習会に発展している。

【医療・保健従事者教育】

医師・看護師等の医療・保健従事者を対象とする災害医療セミナー

医師・看護師・放射線技師等の医療者に対し、2012年の当センター設置以降開講してきた「福島災害医療セミナー」を目的別・段階別に「被ばく医療基礎コース」、「被ばく医療応用コース」、「上級コース」、「県内医療従事者コース」の4コースとして災害・被ばく医療そして原発事故後の福島の現実を段階的に学べるように実施した。2015年度まで4日間で行っていた「福島災害医療セミナー（被ばく医療コース）」を2日間ずつの「被ばく医療基礎コース」と「被ばく医療応用コース」に分割したことで、より参加しやすくなったことが2016年度以降の変化として挙げられる。セミナー全体を通して、福島の復興に資する人材育成となっているのみならず、日本全国の緊急被ばく医療従事者のネットワークとして機能する人的ネットワークの構築に資する教育体系となっている。上級コースにはベラルーシの協定校から各1名の教官を招聘し、特別講演と討論を行っていただくとともに、当学関係者対象の大学院セミナーでも情報提供と討論を実施し、世界の原発事故の実相に触れる機会を提供している。また、弘前大学、青森県診療放射線技師会との共催として、「福島災害医療セミナー in 弘前」を年1回開講し、福島に継続的に支援にあたりつつ青森での被ばく医療構築に努めている医療従事者への教育の場を提供している。

【地域支援（2016年度まで）】

- (1) 地域住民への放射線健康講座（地域保健師等との連携事業）
- (2) 地域保健師等の事業支援（上述保健従事者支援にも含まれる）
- (3) よろず健康相談（帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域を域内に含んだことのある13市町村の住民対象）
- (4) 産業医支援（福島県警、双葉地方広域市町村圏組合：双葉消防を含む）

2012年度に、原発事故の旧警戒区域、緊急時避難準備区域、計画的避難区域の自治体保健師と協力し、住民・保健師支援を目的とした、内容を限定せず健康相談に応じる住民対象の「よろず健康相談」を開始し継続実施している。その後、「よろず健康相談」は主な実施主体を放射線医学県民健康管理センターに移管し、当センターは協力を継続してきた。また、いたたてホーム職員健康相談は初年度にて終了した。

さらに、原発事故後の混乱期には多少の放射線健康影響に関する講演会等が実施されていたものの、残念ながらその多くはかなり難しい内容で住民には伝わっていないことが多かった。その後、時を経てその機会すら減少している現状に対し、県内の地域保健師や放射線相談員等と連携して、放射

線の現状や影響についての考え方に関する座談会・車座集会・相談会・出前講座等を、地域町内会、母親子育て教室等の小グループ単位で繰り返し実施した。地道な取組により、単なる諦めではなく、自主的な放射線リスクの理解と主体的な生活再建への機運の醸成に貢献している。

加えて、放射線や災害全般の影響を心身ともに強く受け続けている存在である旧警戒区域での公的作業従事者（福島県警、双葉地方広域市町村圏組合：双葉消防を含む）に対する産業衛生管理は、当該地区の安全管理・復旧・復興に極めて重要であることから、両組織職員に対する産業医（健康管理医）の委嘱を受け、活動を展開した。

なお、2017年度からは、地域支援の各事業は当センター事業としてではなく、他事業に移管して行われることとなった。

2016年度

2016年

- 5月16日 福島災害医療研修（鹿児島大学大学院生対象）（～27日）
- 6月21日 Radiation and Disaster Medical Science Seminar, Medical Training Course in Fukushima
- 7月16日 福島災害医療セミナー in 弘前2016（～17日）
- 7月22日 第17回福島災害医療セミナー 被ばく医療（基礎）コース（～23日）
- 8月22日 放射線災害医療サマーセミナー2016（～27日）
- 8月25日 平成28年度学生のための福島災害医療セミナー 夏季短期コース（～26日）
- 8月29日 平成28年度学生のための福島災害医療セミナー 夏季長期コース（～9月1日）
- 9月2日 第18回福島災害医療セミナー 被ばく医療（基礎）コース（～3日）
- 9月30日 第19回福島災害医療セミナー 被ばく医療（応用）コース（～10月1日）
- 10月7日 第20回福島災害医療セミナー 被ばく医療（基礎）コース（～8日）
福島災害医療研修（長崎大学病院研修医対象）（～8日）
- 11月11日 第21回福島災害医療セミナー 被ばく医療（基礎）コース（～12日）
- 11月20日 第22回福島災害医療セミナー 被ばく医療（応用）コース（～21日）
- 12月11日 第23回福島災害医療セミナー 被ばく医療（応用）コース（～12日）

2017年度

- 1月23日 第24回福島災害医療セミナー 上級コース（～25日）
【第1部】 講義
【第2部】 東京電力福島第一原子力発電所見学
- 1月24日 特別講義「チェルノブイリからの教訓」
- 2月14日 ゴメリ医科大学、ベラルーシ医科大学へ学生派遣（～3月23日）

2017年度

2017年

- 6月9日 第25回福島災害医療セミナー 被ばく医療（基礎）コース（～10日）
- 6月26日 Radiation and Disaster Medical Science Seminar, Medical Training Course in Fukushima
- 7月14日 第26回福島災害医療セミナー 被ばく医療（基礎）コース（～15日）
- 8月4日 第27回福島災害医療セミナー 被ばく医療（応用）コース（～5日）
- 9月16日 第4回福島災害医療セミナー 県内医療従事者コース
- 8月21日 放射線災害医療サマーセミナー2017（～26日）
- 8月24日 平成29年度学生のための福島災害医療セミナー 夏季短期コース

8月28日 平成29年度学生のための福島災害医療セミナー 夏季長期コース（8月）
9月1日 平成29年度学生のための福島災害医療セミナー 夏季長期コース（9月）
10月27日 第28回福島災害医療セミナー 被ばく医療（応用）コース（～28日）
10月21日 福島災害医療セミナー in 弘前2017（～22日）

2018年

1月31日 特別講義「チェルノブイリからの教訓」
2月1日 第29回福島災害医療セミナー 上級コース（～2日）
【第1部】 講義
【第2部】 東京電力福島第一原子力発電所見学
2月14日 ゴメリ医科大学、ベラルーシ医科大学へ学生派遣（～3月23日）

①BSL

BSLプライマリーコース・原子力災害医療学コースを、放射線健康管理学講座と放射線災害医療学講座が担当している実習の一部を担当している。

□背景：原子力災害医療、被ばく医療に関する医学生教育は震災以前には殆ど行われていなかった。2012年度より、医学部5年生を対象に、新たに放射線災害医療に関するBSLがスタートした。このBSLでは、主に原子力災害・放射線災害医療の基礎を身につけるとともに、放射線被ばく・放射性物質による汚染傷病者の診療（緊急被ばく医療）や、汚染拡大防止・汚染検査・除染・線量評価・放射線防護についての実習、放射線災害後の地域医療・保健における健康管理、健康リスクコミュニケーション、メンタルヘルスについて、実習を通して学んでもらっている。

BSLプライマリーコース・原子力災害医療学コース スケジュール

| BSL基礎 1 日目 | BSL基礎 2 日目 | BSL基礎 3 日目 | BSL応用 |
|--|---|---|--|
| <input type="checkbox"/> オリエンテーション | <input type="checkbox"/> 甲状腺疾患と超音波スクリーニング | ①フィールドワーク ・川内村又は飯館村 ・甲状腺検査 または | <input type="checkbox"/> 外傷患者初期診療に放射性物質汚染、被ばくが加わった診療実習 |
| <input type="checkbox"/> 東日本大震災の概要のブローchureマップ作成 | <input type="checkbox"/> WBC実習 | ②文献検討 | <input type="checkbox"/> 放射線災害机上演習 |
| <input type="checkbox"/> 放射線と健康 | <input type="checkbox"/> 健康相談実習 | | <input type="checkbox"/> 急性放射線症候群 |
| <input type="checkbox"/> 放射線測定実習 | <input type="checkbox"/> リスクコミュニケーション特論 | | |
| <input type="checkbox"/> 避難者の状況とメンタルヘルス | <input type="checkbox"/> 症例検討 まとめ | | |
| <input type="checkbox"/> 社会コミュニケーション特論 | | | |

□一般目標：

- ✎ 3年生で学んだ放射線の基礎知識や放射線健康リスク科学をもとに、福島第一原子力発電所事故後の福島の現状を理解する。
- ✎ 被ばく・汚染傷病者に対する医療処置と汚染拡大防止策などを習得する。
- ✎ 福島で生活する住民が感じる放射線に関する疑問についても自ら考える。
- ✎ 県民健康調査の結果などをもとに、住民の健康問題を解決してゆくための方策を多角的に考えてゆく。

(1) 放射線と健康に関する臨床医学と測定実習（BSL 1 日目）

- ①グループワークで自然・放射線災害について整理をする
- ②震災後の経過とともに現在も直面している健康リスクについての考えを深める
- ③実際に線量をはかり、個人の放射線リスクについて考える
- ④震災後のメンタルヘルスについて解説
- ⑤原発事故後のリスクコミュニケーションと医療者の役割について考える



(2) 放射線と健康に関する臨床医学と相談実習 (BSL 2 日目)

- ① 甲状腺癌のメカニズムと福島県の小児甲状腺癌検診について解説
- ② ホールボディカウンタのメカニズムと県民の内部被ばくの動向について解説
- ③ シナリオを用いて住民に対する模擬健康リスクコミュニケーションを実施
- ④ 震災後のリスクコミュニケーションの実際と意義について解説



(3) 放射線と健康に関するまとめ (BSL 3 日目)

- ・ 県民健康調査の結果の論文を抄読し、原子力災害後の健康に関するまとめのディスカッションを行う
または
- ・ 調整がついた日は、県民健康調査や2011年の東日本大震災の放射線災害による被災地でのフィールドワーク (被災地見学、地元住民との交流、食品検査体験等)



(4) 緊急被ばくした医療・放射線災害医療実習 (救命救急医学 BSL 第2週水曜日)

- ① 午前中は外傷救急診療および緊急被ばく医療についてシミュレーションを実施
- ② 午後は机上演習として、午前実施したシミュレーションの整理をすることと、被ばく線量評価の計算方法について解説
- ③ 被ばく災害についての歴史や高線量被ばくによる急性期の症状について解説



② 学生のための福島災害医療セミナー

全国の医学部生及び看護学部生等に対し、福島で見る、聞く、体験することを重視した一般災害・放射線災害に関するセミナーを各種実施しており、2014年度からは「学生のための福島災害医療セミナー」と名称を変更し、夏季短期コース及び夏季長期コースとして開催した。夏季短期コースは、東日本大震災後より災害ボランティアとして本県に訪れている、奈良県立医科大学・和歌山県立医科大学のメンバーや福島県立医科大学の災害医療系サークルFukushima WILLが中心となり、当センターと共同企画により実施し、夏季長期コースについては、大阪大学や長崎大学及び鹿児島大学からの夏季休暇中の学生研修受け入れ依頼に対応して実施した。

また、2014年度からは本学と長崎大及び公益財団法人笹川記念保健協力財団との共催で「放射線災害医療サマーセミナー」を開催し、講義・実習を通じ、放射線や被ばく医療の基礎知識を習得するとともに、川内村及び福島第二原子力発電所の見学を通して、自然災害発生時に併発する特殊災害の対応を理解することを目的とし、総合的な研修を行っている。

1. 学生のための福島災害医療セミナー（夏季短期コース）

| | 開催月日 | 講師 | 参加者 | 会場 |
|---|----------------|----|-------------------------------|-----------|
| ① | 2016年8月25日～26日 | 4名 | 医学生 25名 看護学生 22名 その他 3名 | 福島県立医科大学内 |
| ② | 2017年8月24日 | 3名 | 医学生 4名 看護学生 5名 | 福島県立医科大学内 |

講師一覧

（学内講師）

- 健康リスクコミュニケーション学講座 村上 道夫[▲]
- 医療人育成・支援センター 安井 清孝
- 災害医療総合学習センター 熊谷 敦史、宮谷 理恵^{*}

（学外講師）

- 相馬広域こころのケアセンターなごみ 米倉 一磨^{*}

※…①のみ。 ▲…②のみ。

2. 学生のための福島災害医療セミナー（夏季長期コース）

| | 開催月日 | 講師 | 参加者 | 会場 |
|---|-----------------|----|-------------------|-----------------------|
| ① | 2016年8月29日～9月1日 | 9名 | 医学生 4名 看護学生 3名 | 福島県立医科大学内及び 県内協力機関 |
| ② | 2017年8月28日、9月1日 | 2名 | 医学生 4名 | 福島県立医科大学内 |

講師一覧

(学内講師)

- 疫学講座 大平 哲也*
- 医療人育成・支援センター 安井 清孝
- 災害医療総合学習センター 大津留 晶*、熊谷 敦史、宮谷 理恵*

(学外講師)

- 川内村保健福祉課保健福祉係 猪狩 恵子*
- 双葉地方広域市町村圏組合消防本部 遠藤 朗生*
- 福島大学 高橋 紀子*
- 福島めばえ幼稚園 伊藤 ちはる*

※…①のみ。

3. 放射線災害医療サマーセミナー

| | 開催月日 | 講師 | 参加者 | 会場 |
|---|----------------|-----|-----------------------------|-----------------------|
| ① | 2016年8月22日～27日 | 31名 | 医学生 2名 看護学生 6名 その他 8名 | 福島県立医科大学内及び 県内協力機関 |
| ② | 2017年8月21日～26日 | 29名 | 医学生 2名 看護学生 8名 その他 5名 | 福島県立医科大学内及び 県内協力機関 |

講師一覧

(学内講師)

- 総括副学長 大戸 斉
- 副学長（長崎大学 理事） 山下 俊一
- ふくしま国際医療科学センター 谷川 攻一
- 疫学講座 大平 哲也
- 放射線災害医療学講座 長谷川 有史
- 災害こころの医療学講座 前田 正治
- 広報コミュニケーション室 松井 史郎、日野 優子[△]
- 放射線健康管理学講座 緑川 早苗、木村 悠子、中島 成隆
- 健康リスクコミュニケーション学講座 村上 道夫
- 放射線医学県民健康管理センター 田中 成省、岡崎 加奈子、桃井 真帆[△]
- 災害医療総合学習センター 大津留 晶、熊谷 敦史、安井 清孝、
宮谷 理恵*、千葉 靖子[△]

(学外講師)

- 笹川記念保健協力財団 喜多 悦子、佐藤 英夫[△]
- 長崎大学 松田 尚樹、林田 直美、高村 昇[△]、折田 真紀子、
タチアナ・ログノビッチ、福島 芳子、山口 泉*
- 筑波大学 五十嵐 泰正[△]
- 環境省 井手 寿一*、野内 正裕*

- 原子力安全研究協会
- 川内村
- 飯館村
- 相馬中央病院
- 福島めばえ幼稚園

- 小島 清*
- 遠藤 雄幸、猪狩 恵子
- 齊藤 修一▲、松田 久美子▲
- 越智 小枝
- 伊藤 ちはる

※…①のみ。 ▲…②のみ。

【2016年度】



学生のための福島災害医療セミナー
(夏季短期コース)



学生のための福島災害医療セミナー
(夏季長期コース)



放射線災害医療サマーセミナー

【2017年度】



学生のための福島災害医療セミナー
(夏季短期コース)



学生のための福島災害医療セミナー
(夏季長期コース)



放射線災害医療サマーセミナー

③ Radiation and Disaster Medical Science Seminar, Medical Training Course in Fukushima (海外の医科大学学生のためのセミナー)

【概要】

地震・津波・原子力災害を経験した福島の教訓を広く世界に発信し、かつ福島の学生の国際的視野を広げることを目的に、海外の学生に対する災害医療教育を実施している。オリジナル英文テキストを作成し、福島の震災、放射線の人体影響、チェルノブイリや福島の原子力発電所事故による影響等に関する講義や、放射線測定、緊急被ばく医療、避難所設営、放射線リスクコミュニケーションなどの実習を英語にて行ったのち、関係各所の協力のもと、東日本大震災・福島第一原子力発電所事故の被災地、事故対応施設および被災者のもとを訪問し、あわせて被災住民の方々のご相談を直接伺い、原子力発電所の事故対応等についても見学する包括的教育プログラムとし、放射線健康影響に関する知識の取得、現地訪問を通じ、放射線災害に関する総合的な理解を深める研修となっている。2012年度のコロンビア大学からの初回受講生が中心となり2013年度以降の調整を行ってきた。同じくニューヨークのマウント・サイナイ医科大学からも学生研修受け入れの要請を受け、2013年度から同大学学生2名の受け入れも行っており、これらの実績によりマウント・サイナイ医科大学とは大学間の連携協定が締結され、本学学生（4年生）が研修派遣され、学生の国際的視点の醸成に貢献している。2016年度にはマウント・サイナイ医科大学からの学生を対象として、2017年度にはマウント・サイナイ医科大学からの学生および長崎大学との共同大学院の留学生に対して開講した。なお、2017年度以降は、マウント・サイナイ医科大学学生の受け入れ主体を事務局企画財務課、国際交流室に移管したためセミナーを集中して行うこととし、期間が短縮した。

【2016年度・2017年度の実施期間と受講生】

- (1) 2016年6月21日～8月8日
- (2) 2017年6月26日～6月29日

| | | |
|-----|---------------------|----------------------|
| (1) | マウント・サイナイ医科大学医学部1年生 | Lucy Goodson, |
| | 同上 | Jacob Lurie |
| | 同上 | Hazel Lever |
| (2) | マウント・サイナイ医科大学医学部1年生 | Halley Kaye-Kauderer |
| | 同上 | Jake Levnie |
| | 共同大学院生 | Amrenova Aidana |
| | 同上 | Choeung Karo |
| | 同上 | Myssayev Altay |
| | 同上 | Moe Moe Han |

【使用言語】

英語

【日程と内容】

(1) 2016年度

| Date | Time | Style | Outline |
|------|-------------|----------------------|---|
| 6/21 | 9:00~12:00 | | FMU Hospital |
| | | Courtesy call | |
| | 13:30~14:00 | Introduction | Introduction |
| | 14:00~15:00 | Workshop | Please think about what happened during/after "Fukushima" |
| | 15:00~16:00 | Lecture | Disaster of Fukushima |
| 6/23 | 9:00~12:00 | Table-top exercise | How to manage the shelter |
| 6/24 | 13:30~15:00 | Lecture | Mental health problems among the evacuees |
| 6/26 | 9:30~12:00 | Lecture | Radiation Basics |
| | 13:30~15:00 | Exercise | How to measure the radiation |
| | 15:00~17:00 | Lecture | Radiation health risk in Fukushima (1) |
| 6/27 | 9:00~12:00 | Lecture | Radiation health risk in Fukushima (2) |
| | 13:30~15:00 | Discussion | Discussion |
| | 15:00~16:30 | Simulation | Health consulting for simulated citizens |
| 6/28 | 6:30~14:00 | Field work | Health consulting for citizens |
| | 15:00~17:00 | Lecture/ Exercise | Emergency radiation medicine at " Fukushima Disaster " /Protecting tools for contamination patients |
| 6/29 | 13:00~15:00 | Table-top exercise | Emergency radiation medicine/ dose assessment |
| | 15:30~17:00 | Lecture | History of radiation related accidents |
| 6/30 | 9:00~15:00 | Inspection | Tsunami suffered area and evacuation zone |
| | 15:30~17:00 | Discussion | Risk communication and Physician's role |
| 7/2 | 17:00~18:00 | | Special seminar with Japanese students(Japan-America Student Conference) |
| 7/8 | 8:30~12:00 | Inspection | Thyroid screening for students |
| 8/8 | 13:30~15:00 | Conclusion | Wrap up meeting |
| | 15:30~ | Courtesy call | Courtesy call |

(2) 2017年度

| Date | Time | Style | Outline |
|------|-------------|------------------------|--|
| 6/26 | 9:00~9:30 | Introduction | Introduction |
| | 9:30~10:30 | Workshop | Please think about what happened during/ after " Fukushima " |
| | 10:50~12:20 | Lecture | Disaster of Fukushima |
| | 13:20~17:30 | Lecture | Radiation Health risks after the Fukushima Disaster |
| 6/27 | 15:00~17:00 | Exercise | Radiation measurement (Basics and field examination) |
| | 17:30~19:00 | Exercise | [Emergency Radiation Medicine] Screening procedure for the surface contamination,How to deal with contaminated patients. |
| 6/28 | 8:30~9:45 | | |
| | 10:00~11:00 | Lecture | Lessoned learned from Fukushima Disaster [Joint lesson with Japanese Medical students] |
| | 11:00~12:00 | Workshop | What is the real health risk of Fukushima in the future [Joint lesson with Japanese Medical students] |
| 6/29 | 9:00~11:00 | Exercise | Health consulting simulation |
| | 13:00~14:30 | Lecture/ discussion | Mental health of evacuee and supporter |
| | 14:30~15:30 | Discussion | Risk communication and Physician's role |
| | 15:30~17:30 | Table-top exercise | Shelter management |
| | 17:30~18:00 | Feedback | Wrap-up discussion |

④ 福島災害医療研修 (鹿児島大学大学院生、長崎大学病院研修医)

1. 目的

今回、鹿児島大学大学院保健学研究科博士前期課程放射線看護専門コースに在学中の学生1名及び長崎大学病院研修医1名を受け入れ、放射線災害時の対応や住民の放射線に対する不安への対応及び一般災害時にも対応できる人材育成を目指した。

研修内容としては、福島の震災から始まり、放射線基礎、人体への放射線影響、放射線測定実習、緊急被ばく医療実習、リスクコミュニケーション演習などを行い、放射線災害後の急性期から慢性期にかけての学習を行った。また、救護所設置の机上演習などを通して一般災害時の備えについて学習を行った。更には、仮設見学、被災地見学、よろず健康相談、甲状腺検診の介助など、福島だからこそ行える研修に参加し、福島の現状を体験してもらった。

2. 実施期間

- (1) 鹿児島大学大学院生 2016年5月16日(月)～27日(金)
- (2) 長崎大学病院研修医 2016年10月7日(金)～8日(土)

3. 受講者

- (1) 鹿児島大学大学院生 吉永 健嗣(2年)
- (2) 長崎大学病院研修医 桑野 克久

4. 内容

- (1) 鹿児島大学大学院生

| 形式 | 内容 |
|-------------|---|
| ①講義・ワークショップ | 「ファシリテーションについて」「避難者の生活」 |
| ②演習・実習 | 「避難所運営・机上演習」「BSL(基礎)」 |
| ③見学・訪問 | 「被災地視察」「よろず健康相談」「仮設住宅訪問」「産業保健活動」 「甲状腺検診」 |

- (2) 長崎大学病院研修医

「第20回福島災害医療セミナー(被ばく医療基礎コース)」で受入

5. 受講者の感想

(1) 鹿児島大学大学院生

2週間という短い期間ではありましたが、福島の現状を実際に知ることができて良かったです。鹿児島県で生活をしていると、福島についての情報は流れてこないため現状がどうしてもわからない状況でした。少しずつではあるが復興が進んでいると感じた反面、5年経過した現在でも、放射線について誤った認識をもっている方や、お金の問題など様々な問題を抱えていることも知ることができました。これは福島に入らないと分かり得ないものであったと思うので、現状を知ることができたのは本当に良かったです。また今回は先生方をはじめとする多くの医療職者の方々にご指導を頂きました。地域活動においては、飯館村や福島県警の保健師、双葉警察署員、双葉消防署員、広野町役場職員、広野小学校・中学校教頭の方々に大変お世話になりました。



(2) 長崎大学病院研修医

5年前に発生した東日本大震災、そしてその後5年間の現地の方々がいかにして苦難を乗り越え、また現在どのような問題に直面しているのかを、正確に知ることができ、とても有意義な研修になりました。今後、放射線、放射線被ばくに関して、正確な知識を持った医師を目指します。

⑤ 福島災害医療セミナー

このセミナーは、講義、実習を通して一般災害・放射線災害に関する基礎知識や災害医療・放射線被ばく医療の知識及び技術の習得を図るとともに、被災地・関係機関への実地研修を通じ、災害医療に関する幅広い視野をもつ人材を育成することを目的として、2012年度より通算29回開催された。

上級コースについては、既受講者を対象とし、被ばく医療コースでは触れられなかった、より深い内容を考えることを主眼とした、県民健康管理調査の現状や、ベラルーシ共和国内の医科大学の教官による現地報告、社会心理学の専門家による分析やワークショップ等を実施するとともに、実際に東京電力福島第一原子力発電所を見学した。

また、県内医療関係者のみを対象とした「県内医療従事者コース」として、放射線健康リスク及びメンタルヘル스에重点を置いた1日コースのセミナーを実施した。

1. 実施回数・日程

(1) 被ばく医療コース 計24回

| | | | |
|----------------------------|--------------------------------|----------|---------------------|
| 第1～3回 | 「医療人育成・支援センター年報2010-2013年度」版参照 | | |
| 第4～7回 第9～11回 第13～15回 | 「医療人育成・支援センター年報2014-2015年度」版参照 | | |
| 第17回(基礎) | 2016年7/22(金)～23(土) | 第23回(応用) | 2016年12/11(日)～12(月) |
| 第18回(基礎) | 2016年9/2(金)～3(土) | 第25回(基礎) | 2017年6/9(金)～10(土) |
| 第19回(応用) | 2016年9/30(金)～10/1(土) | 第26回(基礎) | 2017年7/14(金)～15(土) |
| 第20回(基礎) | 2016年10/7(金)～8(土) | 第27回(応用) | 2017年8/4(金)～5(土) |
| 第21回(基礎) | 2016年11/11(金)～12(土) | 第28回(応用) | 2017年10/27(金)～28(土) |
| 第22回(応用) | 2016年11/20(日)～21(月) | | |

(2) 上級コース（※「被ばく医療コース」受講修了者対象） 計5回

| | | | |
|---------------------|--------------------------------|------|------------------|
| 第8回 第12回 第16回 | 「医療人育成・支援センター年報2014-2015年度」版参照 | | |
| 第24回 | 2017年1/23(月)～25(水) | 第29回 | 2018年2/1(木)～2(金) |

(3) 県内医療従事者コース 計4回

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 第1～3回 | 「医療人育成・支援センター年報2014-2015年度」版参照 | | |
| 第4回 | 2017年9/16(土) | | |

2. 受講者数および講師、協力者数

(1) 被ばく医療コース

| | 受講者数 | | | | | 講師、協力者数 (延べ) | | |
|----------|------------------|-----|---------|-------------------|-----|--------------|----|-----|
| | 医師 ^{※1} | 看護職 | 診療放射線技師 | その他 ^{※2} | 合計 | 学内 | 学外 | 合計 |
| 第1～3回 | 13 | 8 | 6 | 3 | 30 | 14 | 21 | 35 |
| 第4～7回 | 17 | 14 | 11 | 4 | 46 | 36 | 22 | 58 |
| 第9～11回 | 20 | 20 | 15 | 5 | 60 | 30 | 7 | 37 |
| 第13～15回 | 14 | 27 | 20 | 10 | 71 | 26 | 6 | 32 |
| 第17回(基礎) | 7 | 14 | 7 | 5 | 33 | 8 | 1 | 9 |
| 第18回(基礎) | 5 | 11 | 7 | 5 | 28 | 7 | 1 | 8 |
| 第19回(応用) | 2 | 6 | 3 | 2 | 13 | 4 | 1 | 5 |
| 第20回(基礎) | 4 | 14 | 3 | 3 | 24 | 7 | 1 | 8 |
| 第21回(基礎) | 5 | 7 | 5 | 2 | 19 | 7 | 1 | 8 |
| 第22回(応用) | 1 | 5 | 2 | 4 | 12 | 4 | 1 | 5 |
| 第23回(応用) | 3 | 6 | 3 | 3 | 15 | 4 | 1 | 5 |
| 第25回(基礎) | 7 | 12 | 10 | 4 | 33 | 10 | 1 | 11 |
| 第26回(基礎) | 6 | 16 | 7 | 7 | 36 | 8 | 1 | 9 |
| 第27回(応用) | 5 | 1 | 1 | 4 | 11 | 7 | 0 | 7 |
| 第28回(応用) | 8 | 7 | 4 | 0 | 19 | 5 | 0 | 5 |
| 合計 | 53 | 99 | 52 | 39 | 243 | 177 | 65 | 242 |

※1 研修医含む

※2 臨床心理士、臨床検査技師、薬剤師、救急救命士、消防士、大学教員、管理栄養士、事務職

(2) 上級コース

| | 受講者数 | | | | | 講師、協力者数 (延べ) | | |
|-------------|------------------|-----|---------|-------------------|-----|--------------|----|----|
| | 医師 ^{※1} | 看護職 | 診療放射線技師 | その他 ^{※2} | 合計 | 学内 | 学外 | 合計 |
| 第8. 12. 16回 | 23 | 23 | 17 | 3 | 66 | 20 | 27 | 47 |
| 第24回 | 6 | 11 | 8 | 5 | 30 | 8 | 6 | 14 |
| 第29回 | 9 | 11 | 8 | 9 | 37 | 5 | 5 | 10 |
| 合計 | 38 | 45 | 33 | 17 | 133 | 33 | 38 | 71 |

※1 研修医含む

※2 臨床心理士、臨床検査技師、薬剤師、救急救命士、消防士、大学教員、管理栄養士、事務職

(3) 県内医療従事者コース

| | 受講者数 | | | | | 講師 |
|-------|------|-----|---------|-------------------|----|----|
| | 医師 | 看護職 | 診療放射線技師 | その他 ^{※3} | 合計 | 学内 |
| 第1～3回 | 9 | 22 | 3 | 16 | 50 | 15 |
| 第4回 | 2 | 8 | 0 | 8 | 19 | 4 |

※3 臨床検査技師、薬剤師、理学療法士、鍼灸師、救急救命士、消防士、社会福祉士、医療ソーシャルワーカー、事務職

3. 受講者の感想（抜粋）

(1) 被ばく医療コース

■医師（長崎県）

講義によるINPUTと、ワークショップによるOUTPUTが準備されており、とても充実したセミナーでした。放射線災害の問題を中心に、非専門家の私達にも理解しやすく、内容のある講義でした。

■看護師（福井県）

放射線の詳しい知識はもちろんのこと、多職種とのグループディスカッションや、実際の被災地での体験の話や現地の見学等を通してたくさんの刺激を受け、目的としていた以上の学びを得ました。知識だけでなく実際に福島にいることや現地の見学を通してその空気を肌で感じる必要性を感じました。被災者のことを考えずに放射線の知識を学んでも、それはただの知識だけであり、色々な意見を好き勝手にいう「なんちゃって専門家」を増やすだけなのかもしれません。災害看護を学んでいくにあたり、決して机上だけや論文だけで関わるのではなく、被災者や救援者・その他のたくさんの人の思いや関わりを通して学ばなければいけないと思いました。今後セミナーや勉強会を行う上でも大変参考になりました。



■診療放射線技師（神奈川県）

このセミナーを通して、放射線技師として他スタッフの疑問に適切に答えられなければならないこと、そして適切に線量を評価できなければならないことを痛感しました。「近くに原発もないし、被ばく医療機関でもないからうちには来ないだろう」と思っている職員がほとんどか、そもそも頭の片隅にもない職員の方が多いかもしれません。しかし、非破壊検査線源などの事故がいつ・どこで起こるかも分からないことを心にとめ、放射線技師としてサーベイメータを適切に使え、線量計算できるように準備と訓練を実施していかなければならないと思いました。

(2) 上級コース

■看護師（茨城県）

今回は、甲状腺スクリーニングについて考える時間を与えていただけたことが良かった。茨城県も原子力施設を多く抱え、さらに商業用原発として国内最である東海原発を抱えている。また、施設が多だけに事故報道も多くされている現状にある。大きな事故が発生した場合、住民の甲状腺スクリーニングへの関心が高くなると考えられる。も



し甲状腺スクリーニングについての意見を求められたときは、今回の研修で聞くことができた被災者としての気持ち、現状と医療者としての立場からの意見を伝えること大切になると思う。今回も参加することにより沢山の意見を聞け、そして自分の中で色々と考えることができた。このような研修を定期的に受けることが大切だと感じた。

■診療放射線技師（千葉県）

知っていたこと・知らなかったこと・知っていたつもりになっていたこと・イメージとは違っていたこと等、これまでに見聞きしてきたことを整理する機会になりました。また、物事を正しく捉えて決断・行動することの大切さを改めて学びました。自分の職場に戻ると福島のことを考える機会は減りますが、今回の講習で学んだ教訓を忘れないようにします。放射線被ばくを題材に、社会学的・心理学的側面にも焦点を当てる本セミナーは存在意義が高いと感じます。



(3) 県内医療従事者コース

■保健師（福島県）

震災7年目、保健業務3年目でやっと災害医療の研修に参加することが出来ました。日頃の業務対応の再確認と、今後に向けての確認が出来ました。

■栄養管理士（福島県）

放射線について、初めて学ぶことが出来ました。追々、理解を深めて、何かしら役に立てたらいいなと思います。



⑥ 放射線災害医療 e ラーニング

災害医療総合学習センターでは、2012年度に放射線災害医療 e ラーニングの開発を行い、2013年10月から県内の看護学生および医学生、看護師を中心とした医療従事者および当センターが主催した福島災害医療セミナー受講者、よろず健康相談に参加する医師に対して提供してきた。2014年からはスマートフォン用 e ラーニングを開発し、提供を開始した。

□職種別受講者数

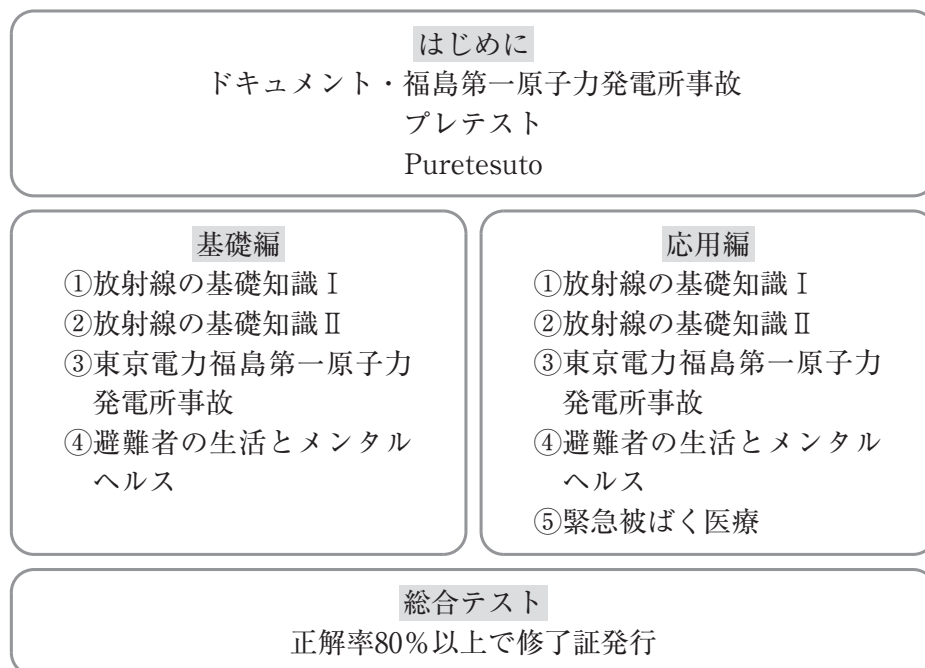
2013~2015年度 「医療人育成・支援センター年報2014-2015」 版参照

2016~2017年度 以下のとおり

| | 2016年度 | 2017年度 |
|---------|--------|--------|
| 看護学生 | 119 | 184 |
| 看護師・保健師 | 221 | 223 |
| 医学生 | 122 | 147 |
| 医師 | 36 | 30 |
| 薬剤師 | 2 | 0 |
| 診療放射線技師 | 40 | 28 |
| 臨床検査技師 | 2 | 2 |

| | 2016年度 | 2017年度 |
|---------|--------|--------|
| 臨床心理士 | 2 | 1 |
| 理学療法士 | 1 | 0 |
| 救急・消防関係 | 11 | 9 |
| 事務職 | 10 | 6 |
| その他（学生） | 58 | 3 |
| その他 | 6 | 10 |
| 総数 | 630 | 643 |

□内容



⑦ ベラルーシ共和国の医科大学との連携

チェルノブイリ原子力発電所事故（1986年）により甚大な放射性物質汚染を被ったベラルーシ共和国において、事故当時の対応およびその後の医学教育にあたってきたベラルーシ医科大学（ミンスク）とゴメリ医科大学の両校と本学は2013年9月に教育に関する連携協定を締結して以降、毎年各校各1名講師招聘（計6名）と、毎年1名の学生派遣を行ってきた。2017年度からは派遣希望者が増加したことを受け、派遣者が2名に増えている。この教育協定締結および人材交流事業について、当センターは中心になって担当してきた。

チェルノブイリ原発事故は、原発事故として史上最も厳しい影響を及ぼしたものであり、現地では原発作業員・除染従事者・住民それぞれの健康リスクに対応した施策が実施されている。チェルノブイリ周辺地域は、2011年の我が国の原発事故の25年前に起きたことであり、その教訓を学び続けることは、福島、そして世界の被ばく医療をより良いものにするに不可欠の取り組みである。

また、ゴメリ医科大学は事故後に設立された大学で、放射線健康リスクを踏まえた医学教育・住民教育のあり方についても意見交換を行っているところである。

【招聘実績】

2016年度：ミハイル・シャペーツカ（ベラルーシ医科大学）

シャーレイ・イワノフ（ゴメリ医科大学）

2017年度：タチアナ・パブロビッチ（ベラルーシ医科大学）

アナスタシヤ・サチコフスカヤ（ゴメリ医科大学）

【派遣実績】

2016年度：鈴木 知沙季（医学科4年）

2017年度：守屋 伶香 フローラ、千葉 菜々絵（医学科4年）

研究業績

論 文

[原著]

Tano T, Ono K, Hiratsuka Y, Otani K, Sekiguchi M, Konno S, Kikuchi S, Onishi Y, Takegami M, Yamada M, Fukuhara S, Murakami A. Retinal vessel diameters in a Japanese population : the Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study. *Acta Ophthalmologica*. 201609 ; 94 (6) : e 432- e 441.

Yoshida K, Orita M, Goto A, Kumagai A, Yasui K, Ohtsuru A, Hayashida N, Kudo T, Yamashita S, Takamura N. Radiation-related anxiety among public health nurses in the Fukushima Prefecture after the accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station : a cross-sectional study. *BMJ Open*. 201610 ; 6 (10) : e 013564.

Kato K, Yabuki S, Otani K, Nikaido T, Otoshi K, Watanabe K, Kikuchi S, Konno S. Unusual chest wall pain caused by thoracic disc herniation in a professional baseball pitcher. *Fukushima Journal of Medical Science*. 201606 ; 62 (1) : 64-67.

Kurita N, Horie S, Yamazaki S, Otani K, Sekiguchi M, Onishi Y, Takegami M, Ono R, Konno S, Kikuchi S, Fukuhara S. Low Testosterone Levels and Reduced Kidney Function in Japanese Adult Men : The Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study. *Journal of the American Medical Directors Association*. 201604 ; 17 (4) : 371. e1-6.

Sorimachi K, Ono Y, Kobayashi H, Watanabe K, Shinohara K, Otani K. Airway management in a patient with nuchal, interspinous, and flavum ligament rupture by a sickle : a case report. *Journal of Medical Case Reports*. 201606 ; 10 (1) : 172.

Kaneuchi Y, Hakozaiki M, Yamada H, Tajino T, Watanabe K, Otani K, Hojo H, Hasegawa T, Konno S. Primary dumbbell-shaped epidural myxoid liposarcoma of the thoracic spine : A case report and review of the literature. *Oncology Letters*. 201602 ; 11 (2) : 1421-1424.

Yoshida K, Shinkawa T, Urata H, Nakashima K, Orita M, Yasui K, Kumagai A, Ohtsuru A, Yabe H, Maeda M, Hayashida N, Kudo T, Yamashita S, Takamura N. Psychological distress of residents in Kawauchi village, Fukushima Prefecture after the accident at Fukushima Daiichi Nuclear Power Station : the Fukushima Health Management Survey. *PeerJ*. 201608 ; 4 : e 2353.

Shikama Y, Cao M, Ono T, Feng X, Noji H, Kimura H, Ogawa K, Suzuki Y, Ikeda K, Takeishi Y, Kimura J. Reduction of c-Fos via Overexpression of miR-34a Results in Enhancement of TNF- Production by LPS in Neutrophils from Myelodysplastic Syndrome Patients. PLOS ONE. 201608 ; 11 (8) : e 0158527.

Tominaga R, Fukuma S, Yamazaki S, Sekiguchi M, Otani K, Kikuchi S, Sasaki S, Kobayashi S, Fukuhara S, Konno S. Relationship Between Kyphotic Posture and Falls in Community-Dwelling Men and Women : The Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study. Spine. 201608 ; 41 (15) : 1232-1238.

Ohara Y, Ohto H, Tasaki T, Sano H, Mochizuki K, Akaihata M, Kobayashi S, Waragai T, Ito M, Hosoya M, Nollet KE, Ikeda K, Ogawa C, Kanno T, Shikama Y, Kikuta A. Comprehensive technical and patient-care optimization in the management of pediatric apheresis for peripheral blood stem cell harvesting. Transfusion and Apheresis Science. 201612 ; 33 (3) : 338-343.

安井清孝, 熊谷敦史, 吉田浩二. 災害医療研修における震災の新聞記事スライドショーを活用したモチベーション向上の試み. Japanese Journal of Disaster Medicine. 201602 ; 20 (3) : 529.

吉田浩二, 安井清孝, 熊谷敦史, 大津留晶. 福島県内保健師の放射線に関連した不安や認識調査. Japanese Journal of Disaster Medicine. 201602 ; 20 (3) : 588.

二階堂琢也, 矢吹省司, 大谷晃司, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 関口美穂, 紺野慎一. 生物心理社会モデルに基づいた痛みに対する科学的アプローチ 生物心理社会モデルに基づいた痛みに対する科学的アプローチ 慢性腰痛に対するリエゾンアプローチ. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 201609 ; 8 (2) : 192-198.

諸井陽子, 小林 元, 菅原亜紀子, 石川和信. 医療系学生・医療専門職が起こしたインターネット上のモラルハザード事例. 医学教育. 2016 ; 47 (3) : 185-187.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林 洋, 矢吹省司, 紺野慎一. 【骨折（四肢・脊椎 脊髄外傷）の診断と治療（その1）】 脊椎 脊椎椎体（頸椎・胸椎・腰椎） 軸椎歯突起骨折の治療経験. 別冊整形外科. 201610 ; (70) : 173-176.

本谷 亮, 小林 元, 菅原亜紀子, 諸井陽子, 石川和信. 被災地における模擬患者活動の動機、心理、日常生活への影響、自己評価. 日本シミュレーション医療教育学会雑誌. 2016 ; 4 : 79-84.

[過年業績]

Ishikawa S, Motoya R, Sasagawa S, Takahashi T, Okajima I, Takeishi Y, Essau CA. Mental health problems among undergraduates in Fukushima Tokyo and Kyoto after the March 11 Tohoku earthquake. *Tohoku Journal of Experimental Medicine*. 2015 ; 236 (2) : 115-122.

[総説等]

大谷晃司. 【慢性腰痛の診断と治療 update】 (Part 3) 臨床<診断> 腰部脊柱管狭窄症評価法. *Bone Joint Nerve*. 201610 ; 6 (4) : 731-743.

大谷晃司. 【運動器疼痛性疾患に対する薬物療法 update】 運動器疼痛性疾患に対するオピオイドの使い方. *整形・災害外科*. 201602 ; 59 (2) : 169-177.

本谷 亮, 二階堂琢也, 大谷晃司, 矢吹省司, 矢部博興, 紺野慎一. 【神経学的所見に乏しい腰痛の診断と治療】 神経学的所見に乏しい腰痛の診断と治療 腰痛教室. *ペインクリニック*. 201610 ; 37 (10) : 1269-1276.

過年業績

本谷 亮, 矢吹省司, 紺野慎一, 矢部博興. 【リエゾン精神医学の現状と今後の展望 (II)】 整形外科とリエゾン精神医学. *精神医学*. 201504 ; 57 (4) : 273-279.

[その他]

大谷晃司. 福島県の医師不足改善について私見. *FCOA NEWS*. 201602 ; 21 : 5 -6.

牛田享宏, 住谷昌彦, 大谷晃司. 中枢機能の障害による痛みを考える. *Practical Pain Management*. 201601 ; 6 (4) : 244-247.

大谷晃司. 腰痛は心で治る. *日刊ゲンダイ*. 201603 ; 2016年 3月23日 : 13面.

著書・訳書

Nakagawa A, Kanazawa J, Oshima F, Tsuchiyagaito A. Cognitive behavioural therapy for adults with obsessive-compulsive disorder and autism spectrum disorder : Influence of comorbidity and improvement of treatment outcomes. In : Menzies RG, Kyrios M, Kazantzis N, editors. *Innovations and Future Directions in the Behavioural and Cognitive Therapies*. Samford, Australia : Australian Academic Press ; 201606. p. 199-202.

大谷晃司, 牛田享宏. ぎっくり腰一問一答. In : TJ MOOK NHK あさイチ マガジン Vol. 2. 東京 : 宝島社 ; 201601. p. 14-15.

大谷晃司. 慢性腰痛がストレス減で治った例. In : TJ MOOK NHK あさイチ マガジン Vol. 2. 東京 : 宝島社 ; 201601. p. 29.

大谷晃司. どうして治らないの? 慢性腰痛の真実 骨盤から上に5番目までの骨の間で起こる. In : TJ MOOK NHK あさイチ マガジン Vol. 2. 東京 : 宝島社 ; 201601. p. 31.

大谷晃司. 慢性腰痛の代名詞 椎間板ヘルニアとは? In : TJ MOOK NHK あさイチ マガジン Vol. 2. 東京 : 宝島社 ; 201601. p. 32.

大谷晃司, 牛田享宏. 慢性腰痛一問一答. In : TJ MOOK NHK あさイチ マガジン Vol. 2. 東京 : 宝島社 ; 201601. p. 36-37.

大谷晃司. In : 菊地臣一 監修 丹羽真一, 大谷晃司, 笠原 諭 著. 長引く腰痛は“脳の錯覚”だった 名医が教える最新の腰痛改善・克服法. 東京 : 朝日新聞社 ; 201605.

[過年業績]

本谷 亮, 矢吹省司. 自宅でできる痛み解消法〈認知行動療法〉. In : 週刊朝日MOOK 首腰ひざのいい病院 : 2016. 東京 : 朝日新聞出版 ; 2015. p. 58-63.

本谷 亮 (訳). 第3章 慢性痛の治療 15. 慢性痛に対する認知行動療法の適用. In : 柴田政彦, 北原雅樹 監訳. 慢性痛－統合的心理行動療法－(訳本) Chronic Pain : An integrated Biobehavioral Approach. Washington DC, USA : IASP (国際疼痛学会) ; 2015. p. 350-372.

研究発表等

[研究発表]

Igari T, Otani K, Sekiguchi M, Seki S, Tominaga R, Kobayashi Y, Kameda T, Kaneuchi Y, Sato R, Konno S. Change in Dural Sac Cross-sectional Area with Symptomatic Lumbar Spinal Stenosis : 10-year Community Follow-up. ISSLS2016 International Society for the Study of the Lumbar Spine ; 20160516 ; Singapore.

Kato K, Otoshi K, Yabuki S, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kobayashi H, Tominaga R,

Kikuchi S, Konno S. Asymmetrical lumbar spine facet joint osteoarthritis and spondylolysis in professional baseball players. ISSLS 2016 International Society for the Study of the Lumbar Spine ; 20160516 ; Singapore.

Kobayashi H, Tanji H, Kato K, Watanabe K, Nikaido T, Otani K, Yabuki S, Kikuchi S, Konno S. Anatomical characteristics of lumbo-sacral nerve root and furcal nerve with 3.0-tesla MR neurography. ISSLS 2016 International Society for the Study of the Lumbar Spine ; 20160516 ; Singapore.

Nikaido T, Otani K, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Yabuki S, Kikuchi S, Konno S. Vertical instability of translation segment and decompression surgery outcomes in degenerative lumbar spondylolisthesis. ISSLS 2016 International Society for the Study of the Lumbar Spine ; 20160516 ; Singapore.

Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Yabuki S, Kikuchi S. Cross-sectional study for MRI findings and low back pain in the community. ISSLS 2016 International Society for the Study of the Lumbar Spine ; 20160516 ; Singapore.

Tschiyagaito A, Oshima F, Asano K, Nagaoka S, Miyata H, Kunou M, Hirano Y, Shimizu E, Nakagawa A. Clinical Predictors of Response to Cognitive Behavioral Treatment for Obsessive-Compulsive Disorder with and without Autism Spectrum Disorder. 8th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies ; 20160622-25 ; Melbourne, Australia.

Tschiyagaito A. How Does Developmental Disorder Influence the Treatment Outcome of Cognitive Behavioral Therapy ? Clinical Characteristics Associated with Comorbid Obsessive-Compulsive Disorder and Autism Spectrum Disorder. 31st International Congress of Psychology ; 20160724 -29 ; Yokohama.

Kobayashi H, Nikaido T, Kato K, Watanabe K, Otani K, Yabuki S, Kikuchi S, Konno S. Thoracic pyogenic spondylitis with severe diabetes mellitus and malnutrition treated by antero-posterior fusion with a percutaneous pedicle screw and video-assisted thoracic surgery : A case report. PASMIS 2016 Minimal Invasive Spine Surgery ; 20160812 ; Bali, Indonesia.

Nikaido T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Otani K, Yabuki S, Konno S. Complication of Minimally invasive spinal stabilization (MIST) for spinal trauma and tumor. PASMIS 2016 Minimal Invasive Spine Surgery ; 20160812 ; Bali, Indonesia.

Watanabe K, Nikaido T, Kato K, Kobayashi H, Otani K, Yabuki S, Kikuchi S, Konno S. The Relationship between Postoperative Neck Symptoms and Range of Laminoplasty in the Patients with Cervical Ossification of The Posterior Longitudinal Ligament. PASMIS 2016 Minimal Invasive Spine Surgery ; 20160812 ; Bali, Indonesia.

Ishikawa Kazunobu, Shuto Taichi, Ito Masahiro, Komatsu Hiroyuki, Moroi Yoko, Hirohashi Kazuhiro. Medical Students Simlympic Games, the first team-based clinical skills competition event in Japan. AMEE 2016 Association for Medical Education in Europe ; 20160829 ; Barcelona, Spain. AMEE 2016 Abstract book. # 3 HH16 (134961).

Moroi Yoko, Kobayashi Gen, Sugawara Akiko, Ishikawa Kazunobu. Unprofessional behaviors in the use of social media by medical students and healthcare professionals in Japan. AMEE 2016 Association for Medical Education in Europe ; 20160830 ; Barcelona, Spain. AMEE 2016 Abstract book. # 7 O 3 (132093).

Kobayashi H, Kikuchi S, Otani K, Sekiguchi M, Sekiguchi Y, Konno S. Development of a self-administered questionnaire to screen patients for cervical myelopathy. 37th SICOT Orthopaedic World Congress ; 20160908 ; Rome, Italy.

Watanabe K, Otani K, Nikaido T, Kato K, Kobayashi H, Sekiguchi M, Yabuki S, Kikuchi S, Konno S. Usefulness of quality of life scale specific for lumbar spinal stenosis : Evaluation of surgical efficacy. 37th SICOT Orthopaedic World Congress ; 20160908 ; Rome, Italy.

大谷晃司. 整形外科関連の慢性疼痛と抑うつ症状との関連. 第84回松戸市整形外科医会 ; 20160120 ; 松戸.

二階堂琢也, 菊地臣一, 大谷晃司, 渡邊和之, 加藤欽志, 志田 努, 小林 洋, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する選択的除圧術 術前評価と手術成績. 第26回東北脊椎外科学会 ; 20160130 ; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 59 (1) : 40.

小林一貴, 加藤欽志, 矢吹省司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林 洋, 紺野慎一. 小児の胸髄硬膜外血腫の1例. 第26回東北脊椎外科学会 ; 20160130 ; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 59 (1) : 235.

小林 洋, 加藤欽志, 渡邊和之, 二階堂琢也, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一, 佐藤勝彦, 関根拓未, 丹治 一. MR Neurographyを用いた腰仙椎部神経根障害の画像診断. 第26回東北脊椎外科学会

会；20160130；仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 59（1）：244.

二階堂琢也, 渡邊和之, 志田 努, 加藤欽志, 小林 洋, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 胸腰椎外傷に対するMIStによる手術部位感染の治療経験－3例報告－. 第7回日本MISt研究会；20160221；仙台.

Cao M, Shikama Y, Kimura H, Noji H, Ogawa K, Takeishi Y, Kimura J. Mechanism of attenuated migration of neutrophils in myeloid splastic syndromes. 第89回日本薬理学会年会；20160309；横浜.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林 洋, 関口美穂, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 新規に開発された腰部脊柱管狭窄症状スケールの有用性 手術症例における検討. 第45回日本脊椎脊髄病学会学術集会；20160414-16；千葉. Journal of Spine Research. 7（3）：213.

大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 圧迫性頸髄症に対する後方手術の術後成績 術前BS-POPはその治療成績を予測できるか？第45回日本脊椎脊髄病学会学術集会；20160414-16；千葉. Journal of Spine Research. 7（3）：517.

加藤欽志, 大歳憲一, 矢吹省司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林 洋, 富永亮司, 菊地臣一, 紺野慎一. プロ野球選手における腰椎終末期分離と椎間板変性はどちらがより競技生活に影響するか？腰痛による競技離脱による検討. 第45回日本脊椎脊髄病学会学術集会；20160414-16；千葉. Journal of Spine Research. 7（3）：535.

小林 洋, 丹治 一, 加藤欽志, 渡邊和之, 二階堂琢也, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. MR Neurographyを用いた腰仙椎神経根の解剖学的特徴. 第45回日本脊椎脊髄病学会学術集会；20160414-16；千葉. Journal of Spine Research. 7（3）：553.

二階堂琢也, 菊地臣一, 大谷晃司, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰椎変性すべり症に対する選択的除圧術の有用性と限界の検証 JOABPEQの経時的変化からみた前向き研究. 第45回日本脊椎脊髄病学会学術集会；20160414-16；千葉. Journal of Spine Research. 7（3）：616.

小林 洋, 佐藤勝彦, 関根拓未, 丹治 一, 加藤欽志, 渡邊和之, 二階堂琢也, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. MR Neurographyを用いた腰仙部神経根障害の画像診断. 第39回福島脊椎脊髄疾患研究会；20160423；郡山.

加藤欽志, 大歳憲一, 矢吹省司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林 洋, 菊地臣一, 紺野慎一. 野球選手における胸椎黄色靭帯骨化症の頻度と実態. 第89回日本整形外科学会学術総会; 20160512-15; 横浜. 日本整形外科学会雑誌. 90 (2): S 92.

渡邊和之, 関口美穂, 福間真悟, 紙谷 司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 富永亮司, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 成人脊柱矢状面アライメント異常とうつの関連 Locomotive syndrome and health outcome in Aizu cohort study (LOHAS). 第89回日本整形外科学会学術総会; 20160512-15; 横浜. 日本整形外科学会雑誌. 90 (2): S 196.

大谷晃司, 菊地臣一, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 紺野慎一. 一般住民における MRI 上の所見と腰痛との関係 横断研究. 第89回日本整形外科学会学術総会; 20160512-15; 横浜. 日本整形外科学会雑誌. 90 (2): S 200.

二階堂琢也, 関口美穂, 福間真悟, 紙谷 司, 渡邊和之, 加藤欽志, 富永亮司, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 脊柱矢状面アライメントと睡眠障害の関連 Locomotive syndrome and health outcome in Aizu cohort study (LOHAS). 第89回日本整形外科学会学術総会; 20160512-15; 横浜. 日本整形外科学会雑誌. 90 (2): S 624.

大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄症の術後満足度に関する因子の検討 経時的变化. 第89回日本整形外科学会学術総会; 20160512-15; 横浜. 日本整形外科学会雑誌. 90 (2): S 889.

富永亮司, 福間真悟, 関口美穂, 大谷晃司, 菊地臣一, 福原俊一, 紺野慎一. 一般地域住民の胸椎後彎と転倒の関連性における男女差の検討. 第89回日本整形外科学会学術総会; 20160512-15; 横浜. 日本整形外科学会雑誌. 90 (2): S 897.

小野 玲, 竹上未紗, 大谷晃司, 山崎 新, 関口美穂, 紺野慎一, 菊地臣一, 福原俊一. 腰部脊柱管狭窄症はメタボリックシンドロームのリスク要因である LOHAS による 6 年後の縦断解析. 第89回日本整形外科学会学術総会; 20160512-15; 横浜. 日本整形外科学会雑誌. 90 (2): S 1083.

小林 元, 菅原亜紀子, 諸井陽子, 石川和信. 医学部オープンキャンパスにおけるシミュレーション医療体験プログラム企画. 第7回東北シミュレーション医学教育研究会; 20160514; 福島.

石川和信, 菅原亜紀子, 小林 元, 諸井陽子, 本谷 亮. 模擬患者参加型医療面接シミュレーション教育から見た高齢患者医療職関係の問題点. 第58回日本老年医学会学術集会; 20160610; 金沢. 日本老年医学会雑誌. 53 (Suppl.): 137.

加藤欽志, 大歳憲一, 矢吹省司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林 洋, 菊地臣一, 紺野慎一. アスリートの腰痛 120%の状態フィールド復帰を支援する アスリートにおける腰下肢痛の診断 診断的ブロックによる疼痛分析. 第8回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会; 20160728-30; 福岡. JOSKAS. 41 (4): 116.

諸井陽子, 小林 元, 菅原亜紀子, 石川和信. ソーシャルメディア利用のための医療人向けチェックリスト作成の試み. 第48回日本医学教育学会大会; 20160729; 高槻. 医学教育. 47 (Suppl.): 140.

菅原亜紀子, 本谷 亮, 諸井陽子, 小林 元, 石川和信. 模擬患者との医療面接実習における医学生の自己評価の特徴. 第48回日本医学教育学会大会; 20160730; 高槻. 医学教育. 47 (Suppl.): 148.

小林 元, 菅原亜紀子, 諸井陽子, 本谷 亮, 齋藤拓朗, 石川和信. 卒後3年次専門診療科選択と卒前腹腔鏡下手術シミュレーション学習での器用さとの関連. 第48回日本医学教育学会大会; 20160730; 高槻. 医学教育. 47 (Suppl.): 174.

片岡茉莉子, 鈴木七生, 井本麻美子, 長島智春, 菊池栄作, 斉藤詩帆, 斉藤優衣, 伊藤葉月, 前田都秋, 亀岡弥生, 大谷晃司, 蓮沼直子, 小宮ひろみ. 女性医師の幸せって何だろう? 第48回日本医学教育学会大会; 20160729-30; 高槻. 医学教育. 47 (Suppl.): 268.

守屋伶香フローラ, 田中奏多, 町田萌子, 及川 孔, 柳澤貴裕, 米倉一磨, 関根英治, 大谷晃司. 東日本大震災の被災者に対する Photovoice の実践について. 第48回日本医学教育学会大会; 20160729-30; 高槻. 医学教育. 47 (Suppl.): 274.

池田ゆき, 旗野将貴, 奥村一輝, 石綿 翔, 藤巻 光, 伊藤百花, 村澤朋世, 末永佳奈子, 福地雄仁, 伊藤 愛, 熊谷敦史, 大谷晃司. 放射線についてより多くの人に知ってもらうためには 学園祭の展示での経験. 第48回日本医学教育学会大会; 20160729-30; 高槻. 医学教育. 47 (Suppl.): 279.

齋藤優衣, 四宮 翼, 関根 萌, 志賀麻寿美, 西山沙織, 末永佳奈子, 石井三千花, 大谷晃司. 災害医療系サークル Fukushima WILL の今後の目指す方向性 「東日本大震災から5年目を迎えて」. 第48回日本医学教育学会大会; 20160729-30; 高槻. 医学教育. 47 (Suppl.): 279.

嶋貫佳奈子, 小早川義貴, 田治明宏, 大谷晃司. 福島災害医療セミナー エマルゴ理解のための「エマダロ」トレーニング. 第48回日本医学教育学会大会; 20160729-30; 高槻. 医学教育. 47 (Suppl.): 279.

加藤欽志, 大歳憲一, 矢吹省司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林 洋, 菊地臣一, 紺野慎

一. 腰痛の機能的病態診断への挑戦 あきらめたときが非特異的腰痛 プロ野球選手における腰部障害の病態評価への挑戦 診断的ブロックの有用性. 第42回日本整形外科スポーツ医学会学術集会; 20160916-18; 札幌. 日本整形外科スポーツ医学会雑誌. 36 (4): 466.

加藤欽志, 大歳憲一, 矢吹省司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林 洋, 菊地臣一, 紺野慎一. スポーツに伴う脊髄障害の病態と治療 アスリートにおける黄色靭帯骨化症野球選手を中心に. 第42回日本整形外科スポーツ医学会学術集会; 20160916-18; 札幌. 日本整形外科スポーツ医学会雑誌. 36 (4): 470.

尾形 浩, 阿部 理, 小野委成, 三坂眞元, 亀岡弥生, 木村純子. 緑茶摂取がフルバスタチンの体内動態に及ぼす影響. 第26回日本医療薬学会年会; 20160918; 京都.

菅原亜紀子, 小林 元, 諸井陽子, 石川和信. 医学部臨床実習での診療能力獲得のためのOJTとシミュレーション学習の役割. 第4回日本シミュレーション医療教育学会学術大会; 20160924; 浜松.

阿部 理, 三坂眞元, 尾形 浩, 小野委成, 亀岡弥生, 木村純子. 健常人においてエピガロカテキンガレートの単回投与はナドロールの体内動態を変動させる. 第67回日本薬理学会北部会; 20160930; 札幌.

三坂眞元, 阿部 理, 尾形 浩, 小野委成, 色摩弥生, 木村純子. 健常人において緑茶およびカテキンはフルバスタチンの体内動態に影響しない. 第67回日本薬理学会北部会; 20160930; 札幌.

土屋垣内晶, 堀内 聡, 川乗賀也, 平野好幸, 五十嵐透子, 中川彰子, 矢部博興. Hoarding Rating Scale 日本語版の信頼性と妥当性の検討 Web 調査を活用したためこみ行動の重症度評価. 第42回日本認知・行動療法学会大会; 20161008-10; 徳島. 42回プログラム・抄録集. 275-276.

二階堂琢也, 矢吹省司, 関口美穂, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 大谷晃司, 紺野慎一. 器質的疾患を有する運動器慢性痛患者の運動習慣 痛みの破局的思考・QOL との関係. 第9回日本運動器疼痛学会; 20161126-27; 東京. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 8 (3): S54.

阿部 理, 三坂眞元, 尾形 浩, 小野委成, 亀岡弥生, 矢部博興, 木村純子. 健常人における茶カテキン摂取量とナドロール体内動態の変動との関連. 第37回日本臨床薬理学会学術集会; 20161202; 米子.

三坂眞元, 阿部 理, 尾形 浩, 小野委成, 色摩弥生, 木村純子. 健常人において緑茶がフルバスタチンの体内動態に及ぼす影響. 第37回日本臨床薬理学会学術集会; 20161202; 米子.

[過年業績]

宇佐神里美, 曾田恵美, 松本貴智, 山岸良平, 本谷 亮, 矢部博興. 選択性緘黙を呈した女兒への母親同席の遊戯療法 分離不安に着目して. 第26回福島県精神医学会学術大会; 20150222; 福島. 福島医学雑誌. 65 (4): 254-255.

佐藤千紘, 三浦 至, 松本貴智, 本谷 亮, 山岸良平, 矢部博興. 「今・ここ」の介入により面接状況が変化した自閉症スペクトラム障害を抱える成人男性の心理療法過程. 第26回福島県精神医学会学術大会; 20150222; 福島. 福島医学雑誌. 65 (4): 255.

田所真英, 松村行雄, 松本貴智, 本谷 亮, 山岸良平, 矢部博興. 福島県立医科大学附属病院心身医療科ショートケア利用登録者の参加状況と予後との関連について. 第26回福島県精神医学会学術大会; 20150222; 福島. 福島医学雑誌. 65 (4): 256.

本多忠勝, 増子博文, 松本貴智, 本谷 亮, 矢部博興. 父親的役割を取り入れたケースマネジメントの試み. 第26回福島県精神医学会学術大会; 20150222; 福島. 福島医学雑誌. 65 (4): 256-257.

志賀可奈子, 堀越 翔, 松本貴智, 本谷 亮, 矢部博興. 摂食障害患者との描画交換を通じた心理療法的アプローチ. 第26回福島県精神医学会学術大会; 20150222; 福島. 福島医学雑誌. 65 (4): 260-261.

山岸良平, 松本貴智, 本谷 亮, 畠山 毅, 矢部博興. 自閉症スペクトラム障害が基盤にあり強迫的行動のみられる青年に対する介入 母子並行面接での介入. 日本認知・行動療法学会第41回大会; 20151002-04; 仙台. プログラム・抄録集. 41: 92-93.

金澤潤一郎, 土井理美, 戸田愛貴子, 大内世思也, 本谷 亮, 堀内 聡, 高垣耕企, 安藤孟梓, 関口真有, 佐藤真澄, 原田 浩, 福澤信之, 和田吉生, 坂野雄二, 平野哲夫. 術前の生体腎移植レシピエントの認知歴評価と気分状態の関連. 第22回日本行動医学会; 20151016; 仙台.

本谷 亮, 村椿智彦, 服部朝美, 堀内 聡, 中島 愛, 金澤 素, 福土 審. 東日本大震災被災者の生活習慣病に対して保健師が実践する保健指導の実際と抱える問題点: 予備的研究. 第22回日本行動医学会; 20151016; 仙台.

大内世思也, 戸田愛貴子, 土井理美, 金澤潤一郎, 本谷 亮, 堀内 聡, 高垣耕企, 安藤孟梓, 関口真有, 佐藤真澄, 原田 浩, 福澤信之, 和田吉生, 坂野雄二, 平野哲夫. 生体腎移植における臓器提供者の対処方略と抑うつ症状の関連. 北海道心理学会第62回大会; 20151129; 石狩.

戸田愛貴子, 大内世思也, 土井理美, 金澤潤一郎, 本谷 亮, 堀内 聡, 高垣耕企, 安藤孟梓, 関口真有, 佐藤真澄, 原田 浩, 福澤信之, 和田吉生, 坂野雄二, 平野哲夫. 生体腎移植ドナーが移植前に持つ不安の内容と対処方略との関連. 北海道心理学会第62回大会; 20151129; 石狩.

菅原亜紀子, 本谷 亮, 小林 元, 諸井陽子, 西條 聡, 仲江川雄太, 中島 大, 安井清孝, 吉田浩二, 石川和信. 入院中の患者-医療者間で問題となるコミュニケーション~模擬患者の視点から~. 第6回東北シミュレーション医学教育学会; 20151212; 福島.

本谷 亮, 二階堂琢也, 松本貴智, 紺野慎一, 矢部博興. Fear-avoidance modelに基づく認知行動療法が奏功した慢性疼痛患者の一例. 第8回日本運動器疼痛学会; 20151212-13; 名古屋. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 7 (3): S88.

[シンポジウム]

Nakagawa A, Tsuchiyagaito A, Kanazawa J, Oshima F. CBT for Adults with Obsessive-Compulsive Disorder and Autism Spectrum Disorder: How Does Comorbidity Influence, and How Can We Improve Treatment Outcome? 8th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies; 20160622-25; Melbourne, Australia.

二階堂琢也, 菊地臣一, 大谷晃司, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 矢吹省司, 紺野慎一. 非特異的腰痛の基礎と臨床 非特異的腰痛の臨床像 心理社会的要因と脳画像の特徴. 第45回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20160414-16; 千葉. Journal of Spine Research. 7 (3): 192.

二階堂琢也, 矢吹省司, 大谷晃司, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 菊地臣一, 紺野慎一. Pain-source 別の腰痛の特徴 神経根性腰痛の臨床像. 第89回日本整形外科学会学術総会; 20160512-15; 横浜. 日本整形外科学会雑誌. 90 (2): S336.

大谷晃司. 新鮮骨折・偽関節・椎体圧壊に対する治療の考え方②. 第131回北海道整形災害外科学会; 20160605; 函館.

二階堂琢也, 菊地臣一, 大谷晃司, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林 洋, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰痛症の病態と治療 非器質性腰痛の診断と治療. 第65回東日本整形災害外科学会; 20160922-23; 箱根. 東日本整形災害外科学会雑誌. 28 (3): 202.

大谷晃司. 非特異的腰痛に対する整形外科医の考え方と対応. 第20回日本統合医療学会; 20161224; 仙台. 日本統合医療学会誌. 9 (3): 320.

[過年業績]

本谷 亮. 被災者の抱える諸問題と支援の実際. 日本認知・行動療法学会第41回大会；20151002-04；仙台.

本谷 亮. 中長期支援でみられるメンタルヘルス問題－福島の現状と課題を中心に－. 第22回日本行動医学会；20151016-17；仙台.

[特別講演]

大谷晃司. 難治性慢性疼痛の治療－リエゾン診療の実際とその成果－. 第84回松戸市整形外科医会；20160120；松戸.

大谷晃司. 福島県で医師を育てる～現状とその対策. 第3回みんなで守る地域医療講演会；20160124；白河.

大谷晃司. 運動器慢性疼痛の治療の実際. 愛媛県痛みの治療講演会；20160303；松山.

大谷晃司. 東日本大震災とそれに引き続く放射線問題へ対応－福島医大附属病院の場合－. 第50回佐賀脊椎研究会；20160318；佐賀.

大谷晃司. 私の骨粗鬆症の治療－理論と実践－. 第4回初雁医会；20160326；川越.

大谷晃司. 運動器の慢性疼痛治療の考え方. 痛みとOAフォーラム in 福島；20160507；福島.

大谷晃司. 骨粗鬆症診療の現状と今後の方向性. 福島市臨床整形外科医の会；20160623；福島.

大谷晃司. 運動器の慢性疼痛に対する私の治療. 浦和医師会学術講演会；20160629；浦和.

大谷晃司. 運動器疼痛に対する治療の考え方. 第5回郡山運動器フォーラム；20160806；郡山.

大谷晃司. 脊椎脊髄疾患の病態把握と術式選択－福島医大整形外科における－. 中国地区脊椎症例検討会；20160820；広島.

大谷晃司. 脊椎の痛み・しびれに対する各種保存療法. 第6回脊椎の痛みを学ぶ会in九州；20161015；福岡.

大谷晃司. 慢性疼痛に対する薬物治療－デュロキセチンを中心に－. 福島県北慢性疼痛セミナー；

20161111；福島.

大谷晃司. 慢性疼痛の病態と治療. 米沢医師会学術講演会；20161124；米沢.

大谷晃司. 慢性疼痛に対する薬物治療－デュロキセチンを中心に－. いわき市慢性疼痛セミナー；
20161130；いわき.

【過年業績】

本谷 亮. すやすや快眠講座 ～心地よい眠りのために～. 平成26年度いわき市平地区健康増進事業
；20150130；いわき.

本谷 亮. 精神科看護に活かすための認知行動療法の基礎知識と技術を学ぶ. 平成26年度日本精神科
看護協会福島県支部第5回支部研修会；201502；福島.

本谷 亮. 運動器慢性疼痛に対する認知行動療法. 第6回膝とオピオイドの会；201508；東京.

本谷 亮. ストレスとの上手な付き合い方 ～こころとからだを楽にするヒント～. 平成27年度福島
市こころの健康づくりセミナー；20150912；福島.

本谷 亮. なぜなぜ？慢性腰痛講座 ～こころの悲鳴が、痛みにつながる～. 平成27年度いわき市平
地区健康増進事業；201512；いわき.

医療人育成・支援センター
年報2016－2017年度

2019年1月発行

編集 公立大学法人
福島県立医科大学 医療人育成・支援センター

〒960－1295 福島県福島市光が丘1番地
Tel 024－547－1713
Fax 024－547－1715

発行所 株式会社 山川印刷所
福島県福島市庄野字清水尻1－10

C M E C D

医療人育成・支援センター
Biennial Report
年報 2016▶2017年度



公立大学法人
福島県立医科大学